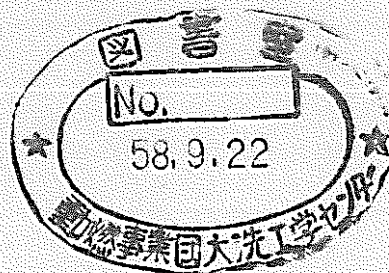


# EXPRESS 試験データ管理検索システムの開発

技術資料コード	
開示区分	レポートNo.
T	N941 83-96
この資料は 図書室保存資料です 閲覧には技術資料閲覧票が必要です	
動力炉・核燃料開発事業団大洗工学センター技術管理室	

1983年6月



動力炉・核燃料開発事業団  
大洗工学センター

複製又はこの資料の入手については、下記にお問い合わせください。

〒311-13 茨城県東茨城郡大洗町成田町4002

動力炉・核燃料開発事業団

大洗工学センター システム開発推進部・技術管理室

Enquires about copyright and reproduction should be addressed to: Technology Management Section O-arai Engineering Center, Power Reactor and Nuclear Fuel Development Corporation 4002 Narita-cho, O-arai-machi, Higashi-Ibaraki, Ibaraki-ken, 311-13, Japan

動力炉・核燃料開発事業団 (Power Reactor and Nuclear Fuel Development Corporation)

## EXPRESS 試験データ管理検索システムの開発

富田 康信\*, 三村 賀紀\*, 大滝 明\*  
小杉 敏夫\*, 土屋 毎雄\*

### 要 旨

50 MW 蒸気発生器試験施設 (50 MW SGTF) で収録された試験データを統一的に管理・検索・利用することを目的として, 50MWSGTF 試験データ管理検索システム EXPRESS (Experimental Data Management and Retrieval System) を開発した。本システムは, 以下に示す 3 種類の機能別サブシステムから構成される。

- (1) 試験データ処理蓄積用サブシステム
- (2) データ管理検索用サブシステム
- (3) 代表点データ時系列出力用サブシステム

これらの各サブシステムにより, 最新データの蓄積, 既存データの修正・検索, 試験概況の把握等を行なうことができ, 大量の試験データを有効かつ迅速に利用することが可能となった。

本システムは, 大洗工学センタ計算資料室の FACOM M シリーズ計算機を用いて, TSS あるいは TSS 配下のバッチジョブとして動作する。

また本システムを多項目の管理検索機能を必要とする他のシステムへ適用することも可能である。

---

\* 大洗工学センター, 高速炉機器開発部, システム設計開発室

## EXPRESS, 50MW SGTF Experimental Data Management and Retrieval System

Y. Tomita\*, Y. Mimura\*, A. Ohtaki\*,  
T. Kosugi\* and T. Tsuchiya\*

### Abstract

EXPRESS, 50 MW Steam Generator Test Facility Experimental Data Management and Retrieval System, was developed for the purpose of systematic utilization of experimental data acquired at the facility. This system consists of three kinds of functional subsystem as follows;

- (1) subsystem to accumulate experimental data into the data base.
- (2) subsystem to manage or retrieve the data base.
- (3) subsystem to figure some typical process values from a set of operating data in time series.

These subsystems accumulate up-to-the-minute data, modify or refer corresponding records and grasp experimental conditions. It becomes possible to utilize many experimental data effectively and timely with the aid of EXPRESS.

EXPRESS is executed in foreground or in background under the control of TSS on FACOM M-series computers system of O-arai Engineering Center, PNC, and is applicable to other systems.

---

\* System Development Section, FBR Systems & Component Division,  
O-arai Engineering Center, PNC

## 目 次

1. まえがき	1
2. 開発の経緯	2
2.1 50 MW SGTF 試験データ管理検索システム開発の企画	2
2.2 既存検索システムの調査	2
2.3 TSS 配下での専用管理検索システムの開発	3
3. 50MW SGTF 試験データ管理検索システム	5
3.1 システム構成	5
3.2 データファイル	7
3.2.1 データ累積用ファイル	7
3.2.2 検索キー用インデックスファイル	10
4. データ管理検索サブシステム	13
4.1 概 要	13
4.2 データ管理検索サブシステム使用法	14
4.2.1 サブシステムの起動	14
4.2.2 命令体系	14
4.2.3 管理検索項目	14
4.2.4 サブシステムの終了	14
4.3 データ管理検索サブシステム命令	21
4.3.1 CREATE コマンド	21
4.3.2 DUMP コマンド	22
4.3.3 EDIT コマンド	22
4.3.4 END コマンド	25
4.3.5 HELP コマンド	25
4.3.6 LIST コマンド	25
4.3.7 LOGING コマンド	26
4.3.8 MODIFY コマンド	26
4.3.9 QUIT コマンド	30
4.3.10 SEARCH コマンド	30
4.3.11 STATUS コマンド	35
4.4 ユーザ・レベル	36
4.5 履歴情報	36
4.5.1 概略履歴	36

4.5.2	詳細履歴	37
4.6	ブロードキャスト・メッセージ	37
4.7	エラー・メッセージ	37
4.8	バッチジョブによるDUMPコマンドの実行	41
5.	50 MW SGT F 試験データ編集MT作成サブシステム	43
5.1	概 要	43
5.2	編集MT用バージョンMT登録ファイル	45
5.3	編集MT作成手順	47
5.3.1	編集MT作成サブシステムの起動	47
5.3.2	編集MT作作用JCL創成プログラム使用法	47
5.3.3	編集MT作成プログラムの起動	50
5.3.4	一般事項	50
5.3.5	実行例	50
5.4	メッセージ	53
5.5	外部記憶装置	59
5.6	関連プログラム	60
5.7	関連カタログファイル	62
5.8	EXPRESSに管理されない編集MT作成方法	62
6.	補助冷却系評価試験ACSLOGMT複写サブシステム	64
6.1	概 要	64
6.2	ACSLOGMT複写用バージョンMT登録ファイル	66
6.3	ACSLOGMT複写手順	68
6.3.1	ACSLOGMT複写サブシステムの起動	68
6.3.2	MT複写用JCL創成プログラム使用法	68
6.3.3	MT複写プログラムの起動	70
6.3.4	一般事項	70
6.3.5	実行例	71
6.4	メッセージ	74
6.5	外部記憶装置	74
6.6	関連プログラム	75
6.7	関連カタログファイル	77
7.	代表点データ時系列出力サブシステム	78
7.1	概 要	78
7.2	代表点データ時系列出力サブシステム使用方法	79

7.2.1	サブシステムの起動	79
7.2.2	命令の概要	79
7.2.3	代表点時系列データ項目	79
7.2.4	図形出力フォーマット	79
7.2.5	サブシステムの終了	80
7.3	代表点データ時系列出力サブシステム命令	80
7.3.1	LOAD コマンド	80
7.3.2	PLOT コマンド	81
7.3.3	SIZE コマンド	81
7.3.4	TITLE コマンド	82
7.3.5	SPLOT コマンド	82
7.3.6	PRINT コマンド	82
7.3.7	LIST コマンド	83
7.3.8	INDEX コマンド	83
7.3.9	END コマンド	83
7.4	図形出力例	83
7.5	代表点時系列データファイル	85
8.	あとがき	86
	謝 辞	87
	参考文献	88
付録A	データベース処理用ルーチンDBUPDT	89
付録B	データ蓄積状況	107
付録C	50 MW SGTF 試験データ集録MTフォーマット	111
付録D	50 MW SGTF 計算機 RTC マルチプレクサ入力一覧	128

## 図 リ ス ト

図 3.1	50 MW SGTF データ管理検索システムの構成	6
図 4.1	データ管理検索サブシステムにおけるデータの流れ	17
図 4.2	EXPRESS 登録 50 MW SGTF 運転データ	20
図 5.1	編集MT 作成手順	44
図 6.1	ACSLOGMT 複写手順	65
図 7.1	代表点データ時系列出力サブシステムの流れ	78
図 7.2	代表点時系列データ図形出力例	84



## 表 リ ス ト

表 3.1	データ累積用ファイル属性	7
表 3.2	検索キー用インデックスファイル属性	10
表 4.1	データ管理検索サブシステムコマンド一覧	15
表 4.2	データ管理検索項目	18
表 4.3	CREATE モードファンクションキー機能	21
表 4.4	ユーザレベル	36
表 4.5	バッチジョブによる DUMP コマンド実行例	42
表 5.1	編集MT用バージョンMT登録ファイルの内容	46
表 5.2	編集MT作成ジョブの ATTR パラメータ	50
表 5.3	編集MT作成用 JCL 創成例	51
表 5.4	編集MT作成用 JCL 例	52
表 5.5	編集MT/ACSLOG コピーMT作成用 JCL 創成時のメッセージ	54
表 5.6	編集MT/ACSLOG コピーMT作成時のメッセージ	57
表 5.7	外部記憶装置の論理基盤番号	59
表 5.8	編集MT作成用 JCL 創成コマンドプロシジユア	61
表 5.9	一時的な編集MT作成のための JCL 例	63
表 6.1	ACSLOGMT 複写用バージョンMT登録ファイルの内容	67
表 6.2	ACSLOGMT 複写用 JCL 創成例	72
表 6.3	ACSLOGMT 複写用 JCL 例	73
表 6.4	外部記憶装置の論理基盤番号	74
表 6.5	ACSLOGMT 複写用 JCL 創成コマンドプロシジユア	76
表 7.1	代表点データ時系列出力サブシステムコマンド一覧	79
表 7.2	標準フォーマット出力の図示項目	80
表 7.3	代表点時系列データファイル属性	85
表 7.4	代表点時系列データファイル内容	85

## 1 ま え が き

50MW蒸気発生器試験施設(50MWSGTF)では、1974年6月の運転開始以来数多くの試験が実施され、それらのデータを記録した磁気テープは既に約3000本に達している。さらにその半数については、試験結果の評価、検討用の磁気テープを作成して大洗工学センターの計算資料室に保管し利用している。50MWSGTFでの試験は今後も続けられ、磁気テープの数は増加する。

これらに記録されたデータは、50MWSGTFの運転経験、開発された解析コード群、解析結果とならんで貴重な財産であり、「もんじゅ」、実証炉等の開発に有効利用されなければならない。

従来これら磁気テープの管理方法は統一されておらず、有効かつ迅速に利用できる体制には必ずしもなっていなかった。このため、新規データの蓄積、既存データの検索、更新等の機能を持つ試験データ管理検索システム(EXPRESS, Experimental data management and Retrieval System)を開発した。

## 2 開発の経緯

### 2.1 50MWSGTF 試験データ管理検索システム開発の企画

本システム開発にあたり、現状の分析とシステムの基本設計を行なった。本システムに備えられるべき機能は以下の通りである。

- (1) 端末からのリアルタイムな検索および検索ファイルの更新が容易に行なえること。
- (2) エンドユーザが容易に利用できること。
- (3) 保護機能を有すること。
- (4) 多項目の検索が可能であること。
- (5) データファイル保守機能を有すること。
- (6) データの蓄積が容易に行なえること。
- (7) 今後のシステム改良、機能追加が容易であること。
- (8) 他のデータファイルへの適用が容易であること。

### 2.2 既存検索システムの調査

調査の対象としたシステムは、FAIRS II, QUERY (以上、富士通), COMARID および SMAT である。各システムについて、その概要と本システムに適用した場合の問題点について以下に述べる。

#### (1) FAIRS II<sup>(1)</sup>

FAIRS II は、主として AIM データベースの数値情報を対象とした対話型情報検索システムであり、検索、検索後のデータ加工およびレポート作成の 3 機能が基本となっている。

上記のように、FAIRS II は AIM データベースが構築されていることが前提条件である。すなわち、各種の業務が互いにデータを共用したシステムで、しかも AIM で構築されているものであれば、これらを対象とした検索システムに対し FAIRS II を利用することは有効であろう。しかし、本システムでは検索対象は比較的単純であるにもかかわらず、AIM データベースの設計、構築、保守のための作業が要求される。さらに、端末から対話型で AIM データベースを更新するプログラムを別に開発する必要がある。また、AIM データベースはユーザから見た計算機負荷が大きいとも言われている。

#### (2) QUERY<sup>(2)</sup>

「QUERY は、一般ファイルや AIM データベースに対して問い合わせを行なうシステムである。TSS 下で検索を行ない。突発的に要求されるデータ検索に手軽に対処でき、データベースの構造を知らないものでも容易にデータを取り出すことができる。QUERY はプログラミングやデバッグ作業なしに、必要とする情報の即時照会が可能なように開発されており、生産性の向上および情報を入手するためのターンアラウンドタイム短縮に貢献するものと思われる。」これは富

士通が掲げる QUERY の特徴である。

QUERY の利用法は、以下の通りである。

- (i) ファイルのレコード形式やアイテムの属性をファイル毎あるいは AIM データベースのサブスキーマ毎にあらかじめ定義する。
- (ii) INTERACT<sup>(3)</sup> の配下で QUERY のコマンドを利用する。INTERACT は TSS、バッチ双方で動作する。
- (iii) 入力はコマンド形式であり、検索の手順は単一項目毎に条件を設定し、順次対象とするレコードを見つけ出す方法がとられる。

前述のとおり、QUERY は種々のファイルに対して問い合わせができる汎用性を持ち、突発的に要求されるデータの検索に対しては、有効なツールである。

しかし、ファイル自体は検索効率を上げるような設計とはなっておらず、レコード件数が多い場合のターンアラウンドタイムは良くない。こうした理由から、エンドユーザが特定の検索ファイルに対して様々な検索を行なうという今回の目的には合致しない。

さらに、FAIRS II と同様に、ファイル更新用の対話型プログラムの開発が必要である。

### (3) COMARID<sup>(4)</sup>

COMARID は、委託により三菱総合研究所が開発した会話型情報文献管理検索システムである。

このシステムは文献検索用で、データ項目は文献に関するものを定型フォームに従って入力する方法が採られている。

### (4) SMAT<sup>(5)</sup>

SMAT は、委託によりファコムハイタックが開発した FBR 構造材料試験データバンキングシステムで、そのオンライン部分は会話型データ解析システム AXEL の持つ機能を利用している。

このシステムは試験データのバンキングシステムで、バッチによるデータのチェックと蓄積、TSS によるデータの検索と図形出力が主な機能で、実行には約 1 MB の記憶容量が必要である。また、データの更新には現在のところ直接 AXEL のデータを修正する方法がとられている。

## 2.3 TSS 配下での専用管理検索システムの開発

以上のような現状分析と調査をふまえ、基本となるべき検索データファイルの作成を行ない、QUERY による検索を実施した。これにより、以下の経験を得た。

- (1) 1,000 件を越えるデータに対しては検索効率が悪く、特定の検索ファイルで各種の検索を行なうには適していない。
- (2) QUERY の持つ多くの機能のうちの一部しか利用できない。
- (3) 定形処理を含めてコマンドプロシジューアにより QUERY を実行するためには、約 0.5 MB 以

上の記憶容量を必要とし、大洗計算センター定めているTSSの標準では動作しない。

(4) データ蓄積，更新等の管理機能が無い。

このため，本システムに要求される機能を満足し，さらにその効率を高めるためには，専用の管理検索システムを開発することが最も適しているとの結論に達した。

### 3 50MWSGTF 試験データ管理検索システム

#### 3.1 システム構成

50MWSGTF 試験データ管理検索システム EXPRESS の構成を図 3.1 に示す。各サブシステムの機能は以下の通りである。

1) データ管理検索サブシステム

2 種類のファイル（データ累積用ファイルと検索キー用インデックスファイル）を検索することにより、データの検索、追加および修正を会話型で実行する。

2) 編集MT作成サブシステム

50MWSGTF 試験データMT（動特性MT<sup>(6)</sup>）から編集MTを作成すると同時に、データ管理検索サブシステムには必要な項目を自動登録し、代表点時系列データを蓄積する。

3) ACSLOGMT 複写サブシステム

補助冷却系評価試験データMT（ACSLOGMT）から複写MTを作成すると同時に、データ管理検索サブシステムに必要な項目を自動登録し、代表点時系列データを蓄積する。

4) 代表点データ時系列出力サブシステム

編集MT作成サブシステムおよびACSLOGMT複写サブシステムで蓄積された50MWSGTFの運転状態を示す代表点時系列データを会話型で図形出力する。

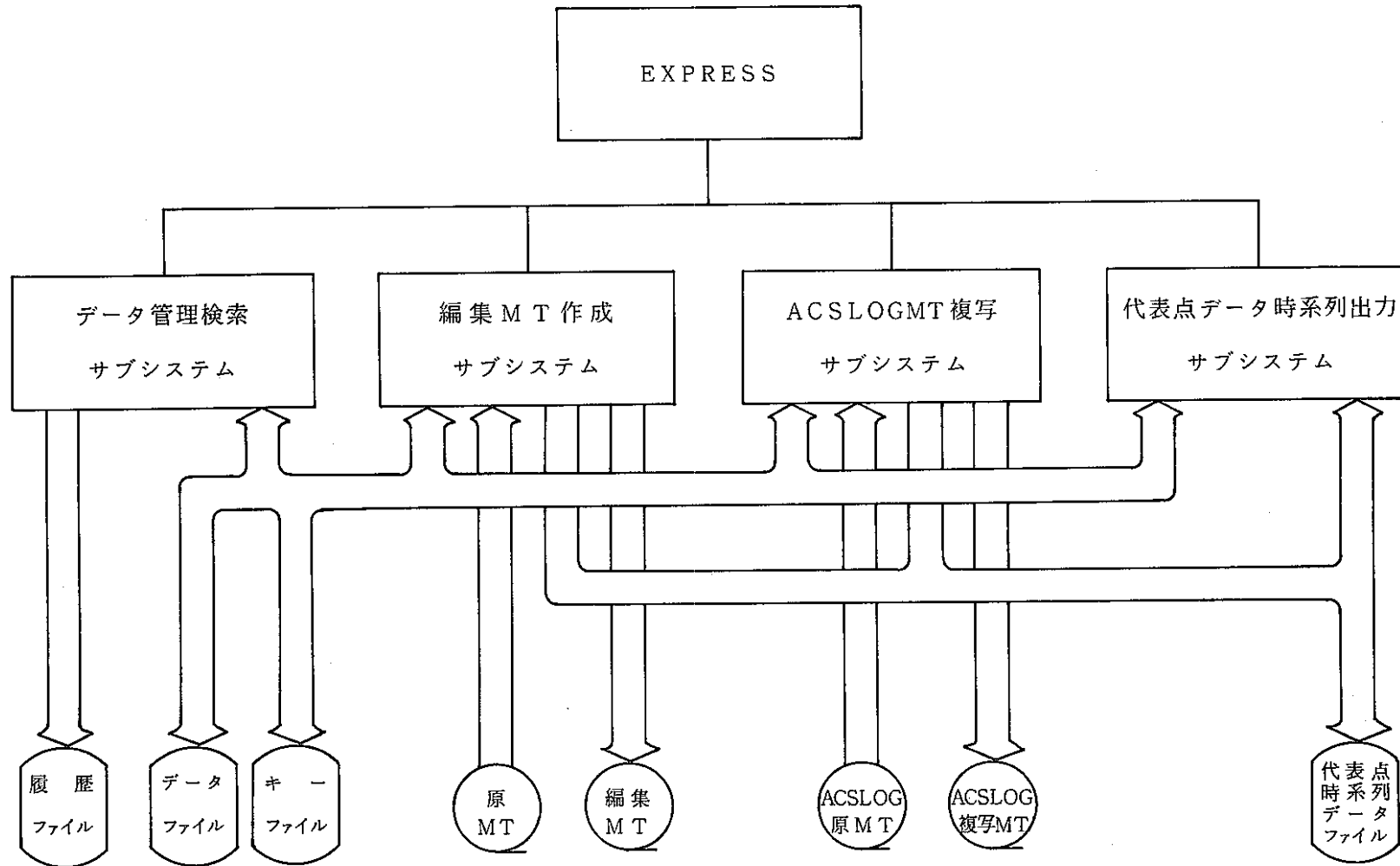


図 3.1 50 MW SGTFデータ管理検索システムの構成

### 3.2 データファイル

データファイルは、次の点を考慮し作成されている。

- 1) データベースファイルへのアクセス時間を少なくすること。
- 2) 複数端末から同時にアクセスが可能であること。
- 3) 他のプログラムからのデータベースファイルへのアクセスが容易に可能であること。
- 4) 検索対象となるキーは、56項目全てとする。

上記の条件から、データファイルは、データ累積用のファイルと検索キー用のインデックスの2種類が作成されている。両ファイルは共に直接編成ファイルで、ファイルへのアクセスは専用サブルーチン(DBUPDT)により行なう。DBUPDTの使用法等については、付録Aを参照のこと。

#### 3.2.1 データ累積用ファイル

データ累積用ファイルは、試験番号毎に全項目を1レコードとして作成されており、同一原MT番号を持つ間の相対位置はGROUP番号で識別される。表3.1にファイルの属性を示す。

表 3.1 データ累積用ファイル属性

データセット編成	DA (直接編成)
レコードフォーマット	F (固定長)
最大レコード長	255
最大レコード数	10000

データは、全て文字型式作成されている。各レコードの234カラム以降は未使用であり、今後のデータ追加等に使用することが可能である。

以下にレコード内のフォーマットを示す。



項目	内 容	桁数	カラム	備 考
GROUP	グループ番号	2	1 - 2	同一原MT内の試験番号順
OMTNO	原MT番号	7	3 - 9	#0-0000
ODATE	試験年月日	6	10 - 15	YYMMDD
TIMEST	原MT収録開始時刻	4	16 - 19	HHMM
TIMEEN	原MT収録終了時刻	4	20 - 23	HHMM
EXPNO	試験番号	15	24 - 38	
CATEGO	試験分類	4	39 - 42	
F11005	IHX1次系入口ナトリウム流量	3	43 - 45	
F11007	コールドバイパスナトリウム流量	3	46 - 48	
F11008	ホットバイパスナトリウム流量	3	49 - 51	
F11009	クーラバイパスナトリウム流量	3	52 - 54	
T11007	IHX1次系入口ナトリウム温度	3	55 - 57	
T11008	IHX1次系出口ナトリウム温度	3	58 - 60	
T11011	1次系空気冷却器出口ナトリウム温度	3	61 - 63	
S11001	1次系NaP回転数	4	64 - 67	
F12002	SG入口ナトリウム流量	3	68 - 70	
F12003	SGバイパスナトリウム流量	3	71 - 73	
F23001	SHバイパスナトリウム流量	3	74 - 76	
T12001	IHX2次系入口ナトリウム温度	3	77 - 79	
T23001	SH入口ナトリウム温度	3	80 - 82	
T23002	SH出口ナトリウム温度	3	83 - 85	
T23004	EV入口ナトリウム温度	3	86 - 88	
T23003	EV出口ナトリウム温度	3	89 - 91	
S12001	2次系NaP回転数	4	92 - 95	
F13021	EV給水流量	3	96 - 98	
F13022	EV給水流量	3	99 - 101	
T27001	EV給水温度	3	102 - 104	
T27002	EV出口蒸気温度	3	105 - 107	
T27003	SH入口蒸気温度	3	108 - 110	
T27004	SH出口蒸気温度	3	111 - 113	
P27010	EV給水圧力	3	114 - 116	
F51001	ACS空気冷却器入口空気風量	3	117 - 119	

項 目	内 容	桁数	カラム	備 考
T51006	ACS空気冷却器出口空気温度	3	120-122	
F50001	ACS空気冷却器出口ナトリウム流量	3	123-125	
F50002	ACS空気冷却器出口ナトリウム極少流量	3	126-128	
T50002	ACS空気冷却器出口ナトリウム温度	3	129-131	
OLBL	原MTラベル型式	2	132-133	
OKEEP	原MTセンター管理番号	6	134-139	
OLOCK	原MTセンターロッカー番号	5	140-144	
EVOL	編集MTボリューム通番	6	145-150	
EDEN	編集MT記録密度	1	151-151	
ELBL	編集MTラベル型式	2	152-153	
EKDATE	編集MT登録年月日	6	154-159	YYMMDD
EKEEP	編集MTセンター管理番号	6	160-165	
ELOCK	編集MTセンターロッカー番号	5	166-170	
ECDATE	編集MT作成年月日	6	171-176	YYMMDD
FILE	マルチファイル番号	1	177-177	
DSN	マルチファイルデータセット名	9	178-186	
TREC	代表点時系列データ記録位置	5	187-191	
UPDATE	データベース更新年月日	6	192-197	YYMMDD
DOCU	報告書データ集番号	10	198-207	
COMENT	コメント	15	208-222	
TMSER	初期値及び時系列データ書き込みプラグ	2	223-224	
T11001	1次NaP出口ナトリウム温度	3	225-227	
T11006	コールドバイパスミキシングティ入口 ナトリウム温度	3	228-230	
T11010	1次系空気冷却器入口ナトリウム温度	3	231-233	

3.2.2 検索キー用インデックスファイル

検索キー用インデックスファイルは、指定されたキーでファイルの検索を行う場合ファイルのアクセス時間を少なくすることを目的として作成された。このファイルは、試験毎のデータを1レコードとするのではなく、特定のキー（項目）に対応するデータのみをまとめ項目のみで1レコードを構成している。特定のキー（項目）に対するレコードのレコード数は、キーの大きさにより異なり、最小19レコード、最大278レコードとなる。また先頭のレコードには、レコード件数、最終修正年月日等の補助的なデータも記録されている。データベース検索プログラムで検索を行う場合、常に検索キー用インデックスファイルよりデータ累積用ファイルでのレコード位置を調べることにより行っている。

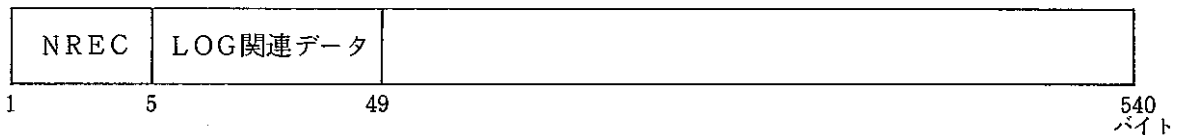
表 3.2 にファイルの属性を示す。

表 3.2 検索キー用インデックスファイル属性

データセット編成	D A (直接編成)
レコードフォーマット	F (固定長)
最大レコード長	540
最大レコード数	4000

1) 先頭レコード

先頭レコードは、先頭の4 byte にデータ累積用ファイルのレコード形数が Integer の4 byte で記録されている。



NREC : レコード件数 ( Integer \* 4 )

2) 項目レコード

各レコードには、同一項目のデータが可能なかぎり繰り返し記録されている。

キー（項目）により文字型データのもの、整数型のバイトのものがある。以下にキー（項目）別のレコードの開始位置及びデータの書式を示す。

項 目	レコード開始位置	レコード数	レコード当りの デ ー タ 数	データのタイプ
GROUP & OMTNO	2	150	67	文字型8バイト
ODATE	152	112	90	文字型6バイト
TIMEST	264	75	135	文字型4バイト
TIMEEN	339	75	135	"
EXPNO	414	278	36	文字型15バイト
CATEGO	692	75	135	文字型4バイト
F11005	767	38	370	整数型2バイト
F11007	805	"	"	"
F11008	843	"	"	"
F11009	881	"	"	"
T11007	919	"	"	"
T11008	957	"	"	"
T11011	995	"	"	"
S11001	1033	"	"	"
F12002	1071	"	"	"
F12003	1109	"	"	"
F23001	1147	"	"	"
T12001	1185	"	"	"
T23001	1223	"	"	"
T23002	1261	"	"	"
T23004	1299	"	"	"
T23003	1337	"	"	"
S12001	1375	"	"	"
F13021	1413	"	"	"
F13022	1451	"	"	"
T27001	1489	"	"	"
T27002	1527	"	"	"
T27003	1565	"	"	"
T27004	1603	"	"	"
P27010	1641	"	"	"
F51001	1679	"	"	"
T51006	1717	"	"	"

項 目	レコード開始位置	レコード数	レコード当りの デ ー タ 数	データのタイプ
F50001	1755	38	270	整数型2バイト
F50002	1793	"	"	"
T50002	1831	"	"	"
OLBL	1869	"	"	文字型2バイト
OKEEP	1907	112	90	文字型6バイト
OLOCK	2019	93	108	文字型5バイト
EVOL	2112	112	90	文字型6バイト
EDEN	2224	19	540	文字型1バイト
ELBL	2243	38	270	文字型2バイト
EKDATE	2281	112	90	文字型6バイト
EKEEP	2393	112	90	"
ELOCK	2505	93	108	文字型5バイト
ECDATE	2598	112	90	文字型6バイト
FILE	2710	19	540	文字型1バイト
DSN	2729	167	60	文字型9バイト
TREC	2896	93	108	文字型5バイト
UPDATE	2989	112	90	文字型6バイト
DOCU	3101	186	54	文字型10バイト
COMENT	3287	278	36	文字型15バイト
TMSER	3565	38	270	文字型2バイト
T11001	3603	38	270	整数型2バイト
T11006	3641	38	270	"
T11010	3679	38	270	"

## 4 データ管理検索サブシステム

### 4.1 概 要

本サブシステムは、50MWSGTFデータ管理用に作成された2種類のファイル(データ累積用ファイル、検索キー用インデックスファイル)を検索することにより、データの検索、追加及び修正をTSS配下で会話型により実行するためのプログラムである。プログラムは、FACOM FORTRANとASSEMBLERで作成されている。プログラムでは、TSSのコマンドプロシジャー等は用いず、ファイルの割り当て及びリストの出力は、プログラムが内部で処理し、直接システムに依頼する形をとっている。

プログラムは、データ表示モジュール、検索モジュール、データ修正モジュール及び保守用モジュールから構成されている。

以下に各モジュールの機能を示す。

1) データ表示モジュール

指定されたグループ番号及び原MT番号よりファイルを検索し、データを画面上に表示する。

2) 検索モジュール

任意のキー(項目)を指定することにより項目に一致するレコードのみを表示する。

3) データ修正モジュール

原MT番号に特定のレコードを選択し、そのレコードを選択し、そのレコードの修正を行う。

また新しい原MT番号の登録を行う。

4) 保守モジュール

システムの保守及びファイル内容のラインプリンターへの出力等を行う。

本プログラムは完全な会話室で作成されており、利用者は必要に応じて端末より適当なコマンドを入力することにより処理を行う。

以下に示すコマンドが使用でき、さらに各コマンド内でサブコマンドが用意されている。

1) 表示用: LIST

2) 検索用: SEARCH

3) 修正用: CREATE, MODIFY, EDIT

4) 保守用: DUMP, LOGING, STATUS

5) その他: HELP, END, QUIT

## 4.2 データ管理検索サブシステム使用方法

### 4.2.1 サブシステムの起動

サブシステムの起動はTSSセッション内で下記のTSSコマンドにより行なう。

```
CALL 'Q201#.EXPRESS.LOAD(EXP)'
```

画面上にコマンドモードであることを示す==>が表示された後、対話型式で必要に応じた各コマンドを入力することができる。

### 4.2.2 命令体系

サブシステム内で使用できる命令の機能一覧を表4.1に示す。また、各コマンド、サブコマンドの関係とデータの流れを図4.1に示す。

画面上へのモード表示は以下のようになされる。

- 1) コマンド・モード： ==>
- 2) SEARCHモード： SH>
- 3) MODIFYモード： MD>
- 4) EDITモード： ED>

また、各命令における命令とオペランドの区切りは、

- 1) 1つ以上の空白
- 2) 1つのカンマ( , )
- 3) 1つ以上の空白に囲まれる1つのカンマ

によってなされる。

### 4.2.3 管理検索項目

管理検索項目は表4.2に示す59項目で、それぞれ項目名(Key)により指定する。同表中項目名の太字は短縮形を表わす。また、項目中施設の運転条件データを図4.2に示す。

### 4.2.4 サブシステムの終了

サブシステムの終了には、コマンドモードでENDまたはQUITコマンドを入力するが、サブコマンドモードでQUITサブコマンドを入力する。

表 4.1 データ管理検索サブシステムコマンド一覧

分類	コマンド名	サブコマンド名	機能
検 索	SEARCH		SEARCHモードにし、検索を可能にする。
		CLEAR	作業領域を消去する。
		DELETE	条件に一致するレコードを作業領域から削除する。
		END	SEARCHモードを終了させ、コマンドモードにする。
		HELP	SEARCHモードの各サブコマンドの機能および使用方法を表示する
		LIST	検索結果を表示する。
		LOAD	条件に一致するレコードを作業領域に追加する。
		QUIT	SEARCHモードを終了させ、TSSのコマンド・モードに戻る。
		PRINT	検索結果をラインプリンタに出力する。
		RECORD	検索件数と原MT番号を表示する。
RESTORE	作業領域の内容を最後に投入した作業領域変更サブコマンド投入前の状態に戻す。		
SELECT	条件に一致するレコードを作業領域に残す。		
修 正	CREATE		CREATEモードにし、原MT単位の登録あるいは修正を可能にする。本コマンドはフルスクリーンで動作する。
		(PF3) (PF7) (PF8) (ENTER)	データを更新せずに、CREATEモードを終了させ、コマンドモードにする。 画面を上に移動させる。 画面を下に移動させる。 データを更新し、CREATEモードを終了させ、コマンドモードにする。
	MODIFY		MODIFYモードにし、原MT単位の修正を可能にする。
		ADD CHANGE DELETE DELGRP END EXPNO HELP	試験番号を追加する。 データを修正する。 試験番号を削除する。 全試験番号を削除する。 MODIFYモードを終了させ、コマンドモードにする。 試験番号を修正する。 MODIFYモードの各サブコマンドの機能および使用方法を表示する。



分類	コマンド名	サブコマンド名	機能
修正 (続き)	(MODIFY)	LIST	作業領域上のデータを表示する。
		QUIT	MODIFYモードを終了させ、TSSのコマンドモードに戻る。
		UPDATE (SAVE)	データファイルを更新する。
		VERIFY	修正されたデータの再表示機能を制御する。
	EDIT		EDITモードにし、レコード単位の登録あるいは修正を可能にする。
		CHANGE	データを修正する。
		CLEAR	作業領域のデータを消去する。
		END	EDITモードを終了させ、コマンドモードにする。
		HELP	EDITモードの各サブコマンドの機能および使用法を表示する。
		LIST	作業領域上のデータを表示する。
		QUIT	EDITモードを終了させ、TSSのコマンドモードに戻る。
		SAVE	データファイルを更新する。
		VERIFY	修正されたデータの再表示機能を制御する。
表示	LIST		データファイルの特定の内容を表示する。
保守	DUMP		ラインプリンタに管理台帳を出力する。
	LOGING		履歴情報の収集機能を制御する。
	STATUS		データファイルの履歴概要を表示する。
その他	END		本サブシステムを終了させ、TSSコマンドモードに戻る。
	HELP		コマンドの機能および使用法あるいは項目名を表示する。
	QUIT		本サブシステムを終了させ、TSSコマンドモードに戻る。

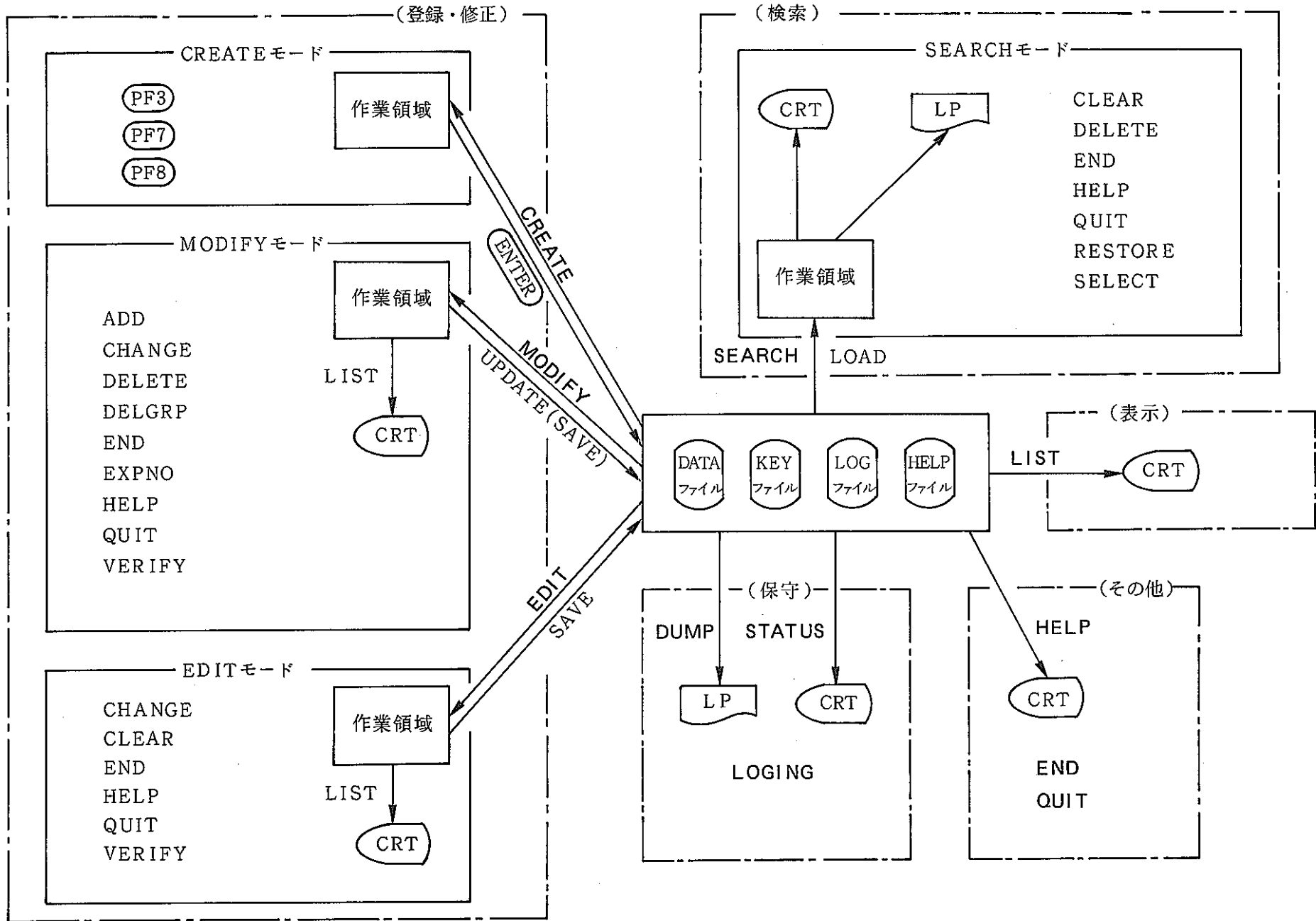


図 4.1 データ管理検索サブシステムにおけるデータの流れ

表 4.2 データ管理検索項目

注) 太字は短縮形を表わす

項目名	内 容	桁	値	備 考
GROUP	グループ番号	2	I	同一原MT内の試験番号順
OMTNO	原MT番号	7	A	#〇-〇〇〇〇
SG	SG番号	2	A	OMTNOの上2桁(検索のみ)
SERNO	通し番号	4	I	OMTNOの下4桁(検索のみ)
ODATE	試験年月日	6	I	YYMMDD
TIMEST	原MT収録開始時刻	4	I	HHMM
TIMEEN	” 終了 ”	4	I	HHMM
EXPNO	試験番号	15	A	
BEXPNO	”	—	A	EXPNOの入力文字数分(検索のみ)
CATEGO	試験分類	4	A	
OLBL	原MTラベル型式	2	A	'SL' または' '
OKEEP	” センタ管理番号	6	A	
OLOCK	” ロッカ番号	5	A	
EVOL	編集MTボリューム通番	6	A	
EDEN	” 記録密度	1	A	
ELBL	” ラベル型式	2	A	'SL' または' '
EKDATE	” 登録年月日	6	I	YYMMDD
EKEEP	” センタ管理番号	6	A	
ELOCK	” ロッカ番号	5	A	
ECDATE	” 作成年月日	6	I	YYMMDD
FILE	” ファイル番号	1	I	
DSN	” データセット名	9	A	
DOCU	報告書 データ集番号	10	A	
COMENT	コメント	15	A	
TMSER	初期値および時系列データ書込フラグ	2	A	
TREC	時系列データ書込位置	5	I	
UPDATE	データベース更新年月日	6	A	YYMMDD (自動更新)

表 4.2 データ管理検索項目 ( 続き )

項目名	内 容	桁	値	備 考
F 11005	IHX 1次系入口ナトリウム流量	3	I	t/h ( 0 / 1500 )
F 11007	コールドバイパス "	3	I	" ( " )
F 11008	ホット " "	3	I	" ( 0 / 300 )
F 11009	クーラ " "	3	I	" ( " )
T 11001	1次NaP出口ナトリウム温度	3	I	℃ ( 0 / 600 )
T 11006	コールドバイパスミキシングティール入口 "	3	I	" ( " )
T 11007	IHX 1次系入口 " "	3	I	" ( " )
T 11008	" 出口 " "	3	I	" ( " )
T 11010	1次系空気冷却器入口 "	3	I	" ( " )
T 11011	" 出口 "	3	I	" ( " )
S 11001	1次系NaP回転数	4	I	rpm ( 0 / 2000 )
F 12002	SG入口ナトリウム流量	3	I	t/h ( 0 / 1500 )
F 12003	" バイパス "	3	I	" ( 0 / 750 )
F 23001	SHバイパス "	3	I	m <sup>3</sup> /h ( 0 / 1200 )
T 12001	IHX 2次系入口ナトリウム温度	3	I	℃ ( 0 / 600 )
T 23001	SH入口 "	3	I	" ( " )
T 23002	" 出口 "	3	I	" ( " )
T 23004	EV入口 "	3	I	" ( " )
T 23003	" 出口 "	3	I	" ( " )
S 12001	2次系NaP回転数	4	I	rpm ( 0 / 2000 )
F 13021	EV給水流量	3	I	t/h ( 0 / 100 )
F 13022	" ( 極少流量 )	3	I	" ( 0 / 25 )
T 27001	EV給水温度	3	I	℃ ( 0 / 600 )
T 27002	出口蒸気温度	3	I	" ( " )
T 27003	SH入口 "	3	I	" ( " )
T 27004	出口 "	3	I	" ( " )
P 27010	EV給水圧力	3	I	kg/cm <sup>2</sup> G ( 0 / 200 )
F 51001	補助冷却系空気冷却器入口空気風量	3	I	mmAq ( 0 / 100 )
T 51006	" 出口空気温度	3	I	℃ ( 0 / 600 )
F 50001	" 出口ナトリウム流量	3	I	m <sup>3</sup> /h ( 0 / 100 )
F 50002	" " " 極少流量	3	I	" ( 0 / 10 )
T 50002	" " ナトリウム温度	3	I	℃ ( 0 / 600 )

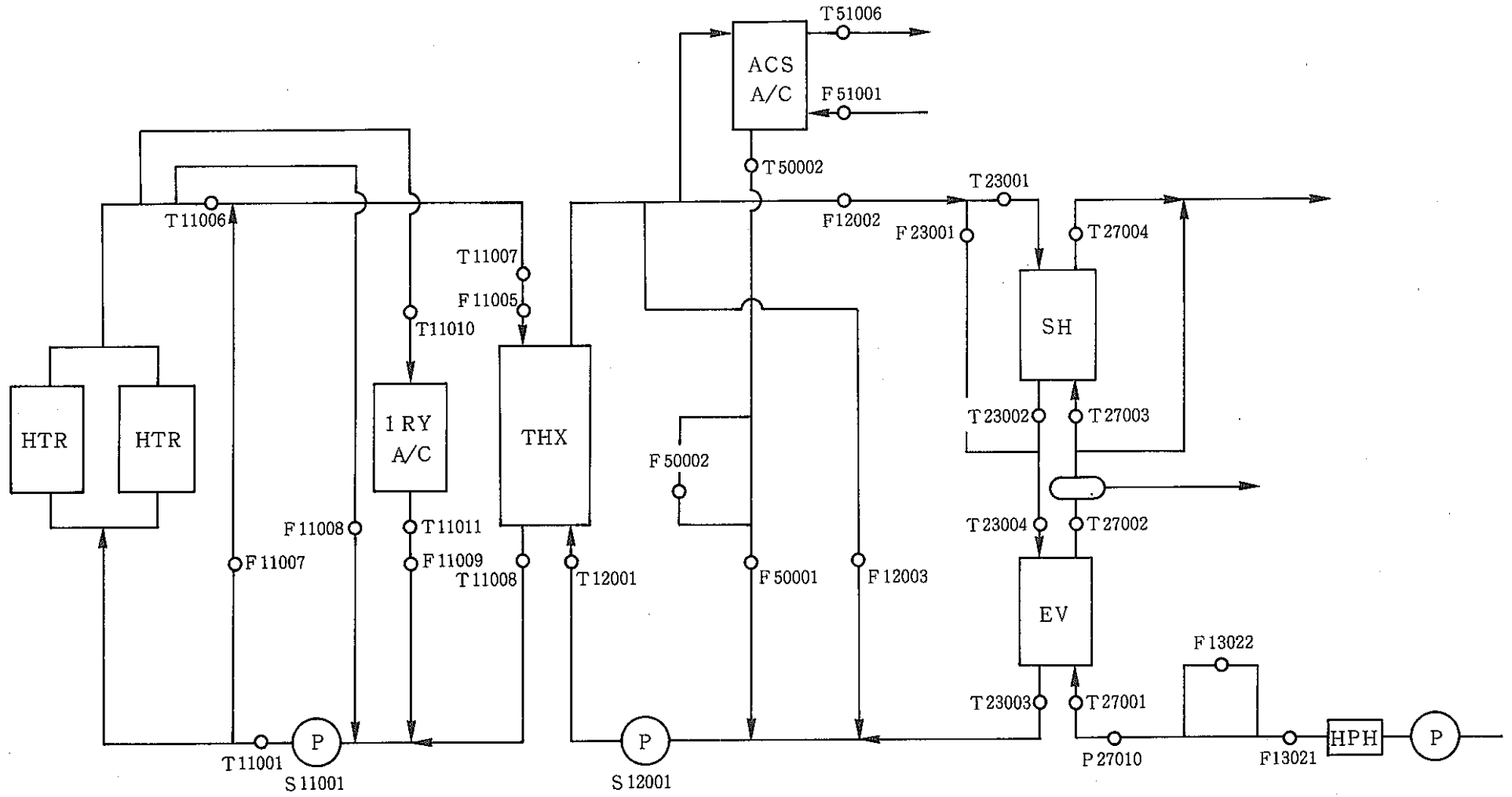


図 4.2 EXPRESS 登録 50 MW SGTF 運転データ

### 4.3 データ管理検索サブシステム命令

#### 4.3.1 CREATE コマンド

CREATE コマンドは、プログラムをCREATE モードにする。このコマンドはブロックモードで動作可能な端末でのみ使用可能である。CREATE モードで入力可能なデータは次のものである。

ODATE (試験年月日)  
 TIMEST (原MT収録開始時刻)  
 TIMEEN (原MT収録終了時刻)  
 CATEGO (試験分類)  
 OKEEP (原MTセンター管理番号)  
 OLOCK (原MTセンターロッカー番号)  
 DOCU (報告書, データ集番号)  
 COMENT (コメント)  
 EXPNO (試験番号)

CREATE omtno

omtno : 原MT番号 (# n - nnnn)

(注: 太字は短縮形を表わす。以下各コマンドの説明についても同様である。)

CREATE モードは、フルスクリーンモードで動作するため、他のモードの様なサブコマンドは、作成されておらず、それらの機能はファンクションキーに割り当てられている。表 4.3 に CREATE モードで定義されているファンクションキーの機能を示す。

表 4.3 CREATE モードファンクションキー機能

ファンクションキー	機能
PF3	データを更新せずに、CREATE モードを終了する。
PF7	画面を上を移動させる (↑)
PF8	画面を下を移動させる (↓)
ENTER	データを更新し、CREATE モードを終了する。

(使用例)

CREATE #2-0850

CR #2-0850

## 4.3.2 DUMP コマンド

DUMP コマンドはデータのダンプリストをラインプリンターに出力するためのコマンドである。

```
DUMP { omtno          } [DEST(id)][CLASS(class)]
      { REC#  n1 n2  }
      { ALL          }
```

omtno : 原MT番号

n1,n2 : データベースでの記録番号 ( $n1 \leq n2$ )

id : RJE 端末名

class : 出力クラス

原MT番号を指定した場合、指定された原MT番号を持つレコードのみが出力される。

REC# (記録番号) が指定された場合  $n1 \sim n2$  の記録番号に相当するデータが出力される。ただし  $n1 \leq n2$  でなければならない。ALL が指定された場合、全てのレコードが出力される。

DESTのパラメータで出力先を指定可能である。省略された場合、SG50となる。

CLASSのパラメータで出力クラスを指定可能である。省略された場合、Rとなる。

## 〔使用例〕

```
DUMP      #2-0850
DUMP      REC#          240          1697
DUMP      ALL          DEST(CENTRAL)
```

## 〔注意事項〕

DUMP コマンドでは、ALL 指定の場合あるいはREC# 指定でレコード件数が多い場合は時間がかかる。

## 4.3.3 EDIT コマンド

プログラムをEDITモードにし、全てのデータの修正を可能にする。

```
EDIT {n} omtno
```

n : GROUP 番号 (省略可)

omtno : 原MT番号

GROUP 番号が省略された場合、GROUP 番号は、1とみなす。

指定された原MT番号がない場合は、新たにレコードを作成する。

## 〔使用例〕

```

EDIT      #2-0640
E         1          #2-0640
E         5          #2-4500

```

以下にEDITモードのサブコマンドを説明する。

## 1) CHANGE サブコマンド

作業領域上でデータの修正を行う。

```

CHANGE  item [value ]
           item  : 項目名 (Key)
           value :  データ

```

Value が省略された場合、データは、空白またはゼロに変更される。

## 〔使用例〕

```

CHANGE  DOCU      REPORT
C       OMTNO     #2-0641
C       OLOCK
C       F11005    880

```

## 2) CLEAR サブコマンド

EDIT中の全項目のデータを作業領域上で消去する。

```
CLEAR  オペランドなし
```

## 〔使用例〕

```

CLEAR
CL

```

## 3) END サブコマンド

EDITモードを終了させ、コマンドモードにする。

```

END  [ SAVE ]
     [ NOSAVE ]

```

SAVE : 終了時にデータを更新する。

NOSAVE : 終了時にデータを更新しない。

## 〔使用例〕

```

END  SAVE
END  S
END  NOSAVE
END  N

```



## 4) HELP サブコマンド

EDITモードの各サブコマンドの使用方法等を画面上に表示する。

```
HELP [ subcommand ]
      [ ITEM ]
```

subcommand : EDITモードのサブコマンド名

subcommand が指定された場合、サブコマンドの詳細な情報が表示される。ITEM が指定された場合、Key となる項目名が表示される。オペランドが省略された場合、EDITモードの全てのサブコマンドの概要が表示される。

〔使用例〕

```
HELP
H      CHANGE
HELP   ITEM
```

## 5) LIST サブコマンド

作業領域上のEDITしているデータを画面上に表示する。

```
LIST (' item list' )
```

' item list' : 任意の個数の表示項目を指定する。

' item list ' が省略された場合、全項目のデータを表示する。

〔使用例〕

```
LIST
L      ODATE EXPNO F11005 T23001 T27004 P27010
```

## 6) QUIT サブコマンド

データを更新せずにEDITモードを終了させると同時にプログラムを終了させる。

```
QUIT オペランドなし
```

〔使用例〕

```
QUIT
```

## 7) SAVE サブコマンド

EDITしているデータをEXPRESSデータベースに格納する。

```
SAVE オペランドなし
```

〔使用例〕

```
SAVE
S
```

## 8) VERIFY サブコマンド

CHANGEサブコマンドでデータの変更を行った場合の再表示機能の動作を制御する。

VERIFY  $\left[ \begin{array}{l} \text{ON} \\ \text{OFF} \end{array} \right]$

ON : 再表示機能を動作させる。

OFF : 再表示機能を停止する。

オペランドが省略された場合, ON とみなす。

VERIFY サブコマンドが入力されるまではONの状態である。

〔使用例〕

```
VERIFY    ON
V
V        OFF
```

#### 4.3.4 ENDコマンド

プログラムを終了させる。

END オペランドなし

〔使用例〕

```
END
```

#### 4.3.5 HELPコマンド

使用可能なコマンドの機能及び使用法を画面上に表示する。

HELP  $\left\{ \begin{array}{l} \text{command} \\ \text{ITEM} \\ \text{ALL} \end{array} \right.$

command : コマンド名

command が指定された場合, コマンドの詳細な情報が表示される。

ITEM が指定された場合, Key となる項目名が表示される。

ALL が指定された場合, 全てのコマンドの概要が表示される。

オペランドが省略された場合, ALL が指定されたものとみなす。

〔使用例〕

```
HELP
H      END
H      ITEM
H      ALL
```

#### 4.3.6 LISTコマンド

GROOP 番号及び原MT番号を指定することにより, 画面上にデータ内容を表示する。  
表示項目の指定個数は任意である。

```
LIST [n] omtno ['item list']
```

n : GROUP 番号

omtno : 原MT番号

'item list' : 任意の個数の表示項目を指定する。

GROUP 番号は省略可能であり、省略された場合、1とみなす。

'item list' が省略された場合、全項目のデータを表示する。

〔使用例〕

```
LIST #2-0850
```

```
L 3 #2-2551 EXPNO ODATE EVOL FILE
```

#### 4.3.7 LOGING コマンド

LOG データ収集に制御する。

```
LOGING [ ON ]
        [ OFF ]
```

ON : LOG データの収集を行う

OFF : LOG データの収集を廃止する。

オペランド省略時はONとみなす。

〔使用例〕

```
LOGING ON
```

```
LOG
```

```
LOG OFF
```

#### 4.3.8 MODIFY コマンド

プログラムをMODIFY モードにし、原MT番号以外の全てのデータの変更を可能にする。

MODIFY モードは、1つのレコードを処理するのではなく、同じ原MT番号を持つ全てのレコードを同時に処理する。

```
MODIFY omtno
```

omtno : 原MT番号

〔使用例〕

```
MODIFY #2-2550
```

```
MOD #2-0850
```

以下にMODIFY モードのサブコマンドを説明する。

##### 1) ADD サブコマンド

作業領域上で試験番号 (EXPNO) の追加を行う (レコードの追加)

```
ADD expno
```

expno : 試験番号 (EXPNO)

GROUP 番号は、プログラムが付加する。

〔使用例〕

ADD NEWEXPNO

2) CHANGE サブコマンド

作業領域上でデータの修正を行う。

CHANGE item [value]

item : 項目名

value : データ

value が省略された場合、データは空白またはゼロに変更される。

このサブコマンドでは次の項目の変更は不可能である。

(1) GROUP 番号

(2) 原MT番号

(3) 試験番号

〔使用例〕

CHANGE DOCU PNCREPORT

C OKEEP

3) DELETE サブコマンド

作業領域上で試験番号 (EXPNO) の削除を行う (レコードの削除)

DELETE { n  
expno }

n : 試験番号に対応するGROUP 番号

expno : 試験番号

n または expno のどちらかを指定する。

〔使用例〕

DELETE ST 037501

DEL 3

4) DELGRP サブコマンド

作業領域上で原MT番号が等しい全ての試験番号を削除する。

DELGRP オペランドなし

〔使用例〕

DELGRP

DELG

5) END サブコマンド

MODIFY モードを終了させ、コマンドモードにする。

```

END  [ UPDATE
      SAVE
      NOUPDATE
      NOSAVE ]
    
```

UPDATE : 終了時にデータベースを更新する。

NOUPDATE : 終了時にデータベースを更新しない。

〔使用例〕

```

END
END UPDATE
END U
END SAVE
END S
END NOSAVE
END N
    
```

6) EXPNO サブコマンド

作業領域上で試験番号 (Expno) の変更を行う。

```

EXPNO { n } exp2
      { exp1 }
    
```

n : GROUP 番号

exp1 : 修正される試験番号

exp2 : 新試験番号

n, exp1 どちらを指定してもよい。

〔使用例〕

```

EXPNO  OLDEXP  NEWEXP
EX      1      R005010
    
```

7) HELP サブコマンド

MODIFY モードの各コマンドの機能及び使用法を画面上に表示する。

```

HELP [ subcommand ]
     [ ITEM
     [ ALL ]
    
```

subcommand : サブコマンド名

subcommand が指定された場合、サブコマンドの詳細な情報が表示される。ITEM が指定された場合、Key となる項目名が表示される。ALL が指定された場合、全てのサブコマンドの概要が表示される。オペラントが省略された場合、ALL が指定されたものとみなす。

〔使用例〕

```
HELP    HELP
HELP    ITEM
H       ALL
```

8) LIST サブコマンド

作業領域上のデータを画面上に表示する。

```
LIST ( 'item list' )
```

'item list' : 任意の個数の表示項目を指定する。

'item list' が省略された場合、全項目のデータを表示する。

〔使用例〕

```
LIST
L      OMTNO   ODATE   TIMEST   TIMEEN   DSN     UPDATE
```

9) QUIT サブコマンド

データを更新せずに MODIFY モードを終了させると同時にプログラムを終了させる。

QUIT オペラントなし

〔使用例〕

```
QUIT
```

10) UPDATE ( SAVE ) サブコマンド

修正されたデータを EXPRESS データベースに格納する。

UPDATE オペラントなし

(SAVE)

〔使用例〕

```
UPDATE
U
SAVE
S
```

11) VERIFY サブコマンド

サブコマンドによってデータの変更が行なわれた場合の再表示の制御を行う。

VERIFY  $\left[ \begin{array}{c} \text{ON} \\ \text{OFF} \end{array} \right]$

ON : 再表示を行う

OFF : 再表示を停止する

オペランドが省略された場合、ONとみなす。

VERIFYサブコマンドが入力されるまではONの状態である。

〔使用例〕

```
VERIFY ON
V
V OFF
```

#### 4.3.9 QUITコマンド

プログラムを終了させる。

QUIT オペランドなし

〔使用例〕

```
QUIT
```

#### 4.3.10 SEARCHコマンド

プログラムをSEARCHモードにし、データベースの検索を可能にすると同時に、条件に一致するレコードを作業領域にロードする。

```
{ SEARCH } [ 'fetch key list' ]
{ LOAD }
```

'fetch key list' : ロードする条件

'fetch key list' は3つの値で1組となり、最大5組まで記述可能で、その論理積がとられる。'fetch key list' は次のデータより構成される。

- (1) ITEM : 検索の対象となる項目名
- (2) VALUE1 : 最小値
- (3) VALUE2 : 最大値

ITEMとしてBEXPNOを指定した場合は、入力された文字数内でVALUE1との比較をする。

このときVALUE2は指定できない。

文字型データの場合は、空白、A~Z、0~9、@、#、/、\*の42文字で昇順に比較する。最大文字数に満たない部分には空白が加えられる。空白を含む値はリテラル(')で囲む。

最大値が省略された場合は、VALUE1 = VALUE2 となる。

## 〔使用例〕

```

SEARCH
SEA
SEA      OMTNO      #2-2000      #2-2130
SEA      T27001     200          220          P27010      60          80
SEARCH   BEXPNO     ST
SEARCH   EXPNO      R              R23****
SEA      EVOL       AC0015
LOAD     EVOL       SN0312

```

以下に SEARCH モードのサブコマンドを説明する。

## 1) CLEAR サブコマンド

作業領域上のサーチレコードを消去する。

CLEAR オペランドなし

## 〔使用法〕

CLEAR

CL

## 2) DELETE サブコマンド

条件に一致するレコードを作業領域より削除する。

DELETE 'delete key list'

'delete key list' : 削除する条件

'delete key list' は3つの値で1組となり、最大5組まで記述可能で、その論理積がとられる 'delete key list' は次のデータより構成される。

(1) ITEM : 検索の対象となる項目名

(2) VALUE1 : 最小値

(3) VALUE2 : 最大値

ITEMとしてBEXPNOを指定した場合は、入力された文字数内でVALUE1との比較をする。VALUE2は指定できない。

文字型データの場合は、空白、A~Z、0~9、@、#、/、\*の42文字で昇順に比較する。最大文字数に満たない部分には空白が加えられる。空白を含む値はリテラル(')で囲む。

最大値が省略された場合、VALUE1 = VALUE2となる。



〔使用例〕

```
DELETE  ODATE      750624      771224
DELETE  EXPNO      R           R23 ****
DEL     BEXY      R08
DEL     OKEEP
DEL     TMSER     I           IT
```

3) ENDサブコマンド

SEARCHモードを終了させ、コマンドモードにする。

END オペランドなし

〔使用例〕

END

4) HELPサブコマンド

SEARCHモードの各コマンドの機能及び使用法を画面上に表示する。

```
HELP [ subcommand ]
      [ ITEM
      [ ALL ]
```

subcommand が指定された場合、サブコマンドの詳細な情報が表示される。ITEMが指定された場合、Key となる項目名が表示される。ALLが指定された場合、全てのサブコマンドの概要が表示される。オペランドが省略された場合、ALL が指定されたものとみなす。

〔使用例〕

```
HELP  DELETE
H     ITEM
H     ALL

HELP
```

5) LISTサブコマンド

検索されたデータの内容を画面上に表示する。

LIST [ 'rec #' ] [ 'item list' ]

'rec #' : 検索、レコードの記録番号 (個数は任意)

'item list' : 任意の個数の表示項目を指定する。

'rec #' は、任意の個数指定可能であり、指定のない場合は作業領域の全レコードを表示する。また 'item list' を省略した場合、以前に投入されたLIST又はPRINTサブコマンドのオペランドが有効になる。

〔使用例〕

```
LIST      ODATE      EXPNO      OMINO      GROUP
L         260 265 300          ODATE      EXPNO

LIST
```

〔注意事項〕

LISTサブコマンドでは検索レコード件数が多い場合時間がかかる。

80カラムを越えるデータは表示されず、そのデータに相当する項目名は 'item list' に保存されない。

6) LOAD サブコマンド ( SEARCHサブコマンド)

条件に一致するレコードを作業領域に追加する。

```
{ LOAD      } 'load key list'
{ SEARCH    }
```

'load key list' : 追加する条件

'load key list' は、3つの値で1組となり、最大5組まで記述可能で、その論理積がとられる。'load key list' は、次のデータより構成される。

- (1) ITEM : 検索の対象となる項目名
- (2) VALUE1 : 最小値
- (3) VALUE2 : 最大値

ITEMとしてBEXPNOを指定した場合は、入力された文字数内でVALUE1との比較をする。VALUE2は指定できない。

文字型データの場合は、空白、A~Z、0~9、@、#、/、\*の42文字で昇順に比較する。最大文字数に満たない部分には空白が加えられる。空白を含む値はリテラル(`)で囲む。

最大値が省略された場合、VALUE1 = VALUE2となる。

〔使用例〕

```
LOAD      OMTNO      #2-2000      #2-2130
LO        T27001     200          220          P27010  60    80
LO        BEXP       ST
LOAD      EXPNO      R          R23****
LO        EVOL       AC0015
SEARCH    EVOL       AC0015
```

7) QUITサブコマンド

SEARCHモードを終了させると同時にプログラムを終了させる。

QUIT オペランドなし

〔使用例〕

QUIT

8) PRINTサブコマンド

検索したデータをラインプリンターに出力する。

PRINT ['rec #'] ['item list'] [DEST('id')] [CLASS(class)]

'rec #' : サーチレコードの記録番号

'item list' : 任意の個数の出力項目

id : ラインプリンターのリモートID

class : 出力クラス

'rec #'は、任意の個数指定可能であり、省略された場合、作業領域の全レコードを出力する。また 'item list' を省略した場合、以前に投入されたLIST又はPRINTサブコマンドのオペランドが有効となる。

DESTのパラメータが省略された場合、出力先は、GG50となる。

CLASSのパラメータが省略された場合、出力クラスはRとなる。

〔使用例〕

PRINT ODATE EXPNO OMTNO GROUP

P 260 265 300 ODATE EXPNO

P

PRINT DEST(R11)

〔注意事項〕

PRINTサブコマンドでは検索レコード件数が多い場合時間がかかる。

9) RECORDサブコマンド

作業領域上の全レコードの記録番号、GROUP番号及び原MT番号を画面上に表示する。

RECORD オペランドなし

〔使用例〕

RECORD

R

10) RESTOREサブコマンド

作業領域のサーチレコードを最後の作業領域を変更するコマンドを投入する前の状態にもどす。

RESTORE オペランドなし

〔使用例〕

RESTORE

RES

## 11) SELECT サブコマンド

条件に一致しないレコードを作業領域から削除する。

SELECT 'select key list'

'select key list' は3つの値で1組となり、最大5組まで記述可能でその論理積がとられる 'select key list' は、次のデータより構成される。

(1) ITEM : 検索の対象となる項目名

(2) VALUE 1 : 最小値

(3) VALUE 2 : 最大値

ITEM として BEXPNO を指定した場合は、入力された文字数内で VALUE 1 との比較をする。VALUE 2 は指定できない。

文字型データの場合は、空白、A~Z, 0~9, @, #, /, \* の42文字で昇順に比較する。最大文字数に満たない部分には空白が加えられる。空白を含む値はリテラル (') で囲む。

最大値が省略された場合、VALUE 1 = VALUE 2 となる。

〔使用例〕

```

SELECT   OMTNO      #2-1500      #2-1550
SEL      T27003     300           360           R27010      100      135
SEL      BEXP       DY06
SELECT   EXPNO      R             R23****
SEL      EKEEP

```

## 4.3.11 STATU コマンド

EXPRESS データベースの状態を表示する。

STATUS オペランドなし

表示される内容は次のものである。

- (1) データ・ベースの全レコード数
- (2) LOG 集収の状態
- (3) データベースに対する最後の更新記録

〔使用例〕

STATUS

ST

#### 4.4 ユーザーレベル

ユーザー ID 毎にレベルを設定し、使用可能なコマンドを制限している。

Level 3 : 全コマンド使用可

Level 2 : EDIT, LOGING コマンド使用不可

Level 1 : EDIT, LOGING, CREATE, MODIFY コマンド使用不可

ユーザー ID の定義は表 4.4 に示す通りであり、サブルーチン USERID に DATA 文として与えてある。

表 4.4 ユーザーレベル

USER-ID	Level
Q2011	3
Q201A	2
Q201B	2
Q201G	3
その他	1

#### 4.5 履歴情報

##### 4.5.1 概略履歴

LOG データの収集に関し KEY ファイルの第 1 レコードを次の様に使用している

I REC	LOG	FLAG	L REC	USER-ID	DATE	TIME	DEVICE
-------	-----	------	-------	---------	------	------	--------

I REC : データベースのレコード件数 ( Integer \* 4 )

LOG : LOG データファイルの ID, ' LOG1 ' 又は ' LOG2 '

FLAG : LOG データ収集の状態, ' ON ' 又は ' OFF '

L REC : LOG ファイルのデータ件数 ( Integer \* 4 , L REC ≤ 500 )

USER-ID : 最後に修正した USER-ID

DATE : " 日付

TIME : " 時間

DEVICE : " 端末 ID

#### 4.5.2 詳細履歴

詳細履歴収集のため下記のLOGファイルが用いられている。

ファイル名 Q201#. EXPRESS. @ LOG1. DATA  
 Q201#. EXPRESS. @ LOG2. DATA

2つのファイルを交互に使用する。

DCBは  $\left\{ \begin{array}{l} \text{RECFM} = \text{F} \\ \text{BLKSIZE} = 80 \end{array} \right\}$

ダイレクトアクセスで処理する。

LOGファイルには、次の情報が収集される。

1) プログラムの起動時

日付, 時間, USER-ID, ターミナルID

2) データベースの修正時

日付, 時間, モード名, コマンド名, GROUP, OMTNO, USERID

#### 4.6 ブロードキャストメッセージ

本プログラムは、ブロードキャストメッセージの組み込みが可能となっている。メッセージは次のデータセットに作成する。

データセット名

Q201#. EXPRESS. @.HELP. DATA(MSGMSG)

データセットは、カードイメージで作成されており、1～72カラムが有効な領域である。

また、メッセージの中に1～2カラムに'#S'の文字列を記入したカードがある場合、メッセージ出力後プログラムは停止する。

#### 4.7 エラーメッセージ

本プログラム実行中に出力されるエラーメッセージとその意味を以下に示す。

+ DATA BASE FILE ALLOCATION ERROR

データベースファイルのダイナミックアロケーションに失敗した。  
 次の行に詳細なエラーの原因が出力される。

+ KEY FILE ALLOCATION ERROR

キーファイルのダイナミックアロケーションに失敗した。  
 次の行に詳細なエラーの原因が出力される。

+ OMTNO NOT SPECIFIED

原MT番号が指定されていない

+ INVALID OMTNO SPECIFIED

間違った原MT番号が指定された

+ SPECIFIED INVALID KEYWORD

間違ったキーワードが指定された

+ KEYWORD NOT SPECIFIED

キーワードが指定されていない

+ GROUP NO NOT SUPPORTED ON CHANGE SUBCOMMAND

グループ番号はCHANGEサブコマンドでは変更できない。

+ OMTNO NOT SUPPORTED ON CHANGE SUBCOMMAND

原MT番号はCHANGEサブコマンドでは変更できない。

+ EXPNO NOT SUPPORTED ON CHANGE SUBCOMMAND

試験番号はCHANGEサブコマンドでは変更できない

+ SPECIFIED INVALID VALUE

間違った値が指定された

+ WORK AREA OVERFLOW DATA EXCEEDED 4000

データが4000を越えたためワーク領域がオーバーフローを起こした

+ OMTNO NOT FOUND IN DATA FILE

原MT番号はデータファイルでは見つけれなかった。

+ GROUP NUMBER ERROR ON KEY FILE

キーファイル上でグループ番号にエラーが発生した。

+ ALLOCATION ERROR ON KEY FILE

キーファイル上でダイナミックアロケーションに失敗した。  
次の行に詳細なエラーの原因が出力される。

+ ALLOCATION ERROR ON SYSPRINT FILE

SYSPRINTファイル上でダイナミックアロケーションに失敗した。  
次の行に詳細なエラーの原因が出力される。

+ INVALID REC # PARAMETER

レコード番号パラメーターが間違っている。

+ OPERAND NOT SPECIFIED

オペランドが指定されていない。

- + SPECIFIED INVALID GROUP NUMBER  
間違ったグループ番号が指定された。
- + SPECIFIED INVALID 'OMTNO'  
間違った原MT番号が指定された。
- + CREATE NEW RECORD WHEN SAVE  
セーブした時に新しいレコードがつけられる。
- + INVALID SUBCOMMAND  
サブコマンドが間違っている。
- + INVALID OPERAND  
オペランドが間違っている。
- + DATA CHANGED ENTER 'SAVE' OR 'END'  
データが変わったのでセーブかエンドを入力しなさい。
- + GROUP NO NOT SUPPORTED ON LIST SUBCOMMAND  
グループ番号はLISTサブコマンドでは指定できない。
- + HELP COMMAND ( SUBCOMMAND ) NOT AVAILABLE  
HELPコマンド(サブコマンド)は利用できない。
- + ALLOCATION ERROR ON HELP DATA SET  
HELPデータセットでダイナミックアロケーションに失敗した。  
次の行に詳細なエラーの原因が出力される。
- + GDRTY ERROR ON HELP DATA SET  
HELPデータセットでGDRTYのエラーが発生した。
- +++ PROGRAM ERROR  
プログラムにエラーが発生した。
- + PROGRAM ERROR ON KEYLX1  
キーL×1上でプログラムにエラーが発生した。
- + OMTNO NOT FOUND IN DATA SET  
原MT番号はデータセットでは、見つけれなかった。
- + STORAGE OVERFLOW DATA EXCEEDED 2000  
データが2000を越えたため、記録領域がオーバーフローを起こした。



+ INVALID OPERAND SPECIFIED

間違ったオペランドが指定された。

\* LOGGING DATA CHANGE TO LOG1 FROM LOG2

ロギング用ファイルをLOG 2からLOG 1に変更した。

\* LOGGING DATA CHANGE TO LOG2 FROM LOG1

ロギング用ファイルをLOG 1からLOG 2に変更した。

+ LOG FILE ALLOCATION ERROR

ログファイルのダイナミックアロケーションに失敗した。  
次の行に詳細なエラーの原因が出力される。

+ INVALID COMMAND

コマンドが間違っている。

+ GROUP NO OR EXPNO NOT SPECIFIED

グループ番号あるいは試験番号のどちらかが指定されていない。

+ SPECIFIED GROUP NO NOT FOUND

指定されたグループ番号が見つからなかった。

+ SPECIFIED EXPNO NOT FOUND

指定された試験番号が見つからなかった。

+ EXPNO IS EMPTY

試験番号領域にデータがない。

+ PROGRAM ERROR ON UPDATE

更新時にプログラムにエラーが発生した。

+ DATA MODIFIED ENTER 'SAVE' OR 'END' ?

データが修正されたのでセイブかエンドを入力しなさい。

+ INVALID RECORD NUMBER SPECIFIED

間違ったレコード番号が指定された。

+ SPECIFIED RECORD NOT FOUND

指定されたレコードが見つからなかった。

+ SEARCH RECORD IS EMPTY

サーチレコードには何もロードされていない。

+ NOT SPECIFIED KEYWORD ON LIST COMMAND

コマンドでキーワードは指定されていない。

+ ALLO ERROR ON DATA FILE

データファイル上でダイナミックアロケーションに失敗した。  
次の行に詳細なエラーの原因が出力される。

+ PROGRAM ERROR ON SAVE

セーブ時に、プログラムにエラーが発生した。

+ NOT SPECIFIED VALUE OF KEY

キー値は指定できない。

+ SPECIFIED INVALID VALUE OF KEY

間違ったキー値が指定された。

+ CREATE MODE NOT AVAILABLE ON THIS TERMINAL

この端末では、CREATEモードは、利用できない。

+ FS MODE NOT AVAILABLE ON THIS TERMINAL

このターミナルでは、フルスクリーンモードは利用できない。

+ USABLE F9525, F9526, F6652, TRY OTHER

F 9525, F 9526, F 6652 でも試してみなさい。

#### 4.8 バッチジョブによるDUMP コマンドの実行

大量のデータをダンプ出力する場合、端末を有効利用するために、バッチジョブでDUMP コマンドを実行することができる。そのJCL例を表4.5に示す。実行できるコマンドはDUMP コマンドのみであり、使用法はTSSによる場合と同一である。コマンドは論理基盤番号5から読込まれる。



## 5 50MWSGTF試験データ編集MT作成サブシステム

### 5.1 概 要

本サブシステムは、編集MT作成時にEXPRESSに対して必要項目データを自動登録するためのもので、TSS下で動作する編集MT作成JCL創成ステップとバッチで動作する編集MT作成ステップとから構成される。これを用いることにより、MT処理時のミス発生が大幅に低減されるとともに、データ検索システムにおいて最も重要でかつ手間のかかる最新データの蓄積が自動的になされ省力化が計られる。図5.1に編集MTの作成手順を示す。

なお、本サブシステムにより作成される編集MTは、従来もの<sup>(6)</sup>と記録内容は同様であり、これらのMTを利用するプログラムの修正は不必要である。編集MTのフォーマットを原MTとあわせて付録Cに示す。

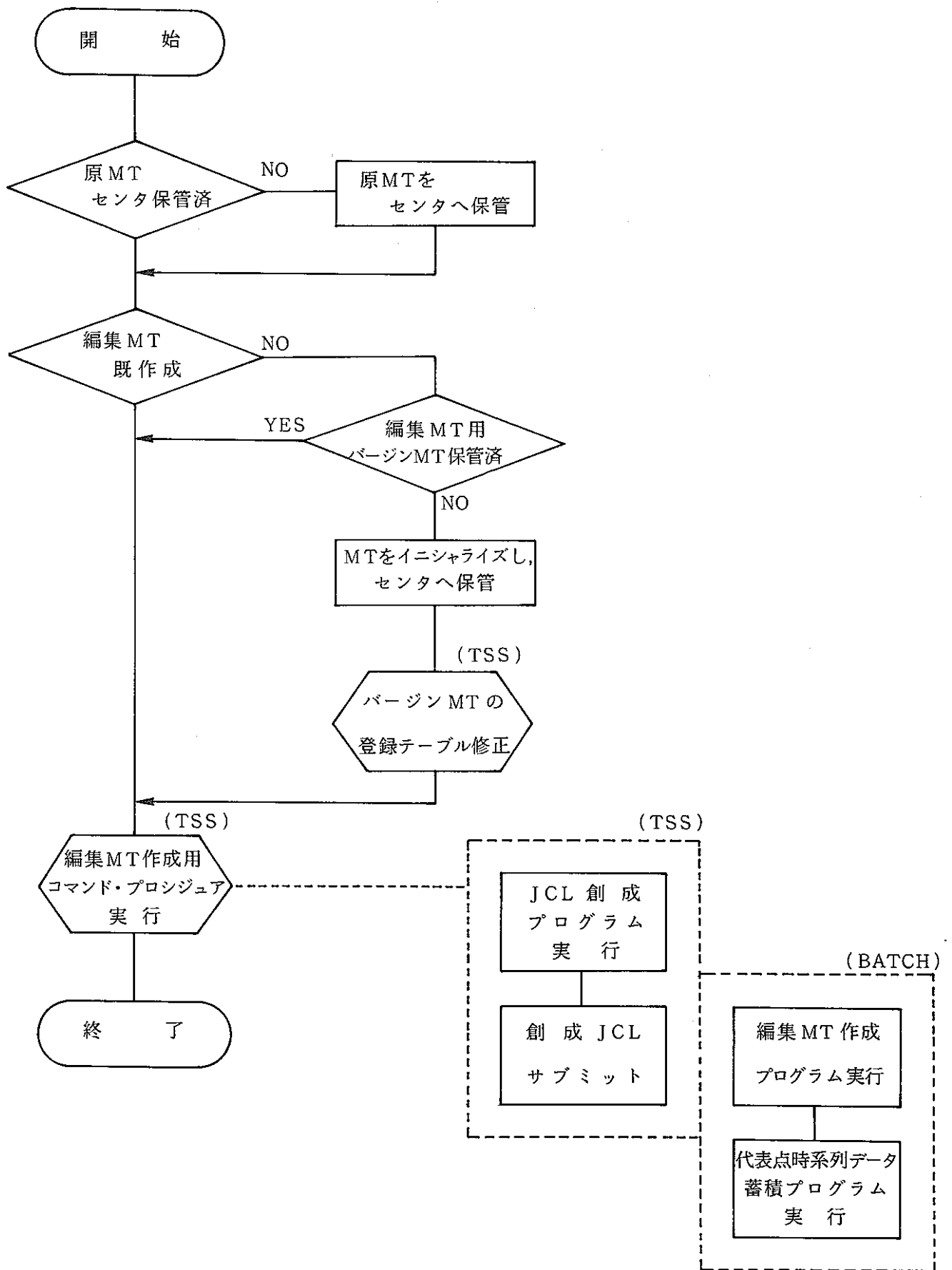


図 5.1 編集 MT 作成手順

5.2 編集MT用バージョンMT登録ファイル

(1) 編集MT用バージョンMTの初期化

- (i) 磁気テープ：6250 BPIで記録可能な2400ftのMT
- (ii) 記録密度：6250 BPI
- (iii) ラベル形式：SL
- (iv) ボリューム通番：SN○○○○(○○○○は既登録分続く連番とする。)

(2) 編集MT用バージョンMT登録

バージョンMT登録ファイルの内容は、ボリューム通番、センタ管理番号、ロッカ番号および預け入れ日で、以下に示す構造をもち、最大100レコードまで登録が可能である。

COL.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26		
ボリューム通番						管理番号						ロッカ番号						預け入れ日									

ファイルの最後のレコードとして、次に登録すべきMTのボリューム通番のみを記録しておくことが望ましい。

登録ファイルのデータセット名は 'Q201#. EMT. VMTREF. DATA' で、内容の追加等はTSSのEDITコマンドを用いて行なう。

登録ファイルの内容の一例を表5.1に示す。各レコードの28カラム以降はシステムが使用している。

表 5.1 編集MT用バージョンMT登録ファイルの内容

DATA SET NAME : Q201#.EMT.VMTREF.DATA

LRECL : 00080

VOLUME SER. : PNC111

BLKSIZE : 03120

入力項目

.....1.....\*.....2.....\*.....3.....\*.....4.....\*.....5.....\*.....6.....\*.....7.....\*.....8

00001: SN0349 250349 C2308 820823 2

00002: SN0350 250350 C2309 820823 1

00003: SN0351 250351 C2310 820823 1

00004: SN0352 250352 C2311 820823 1

00005: SN0353 250353 C2312 820823 1

00006: SN0354 250354 C2313 820823 1

00007: SN0355 250355 C2315 820823 1

00008: SN0356 250356 C2316 820823 1

00009: SN0357 250357 C2317 820823 1

00010: SN0358 250358 C2318 820823 1

00011: SN0359 250359 C2319 820823 1

00012: SN0360 250360 C2321 820823 1

00013: SN0361 250361 C2323 830126

00014: SN0362 ← 未登録の編集MT

.....1.....\*.....2.....\*.....3.....\*.....4.....\*.....5.....\*.....6.....\*.....7.....\*.....8

### 5.3 編集MT作成手順

#### 5.3.1 編集MT作成サブシステムの起動

本サブシステムは、TSSセッション内で下記コマンドにより起動される。

```
EXEC 'Q2011.EXPRESS.CLIST(EMTCRT)'
```

以下、下線(        )は端末からの入力を示す。

#### 5.3.2 編集MT作成用JCL創成プログラム使用法

実行は全て対話形式で、プロンプタに続き左づめで入力する。

```
001 : USER-ID        => ユーザ識別子
```

```
002 : PASSWORD        => パスワード
```

```
003 : YOUR NAME        => ユーザ名
```

```
004 : BRIEF OUTPUT        ?        =>
```

(結果の概要を出力するか?)

```
{ YES : 結果の概要のみを出力(原MT 1本に対して、ラインプリンタ約2頁)。  
  NO  : 結果の請細を出力(原MT 1本に対して、#2-1849以前ではラインプリン  
        タ約5頁、#2-1850以降では約20頁)。  
  (その他) : 問い返す。
```

```
010 : (      n) ENTER OMTNO (       " #X-YYYY"        OR        "/"        )        =>       
```

(原MT番号を入力せよ。)

```
{ #2-0000 : 原MT番号  
  /       : 終了  
  (その他) : エラーメッセージを出力し、問い返す。
```

```
011 :                            O-KEEP #        =>       
```

(原MTセンタ管理番号を入力せよ。)

```
012 :                            O-LOCK #        =>       
```

(原MTロッカ番号を入力せよ。)

           OMTNO = 原MT番号        OKEEP = センタ管理番号        OLOCK = ロッカ番号

```
013 : OK        ?        =>       
```

(指定した原MT番号等は正しいか。)



$\left\{ \begin{array}{l} \text{YES} \\ \text{OK} \end{array} \right\}$  : 原MT番号, センタ管理番号, ロッカ番号が全て正しい場合。  
 NO : 入力されたもののいずれかが正しくない場合。  
 (その他) : 問い返す。

014 :  $\square$ UPDATE $\square$ O-KEEP# $\square$ O-LOCK# $\square$ ? $\square$ => \_\_\_\_\_

(センタ管理番号あるいはロッカ番号を修正するか。)

$\left\{ \begin{array}{l} \text{YES} \\ \text{NO} \end{array} \right\}$  : 登録済の管理番号等を修正する場合。  
 NO : 修正しないで別の原MTの処理を行なう場合。  
 (その他) : 問い返す。

\_\_\_\_\_EXPNO(S) $\square$ (MAX $\square$ 50)

015 :  $\square$ => \_\_\_\_\_

(試験番号を入力せよ。)

- (i) 試験番号は, スラッシュ(/)以外で始まるマイナス(-), 空白およびカンマ(,)を除く15文字以内の英数字で, 最大50個まで指定可能で, 区切り文字により1行に複数個入力できる。また, 全ての試験番号が1行で入力できない場合, 複数行の入力が可能である。なお, マイナスおよび1つの試験番号の15文字を越える部分は無視される。
- (ii) 試験番号の区切りは,
  - (a) 1つ以上の空白
  - (b) 1つのカンマ
  - (c) 1つ以上の空白に囲まれた1つのカンマ
  - (d) 1行の終わり
- (iii) 全ての試験番号の終わりは,
  - (a) /\*
  - (b) 区切り文字の次にあらわれるスラッシュ
  - (c) 空行

\*\*\* $\square$ EXPERIMENT $\square$ NUMBER $\square$ ( $\square$ n) $\square$ \*\*\*

入力された試験番号一覧

016 :  $\square$ ALL $\square$ OF $\square$ EXPNO(S) $\square$ IS $\square$ OK $\square$ ? $\square$ => \_\_\_\_\_

(入力された試験番号は正しいか。)

{ YES } : 入力した試験番号が全て正しい場合。  
OK  
NO : いずれかが正しくない場合。  
(その他) : 問い返す。

W02 : AN E-MT ALREADY BEEN CREATED ( mm / dd / yy ).  
( KEEP = センタ管理番号, LOCK = ロッカ番号, VOL = SER = ポリユーム通番,  
FILE = ファイル番号, DSN = データセット名 )

W03 : FILES ( f TO 4 ) ARE TO BE CRUSHED

017 : REWRITE THIS E-MT ? = > \_\_\_\_\_

( 編集MTは既に作成されており, 以降のファイルが壊されるが, 編集MTを書き直して  
よいか。)

{ YES } : 書き直しをする場合。  
OK  
NO : 書き直しをしない場合。  
(その他) : 問い返す。

050 : SITE-ID IS SG50 ? = > \_\_\_\_\_

( 出力先はシステム設計室RJE端末か。)

YES : システム設計開発室RJE端末に出力する場合。  
NO : 他の場所に出力する場合。  
(その他) : 問い返す。

W10 : n LINES WILL BE OUTPUT.  
IT'S BETTER FOR US TO BE ROUTED ON LINE-  
PRINTER AT CENTER.

051 : SITE-ID IS CENTRAL ? = > \_\_\_\_\_

( 結果の詳細が出力される。センタのラインプリンタに出力してよいか。)

YES : 計算センタのラインプリンタに出力する場合。  
NO : 他の場所に出力する場合。  
(その他) : 問い直す。

052 : ENTER SITE-ID = > \_\_\_\_\_

( 結果の出力先を指定せよ。)

- CENTRAL : 計算センタラインプリンタ
- SG50 : システム設計開発室RJE 端末
- Rnn : 他のRJE 端末

5.3.3 編集MT作成プログラムの起動

以下のバッチジョブが自動的にサブミットされる。

- (i) ジョブ名：(ユーザ識別子) ECR
- (ii) ATTRパラメータ：表 5.2

表 5.2 編集MT作成ジョブのATTRパラメータ

ATTR パラメータ	処理MT 本数																				備 考
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
T	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
W	1																				概要出力の場合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	詳細出力の場合
C	1																				

5.3.4 一般事項

- (1) 新規に編集MTを作成するジョブが実行待ちあるいは実行中の場合、新規に編集MTを作成するJCLを作ることはできない。
- (2) 1回のJCL創成プログラム起動では原MTを20本まで処理できる。ただし、編集MTは単ボリューム多ファイルで作成されており、編集MT単位あるいはその整数倍であることが望ましい。(現在1ボリュームに4ファイルまで作成できる。)
- (3) 編集MT再作成の場合、書き直された部分より後方にあるデータは壊される。このため、編集MTの同一ボリューム内では、ファイル順に実行しなければならない。
- (4) 編集MT作成用に創成されたJCLはTSSセクション開設時のユーザ識別子を第1修飾子とするデータセット名

user-id. INTRDR. CNTL

でカタログされ、次に同一ユーザ識別子でJCL創成用プロシジューアを実行するまで内容は保存される。

5.3.5 実行例

編集MT作成用JCL創成例を表 5.3 に示す。また、これにより創成されたJCLの内容を表 5.4 に示す。

表 5.3 編集MT作成用JCL創成例

```

EX 'Q2011.EXPRESS.CLIST(EMTCRT)'

E X P R E S S
E-MT(S) CREATION SUBSYSTEM STARTS.
-----
001: USER-ID    =>Q201X
002: PASSWORD  =>
003: YOUR NAME =>GONBEI
004: BRIEF OUTPUT ? =>YES

010: ( 1) ENTER OMTNO( "#X-YYYY" OR "/" ) =>#2-2554
011:          O-KEEP# =>201250
012:          O-LOCK# =>F4402
      OMTNO=#2-2554  OKEEP=201250  OLOCK=F4402
013: OK ? =>YES
      EXPNO(S) (MAX 50)
015: =>ADA2-0BD2-13 ADA2-0BD1-15 , ADA2-0BD2-1
015: =>
*** EXPERIMENT NUMBER ( 3) ***
ADA20BD213      ADA20BD115      ADA20BD21
016: ALL OF EXPNO(S) IS OK ? =>YES

010: ( 2) ENTER OMTNO( "#X-YYYY" OR "/" ) =>#2-2552
      OMTNO=#2-2552  OKEEP=201248  OLOCK=F4325
013: OK ? =>YES
W02: AN E-MT HAS ALREADY BEEN CREATED ( 03/02/83 ).
      (KEEP=250349,LOCK=C2308,VOL=SER=SN0349,FILE=3,DSN=E.#2-2552)
W03: FILES(4 TO 4) ARE TO BE CRUSHED.
017: REWRITE THIS E-MT ? =>YES
W04: YOU SHOULD REPROCESS THE FOLLOWING O-MT(S) SEQUECIALLY.
      (4)#2-2553

010: ( 3) ENTER OMTNO( "#X-YYYY" OR "/" ) =>#2-2553
      OMTNO=#2-2553  OKEEP=201249  OLOCK=F4401
013: OK ? =>YES
W02: AN E-MT HAS ALREADY BEEN CREATED ( 03/02/83 ).
      (KEEP=250349,LOCK=C2308,VOL=SER=SN0349,FILE=4,DSN=E.#2-2553)

010: ( 4) ENTER OMTNO( "#X-YYYY" OR "/" ) =>/
-----
050: SITE-ID IS SG50 ? =>YES
-----

```

表 5.4 編集MT作成用JCL例

```

02011.INTRDR.CNTL
1 //Q2011EXECR JOB ,GONBEL,MSGCLASS=A,NOTIFY=Q2011,
2 // ATTR=(13,C1,41)
3 //ROUTE PRINT SG50
4 //
5 //
6 //
7 //MT102 EXEC MTSET,COND=(0,NE),
8 // MSG1='I01-201243-F4325-VOL001',
9 // MSG2='002-250349-C2308-SN0349'
10 //EX102 EXEC PGM=TP32EX,COND=(0,NE)
11 //STEPLIB DD DSN=Q2011,EXPRESS,LOAD,DISP=SHR
12 //FT01F001 DD UNIT=MOEGO,LABEL=(1,SL,,IN),VOL=SER=VOL001,DSN=LOGFILE
13 //FT03F001 DD DSN=Q2010.S121,DATA(RTCNEW),DISP=SHR,LABEL=(,,IN)
14 //FT02F001 DD UNIT=HTC,VOL=SER=SN0349,LABEL=(3,SL,,OUT),DSN=E.#2-2552,
15 // DISP=(,PASS),DCB=(LRECL=2100,BLKSIZE=4200,RECFM=FB,LEN=4)
16 //FT05F001 DD *
17 #2-2552 0 250349 C2308 SN0349 3 100
18 /*
19 //FT06F001 DD SYSOUT=A
20 //FT10F001 DD DSN=Q2011,EMT,VMTREF,DATA,DISP=SHR
21 //FT21F001 DD DSN=Q2011,EXPRESS,3.08,DATA,DISP=SHR
22 //FT22F001 DD DSN=Q2011,EXPRESS,3.KEY,DATA,DISP=SHR
23 //FT44F001 DD UNIT=WORK,DSN=38TMSER,SPACE=(TRK,(1,1)),
24 // DCB=(LRECL=136,BLKSIZE=2992,RECFM=FB),DISP=(,PASS)
25 //FT16F001 DD DUMMY
26 //AC102 EXEC PGM=TMSEERACC,COND=(0,NE)
27 //STEPLIB DD DSN=Q2011,EXPRESS,LOAD,DISP=SHR
28 //FT04F001 DD DSN=Q2011,TMSEER,DATA,DISP=MOO
29 //FT06F001 DD SYSOUT=A
30 //FT21F001 DD DSN=Q2011,EXPRESS,3.08,DATA,DISP=SHR
31 //FT22F001 DD DSN=Q2011,EXPRESS,3.KEY,DATA,DISP=SHR
32 //FT44F001 DD UNIT=WORK,DSN=38TMSER,DISP=(OLD,DELETE)
33 //FT45F001 DD DSN=Q2011,TMSEER,ADOKKEY,DATA,DISP=SHR
34 //
35 //
36 //MT103 EXEC MTSET,COND=(0,NE),
37 // MSG1='I01-201249-F4401-VOL001'
38 //EX103 EXEC PGM=TP32EX,COND=(0,NE)
39 //STEPLIB DD DSN=Q2011,EXPRESS,LOAD,DISP=SHR
40 //FT01F001 DD UNIT=MOEGO,LABEL=(1,SL,,IN),VOL=SER=VOL001,DSN=LOGFILE
41 //FT03F001 DD DSN=Q2010.S121,DATA(RTCNEW),DISP=SHR,LABEL=(,,IN)
42 //FT02F001 DD UNIT=HTC,VOL=SER=SN0349,LABEL=(4,SL,,OUT),DSN=E.#2-2553,
43 // DISP=(,PASS),DCB=(LRECL=2100,BLKSIZE=4200,RECFM=FB,LEN=4)
44 //FT05F001 DD *
45 #2-2553 0 250349 C2308 SN0349 4 100
46 /*
47 //FT06F001 DD SYSOUT=A
48 //FT10F001 DD DSN=Q2011,EMT,VMTREF,DATA,DISP=SHR
49 //FT21F001 DD DSN=Q2011,EXPRESS,3.08,DATA,DISP=SHR
50 //FT22F001 DD DSN=Q2011,EXPRESS,3.KEY,DATA,DISP=SHR
51 //FT44F001 DD UNIT=WORK,DSN=38TMSER,SPACE=(TRK,(1,1)),
52 // DCB=(LRECL=136,BLKSIZE=2992,RECFM=FB),DISP=(,PASS)
53 //FT16F001 DD DUMMY
54 //AC103 EXEC PGM=TMSEERACC,COND=(0,NE)
55 //STEPLIB DD DSN=Q2011,EXPRESS,LOAD,DISP=SHR
56 //FT04F001 DD DSN=Q2011,TMSEER,DATA,DISP=MOO
57 //FT06F001 DD SYSOUT=A
58 //FT21F001 DD DSN=Q2011,EXPRESS,3.08,DATA,DISP=SHR
59 //FT22F001 DD DSN=Q2011,EXPRESS,3.KEY,DATA,DISP=SHR
60 //FT44F001 DD UNIT=WORK,DSN=38TMSER,DISP=(OLD,DELETE)
61 //FT45F001 DD DSN=Q2011,TMSEER,ADOKKEY,DATA,DISP=SHR
62 //NO200 EXEC PGM=KOJBR14
63 //00 DD UNIT=HTC,LABEL=(1,BLP),VOL=SER=SN0349
64 //
65 //
66 //
67 //MT101 EXEC MTSET,COND=(0,NE),
68 // MSG1='I01-201250-F4402-VOL001',
69 // MSG2='002-250350-C2309-SN0350'
70 //EX101 EXEC PGM=TP32EX,COND=(0,NE)
71 //STEPLIB DD DSN=Q2011,EXPRESS,LOAD,DISP=SHR
72 //FT01F001 DD UNIT=MO800,LABEL=(1,SL,,IN),VOL=SER=VOL001,DSN=LOGFILE
73 //FT03F001 DD DSN=Q2010.S121,DATA(RTCNEW),DISP=SHR,LABEL=(,,IN)
74 //FT02F001 DD UNIT=HTC,VOL=SER=SN0350,LABEL=(1,SL,,OUT),DSN=E.#2-2554,
75 // DISP=(,PASS),DCB=(LRECL=2100,BLKSIZE=4200,RECFM=FB,LEN=4)
76 //FT05F001 DD *
77 #2-2554 0651 250350 C2309 SN0350 1 100
78 /*
79 //FT06F001 DD SYSOUT=A
80 //FT10F001 DD DSN=Q2011,EMT,VMTREF,DATA,DISP=SHR
81 //FT21F001 DD DSN=Q2011,EXPRESS,3.08,DATA,DISP=SHR
82 //FT22F001 DD DSN=Q2011,EXPRESS,3.KEY,DATA,DISP=SHR
83 //FT44F001 DD UNIT=WORK,DSN=38TMSER,SPACE=(TRK,(1,1)),
84 // DCB=(LRECL=136,BLKSIZE=2992,RECFM=FB),DISP=(,PASS)
85 //FT16F001 DD DUMMY
86 //AC101 EXEC PGM=TMSEERACC,COND=(0,NE)
87 //STEPLIB DD DSN=Q2011,EXPRESS,LOAD,DISP=SHR
88 //FT04F001 DD DSN=Q2011,TMSEER,DATA,DISP=MOO
89 //FT06F001 DD SYSOUT=A
90 //FT21F001 DD DSN=Q2011,EXPRESS,3.08,DATA,DISP=SHR
91 //FT22F001 DD DSN=Q2011,EXPRESS,3.KEY,DATA,DISP=SHR
92 //FT44F001 DD UNIT=WORK,DSN=38TMSER,DISP=(OLD,DELETE)
93 //FT45F001 DD DSN=Q2011,TMSEER,ADOKKEY,DATA,DISP=SHR
94 //NO200 EXEC PGM=KOJBR14
95 //00 DD UNIT=HTC,LABEL=(1,BLP),VOL=SER=SN0350
96 //
97 //
98 //EX000 EXEC PGM=VMTBLCL,COND=((790,LT),EVEN)
99 //STEPLIB DD DSN=Q2011,EXPRESS,LOAD,DISP=SHR
100 //FT06F001 DD SYSOUT=A
101 //FT10F001 DD DSN=Q2011,EMT,VMTREF,DATA,DISP=SHR
102 //
END OF DATA

```

#### 5.4 メッセージ

編集MT作成用JCL作成時のメッセージを表5.5に示す。各メッセージの先頭3文字はそれぞれ以下の状態にあることを示す。

- (1) 3桁の数字は入力を要求。
- (2) Eに続く2桁の数字は直前の入力が誤っていることを表わす。
- (3) Wに続く2桁の数字は警告メッセージで継続可能である。
- (4) Fに続く2桁の数字は継続不可能であることを示す。

また、編集MT作成時のメッセージを表5.6に示す。

表 5.5 編集MT/ACSLOG コピーMT作成用 JCL 作成時のメッセージ

メ ッ セ ー ジ	状 況	処 置
001: USER-ID=>	編集MT/ACSLOG コピーMT作成ジョブのユーザー識別子の入力进行要求。	ユーザー識別子を入力する。
002: PASSWORD=>	パスワードの入力进行要求	パスワードを入力する。
003: YOUR NAME=>	ユーザー名の入力进行要求	ユーザー名を入力する。
004: BRIEF OUTPUT ? =>	編集MT作成時に概要のみを出力するか。	YES または NO を入力する。
010: (n) ENTER OMTNO (" #X-YYYY" OR "/" ) =>	原MT番号の入力进行要求。	原MT番号または / を入力する。
011: O-KEEP # =>	原MTのセンタ管理番号の入力进行要求。	原MTセンタ管理番号を入力する。
012: O-LOCK # =>	原MTのロック番号の入力进行要求。	原MTロック番号を入力する。
OMTNO=ooooooo OKEEP=kkkkkk OLOCK=11111		
013: OK ? =>	原MT番号等は正しいか。	YES, OK または NO を入力する。
014: UPDATE O-KEEP # OR O-LOCK # ? =>	既登録の原MTセンタ管理番号, ロック番号を修正するか。	YES または NO を入力する。
EXPNO(S) (MAX 50)		
015: :=>	試験番号の入力进行要求 (最大 50 個)	試験番号を入力する。
*** EXPERIMENT NUMBER(n) ***		
017: REWRITE THIS { E-MT } ? => { COPY-MT }	入力された試験番号は正しいか。 編集MT/ACSLOGコピーMTの再作成をするか。	YES, OK または NO を入力する。 YES または NO を入力する。
050: SITE-ID IS SG50 ? =>	結果の出力先はシステム設計開発室RJE 端末か。	YES または NO を入力する。
051: SITE-ID IS CENTRAL ? =>	結果の出力先は計算センタか	YES または NO を入力する。
052: ENTER SITE-ID=>	結果の出力先の入力进行要求	出力先RJE 端末番号等を入力する。
JOB { Q201xECR } (JOBjjjj) SUBMITTED. { Q201xACP }	編集MT / ACSLOG コピーMT作成ジョブがサブミットされた。	なし
W01: CORRESPONDED RECORD(S) EXIST. BUT O-MT(ooooooo) IS NOT REGISTERED.	原MT番号は登録されているが, センタ管理番号等は登録されていない。	
W02: AN E-MT HAS ALREADY BEEN CREATED A COPY-MT (mm/dd/yy).	編集MT / ACSLOG コピーMTは yy 年 mm 年 dd 日に作成済である。	

表 5.5 編集MT/ACSLOG コピーMT 作成用 JCL 創成時のメッセージ

メ ッ セ ー ジ	状 況	処 置
<pre>(KEEP = kkkkkk, LOCK = 11111, VOL = SER = vvvvvv, FILE = f, DSN = ddddddd)  W03: FILES ( g TO 4 ) ARE TO BE CRUSHED.  W04: YOU SHOULD REPROCESS THE FOLLOWING       O-MT(S) SEQUENTIALY.        (g) #2 - gggg       (h) #2 - hhhh       (4) #2 - iiii  W05: ooooooo IS THE LAST FILE IN THE {E-MT  {ACSLOG COPY-MT}  E01: ??  E02: !! ILLEGAL OMTNO ooooooo  E03: !! AVAILABLE ONLY FOR #2 SG {MT(S)                                    {ACSLOG MT(S)}  E04: !! AVAILABLE ONLY FOR MT(S) AFTER #2-2340  F01: ERR=eee dsn IS NOT ALLOCATED  F02: ERR=eee DASD SPACE IS INSUFFICIENT.  F03: ! OVER THE VIRGIN MT TABLE (MAX m).       CHECK THE { V-MT                   { ACSLOG V-MT } REGISTER FILE.  F04: ! NO VIRGIN MT IS KEPT.       KEEP SOME MT(S),       THEN EDIT THE { VIRGIN                      { ACSLOG VIRGIN }                      MT REGISTER FILE.</pre>	<pre>当該編集MT/ACSLOG コピーMTを再作成す ると、ファイル g以降の内容が壊される。  以下の原MTについて、順に編集MTを作成せよ。  編集MT/ACSLOG コピーMTの最後のファイル である。  入力したユーザ識別子、パスワードあるいはユー ザ名が正しくない。  入力した原MT番号が正しくない。  本サブシステムは2号機SGのMTにのみ適用さ れる。  ACSLOGMT は #2-2340 以前にはない。  データセット dsn が割当てられなかった (コンデ ィションコード eee )  DASD の容量が不足 (コンディションコード eee )  編集MT/ACSLOG コピーMT用バージョンMTの登 録本数が上限 m を越えた。  編集MT/ACSLOG コピーMT 用バージョンMT が 不足した。</pre>	<pre>dsn を確認し、本システム管理者に連絡 する。  DASD の使用域を開放し、再実行する。  バージョンMT登録ファイルの内容を確認し 登録本数を減らしたのち、再実行する。  規準に合ったバージョンMTを初期化し、セ ンタへ保管する。  さらに、バージョンMT登録ファイルに必要 な情報を登録したのち、再実行する。</pre>



表 5.5 編集MT/ACSLOGコピーMT作成用JCL創成時のメッセージ

メ ッ セ ー ジ	状 況	処 置
<p>F05: ! THE VIRGIN MT REGISTER FILE ACSLOG VIRGIN IS BUSY. TRY LATER.</p> <p>F90: ! TOO MANY ERRORS. JOB ABORTED !</p>	<p>新規に編集MT/ACSLOGコピーMTを作成しようとしたが、バージョンMT登録ファイルは既に使用中である。 先行ジョブ終了後、実行せよ。(再作成は実行可能)</p> <p>同一箇所ですら3回以上の設入力をしたため、ジョブは強制終了した。</p>	<p>新規作成の先行ジョブ終了後、再実行する。 新規作成の先行ジョブが無い場合、本システム管理者に連絡する。</p> <p>マニュアル通りに最初から再実行する。</p>

表 5.6 編集MT/ACSLOG コピー-MT 作成時のメッセージ

メ ッ セ ー ジ	状 況	処 置
<p>! NO DATA ON IN-MT. CHECK VOLUME. IF THE JOB ABORTS BECAUSE OF MT VOLUME MISMATCHING, THEN YOU MAY RETRY THE CLIST IMMEDIATELY. !! { Q****ECR } ABORT !!   { Q****ACP } STOP 901</p>	<p>原MTにデータが無い。  COND CODE 901 で終了</p>	<p>原MTを確認する。 (1) MTが正しい場合。     データが記録されていない。 (2) MTが正しくない場合。     正しいMTで再実行する。</p>
<p>! OVER THE { VIRGIN                    } MT REFERENCE TABLE               { ACSLOG VIRGIN }                    SIZE (MAX m). CHECK THE TABLE OR MODIFY THIS PROGRAM. !! { Q****ECR } ABORT !!   { Q****ACP } STOP 902</p>	<p>編集MT/ACSLOG コピー-MT用バージョン MT登録本数が上限mを越えた。 COND CODE 902 で終了</p>	<p>バージョンMT登録ファイルの内容を確認し、登録本数を減らす。</p>
<p>! IN-MT BLKSIZE=i IS NOT EQUAL TO j. JOB ABORTED ! STOP 911</p>	<p>原MTのブロック長がiである。 COND CODE 911 で終了</p>	<p>原MTを確認し、正しければ再実行する。</p>
<p>! NO DATA ON IN-MT. JOB ABORTED ! STOP 912</p>	<p>原MTにデータが無い。 COND CODE 912 で終了</p>	
<p>! IN-MT READ ERROR IS DETECTED AT THE FIRST BLOCK. JOB ABORTED ! STOP 913</p>	<p>原MTの先頭ブロックで読込エラー発生 COND CODE 913 で終了</p>	<p>本システム管理者に連絡</p>
<p>??? MT READ ERROR: ERROR COUNT=i AT j BLOCK.</p>	<p>jブロックでi回目の読込エラー発生、直前のデータを書込む。(100回以上は出力されない。)</p>	
<p>! TOO MANY READ ERRORS (MAX m) JOB ABORTED !</p>	<p>読込エラーがm回を越えた。 COND CODE 914 で終了</p>	<p>本システム管理者に連絡</p>
<p>! OUT-MT WRITE ERROR IS DETECTED AT FTNPUT ROUTINE. i BLOCKS WERE CONVERTED. JOB ABORTED ! STOP 915</p>	<p>編集MT/ACSLOG コピー書込時にアセンブラルーチンFTNPUTで書込エラー発生。 COND CODE 915 で終了</p>	<p>編集MT / ACSLOG コピー-MTのハードチェック</p>

表 5.6 編集MT/ACSLOG コピーMT作成時のメッセージ

メ ッ セ ー ジ	状 況	処 置
!! ILLEGAL TAG NO. tjjjjj	TAG NO. tjjjjj は不条理	編集MT/ACSLOG コピーMT作成プログラムを修正
!! UNDEFIND TAG NO. tjjjjj	TAG NO. tjjjjj は存在しない。	な し
!!!!!! EXPERIMENT DATE yyyy.mm.dd hh:ff:ss THIS PROGRAM IS AVAILABLE FOR MT(S)AFTER 1981.1 STOP 921	試験日は yyyy 年mm 月dd 日 hh 時 ff 分 ss 秒 COND CODE 921 で終了	原MT番号と試験日を確認する。
! THE {V-MT } REFERENCE TABLE PASSWORD IS {ACSLOG V-MT } MISMATCHING. THIS JOB IS TO BE CANCELLED. STOP 991	新規作成時にバージョンMT登録ファイルの パスワードと一致しない(パスワードが故 意に修正されている) COND CODE 991で終了	本システム管理者に連絡
! NO RECORD EXISTS CORRESPONDING TO {O-MT } {ACSLOG-MT } (#x-yyyy).  CHECK EXPRESS DATABASE. STOP 992	原MT(#x-yyyy)に対応するレコード がEXPRESS上に存在しない。 COND CODE 992で終了	本システム管理者に連絡
! TIME SERIES DATA WERE NOT ACCUMULATED BECAUSE THE FILE IS BUSY.	代表点時系列データが蓄積されなかった。	必要ならば再実行
! OVER THE EXPERIMENT NUMBER TABLE (MAX m). IT'S BETTER TO MODIFY THIS PROGRAM.	EXPRESS上の試験番号が上限mを越えた	編集MT/ACSLOG コピーMT作成プログラムの修正。

5.5 外部記憶装置

表 5.7 外部記憶装置の論理基盤番号

論理基盤番号	編集MT作成用 JCL 作成時	編集MT作成時
1		原MT
2		編集MT
3		(1981年以降) RTCデータファイル
4		代表点時系列データファイル
5	入力(コンソール)	入力(カードイメージ)
6	出力(コンソール)	出力(ラインプリンタ・イメージ)
10	編集MT用バージョンMT登録ファイル	
16		詳細出力(ラインプリンタ・イメージ)
21	EXPRESS 管理・検索用データファイル	
22	EXPRESS 管理・検索用データファイル	
44		代表点時系列データ一時ファイル
45	代表点系列データ書込キーファイル	
60	JCL書込用ファイル	
61	JCL書込用一時ファイル	
62		
63	オペレータコンソール メッセージ出力用一時ファイル	

(注) 論理基盤番号 3, 10, 21, 22, 45 は DISP = SHR,  
論理基盤番号 4 は DISP = MOD で指定すること。

5.6 関連プログラム (1983年3月31日現在)

- (1) 編集MT作成用JCL創成コマンドプロシジユア (表5.8)

'Q2011 EXPRESS CLIST(EMTCRT)'

- (2) 編集MT作成用JCL創成プログラム

'Q2011 EXPRESS LOAD(EMTCRTJC)'

- (3) 編集MT作成用プログラム

'Q2011. EXPRESS. LOAD(TP54EX)'

'Q2011. EXPRESS. LOAD(TP82EX)'

- (4) 編集MT用バージョンMT登録ファイル管理用プログラム

'Q2011. EXPRESS. LOAD(VMTTBLCL)'

- (5) 代表点時系列データ蓄積用プログラム

'Q2011. EXPRESS. LOAD(TMSERACC)'

- (6) その他

KDJBR14

MTSET カクログドプロシジユア

'Q201G. EXPLIB. LOAD'

'SYS9. PNC. LOAD'

表 5.8 編集MT作成用 JCL 創成コマンドプロシジユア

```

Q2011,EXPRESS,CLIST(EMTCRT)
00100 PROC 0 HOLD CLEAR USER(USER) CLASS(A) MXER(100) NOMSG
00200 /*
00300 /* HOLD      : NOT EXECUTE BUT THE V-MT TABLE IS HELD BUSY.
00400 /* CLEAR     : SET THE V-MT TABLE READY.
00500 /* USER(*)   : IF SPECIFIED "OWNER", YOU MAY EXECUTE CLEAR OPTION.
00600 /* CLASS(*)  : JOB *****ECP SYSOUT CLASS. DEFAULT IS "A".
00700 /* MXER(*)   : MT READ ERROR MAXIMUM COUNT. DEFAULT IS 100.
00800 /*          : IF MXER IS LESS THAN 0, E-MT IS CEATED, NOT STOP 914.
00900 /* NOMSG    : SUPPRES MT'S MESSAGES TO OPERATORS.
01000 /*
01100 CONTROL NOFLUSH NOMSG
01200 ERROR DO
01300 SET %CODE=%LASTCC
01400 IF %JUMP NE %STR(NOP) THEN GOTO %JUMP
01500 RETURN
01600 END
01700 SET %JUMP=%STR(NOP)
01800 WRITE
01900 WRITE E X P R E S S
02000 FREE ALL
02100 SET %JUMP=%STR(E001)
02200 SET %DSN=%STR('Q201#.EMT.VMTREF.DATA')
02300 ALLOC F(FT10F001) DA(%DSN) SHR
02400 SET %JUMP=%STR(NOP)
02500 IF %LENGTH(%CLEAR) NE 0 THEN GOTO J300
02600 WRITE E-MT(S) CREATION SUBSYSTEM STARTS.
02700 DEL INTRDR,CNTL
02800 ATTR FB80 BL(3120) LR(80) REC(F B)
02900 SET %JUMP=%STR(E001)
03000 SET %DSN=%STR('Q201#.EXPRESS.W.DB.DATA')
03100 ALLOC F(FT21F001) DA(%DSN) SHR
03200 SET %DSN=%STR('Q201#.EXPRESS.W.KEY.DATA')
03300 ALLOC F(FT22F001) DA(%DSN) SHR
03400 SET %JUMP=%STR(E002)
03500 SET %DSN=%STR(INTRDR,CNTL)
03600 ALLOC F(FT60F001) DA(%DSN) NEW CA USING(FB80)
03700 ALLOC F(FT61F001) UNIT(WORK) NEW USING(FB80)
03800 ALLOC F(FT62F001) UNIT(WORK) NEW USING(FB80)
03900 ALLOC F(FT63F001) UNIT(WORK) NEW USING(FB80)
04000 SET %JUMP=%STR(JG10)
04100 ALLOC DA('Q201#.TMSEK.ADDKEY.DATA') SHR
04200 GOTO J011
04300 J010:ALLOC F(FT45F001) DA('Q201#.TMSEK.ADDKEY.DATA') NEW CA USING(FB80)
04400 OPENFILE FT45F001 OUTPUT
04500 SET %FT45F001=%STR( )
04600 PUTFILE FT45F001
04700 CLOSFILE FT45F001
04800 J011:FREE DA('Q201#.TMSEK.ADDKEY.DATA')
04900 SET %JUMP=%STR(NOP)
05000 SET %LMXER=%LENGTH(%MXER)
05100 IF %LMXER LT 6 THEN +
05200 SET %MXER=%SUBSTR(1:6-%LMXER,%STP( )&STR(%MXER))
05300 IF %LMXER GT 6 THEN SET %MXER=100000
05400 WRITE
05500 CALL 'Q2011,EXPRESS,LOAD(EMTCRTJCL)' %CLASS,%STR( )&MXER'
05600 IF %LENGTH(%HOLD) NE 0 THEN EXIT
05700 /* CHECK THE JCL IS EFFECTIVE OR NOT.
05800 SET %JUMP=%STR(J100)
05900 OPENFILE FT60F001 IN
06000 GETFILE FT60F001
06100 CLOSFILE FT60F001
06200 IF %LENGTH(%NOMSG) GT 0 THEN GOTO J110
06300 SET %JUMP=%STR(J120)
06400 OPENFILE FT63F001 IN
06500 J130:GETFILE FT63F001
06600 SE '%FT63F001' 0(2)
06700 GOTO J130
06800 J120:CLOSFILE FT63F001
06900 J110:SET %JUMP=%STR(NOP)
07000 CONTROL FLUSH MSG
07100 SUB INTRDR,CNTL
07200 EXIT
07300 J100:CLOSFILE FT60F001
07400 EXIT
07500 J300:IF %USER EQ %STR(OWNER) THEN GOTO J310
07600 IF %SYSUID EQ %STR(Q2011) THEN GOTO J310
07700 WRITE "CLEAR" OPTION IS NOT AVAILAELL UNDER %SYSUID..
07800 GOTO J320
07900 J310:WRITE JOB Q*****ECP WILL BE ABURTEC.
08000 WRITER %STR(OK ? )
08100 READ RANS
08200 IF %SUBSTR(1,%RANS) NE %STR(Y) THEN GOTO J320
08300 CALL 'Q2011,EXPRESS,LOAD(VMTI&LCL)'
08400 J320:EXIT
08500 E001:WRITE %STR(F01: ERR=%CODE %DSN IS NOT ALLOCATED.)
08600 EXIT
08700 E002:WRITE %STR(F02: ERR=%CODE DASSD SPACE IS INSUFFICIENT.)
08800 EXIT
END OF DATA

```

## 5.7 関連カタログファイル (1983年3月31日現在)

- (1) RTCデータファイル (1981年以降用)  
'Q2010. S121. DATA(RTCNEW)'
- (2) 代表点時系列データファイル  
'Q201#. TMSER DATA'
- (3) 代表点時系列データ書込キーファイル  
'Q201#. TMSER. ADDKEY. DATA'
- (4) 編集MT用バージョンMT登録ファイル  
'Q201#. EMT. VMTREF. DATA'
- (5) EXPRESS用データファイル  
'Q201#. EXPRESS. @. DB. DATA'  
'Q201#. EXPRESS. @. KEY. DATA'
- (6) 編集MT作成用JCL  
'user-id. INTRDR. CNTL'

## 5.8 EXPRESSに管理されない編集MT作成方法

一時的な編集MT作成のためのJCL例を表5.9に示す。

これより作成された編集MTの情報はデータ管理・検索システムに登録されない。

- |         |   |
|---------|---|
| 1行目     | : ジョブカード  |
| 2行目     | : ATTRパラメータは表5.2による。  |
| 3行目     | : 出力先   |
| 5~7行目   | : 原MTと編集MT共にMT SETを依頼<br>オープンで処理を行なう場合は不要   |
| 8~15行目  | : 1980年以前の原MT (#2-1849以前)から編集MTを作成する場合。下線部は編集MTによって変更すること。<br>また、次のステップで同一編集MTを用いる場合は12行目に示すように、DISP=(,PASS)を指定する。14行目のFT16Fφφ1は詳細出力の論理基盤番号 |
| 17~18行目 | : 原MTのみのMTSETを依頼。編集MTは前のステップのものを用いる。<br>オープンで処理を行なう場合は不要  |
| 19~26行目 | : 8~15行目と同様に1980年以前の原MTの処理25行目の指定により、概要出力のみなされる。  |
| 31~39行目 | : 1981年以降の原MT (#2-1850以降)から編集MTを作成する場合<br>38行目のFT16Fφφ1は1980年以前と同様  |

表 5.9 一時的な編集MT作成のためのJCL例

\*\*\*\*\* PNC-O SYSTEM HAS BEEN OPENED BY NEW CENTER ROUTINE \*\*\*\*\*

FACOM OSIV/F4 JOB SUPPORT UTILITIES << JSUPRINT >> V04/L03

DATE 12/13/82 TIME 15.01.08 PAGE 0001

DATA SET NAME : Q2011.EXPRESS.CHIL  
MEMBER NAME : TP82TMP

VOLUME SER. : PNC131  
BLKSIZE : 03120  
LRECL : 00080

.....1.....2.....3.....4.....5.....6.....7.....8

```

00001: //Q2011182 JOB ,TOMITA,MSGCLASS=A,NOTIFY=Q2011, 00000100
00002: // ATTR=(T3,C1,W1) 00000200
00003: /*ROUTE PRINT 5650 00000300
00004: /* 00000400
00005: //MT101 EXEC MTSET,COND=(0,NE), 00000500
00006: // MSG1='101-201114-F4114-VOL001', 00000600
00007: // MSG2='002-250331-C2214-SN0331' 00000700
00008: //FX101 EXEC PGM=TP54TMP,COND=(0,NE) 00000800
00009: //STPLIB DD DSN=Q2011.EXPRESS.LOAD,DISP=SHR 00000900
00010: //FT01F001 DD UNIT=M0800,LABEL=(1,HL,,IN),VOL=SER=VOL001 00001000
00011: //FT02F001 DD UNIT=MTC,VOL=SER=SN0331,LABEL=(3,SL,,OUT),DSN=E.#2-1819, 00001100
00012: // DCB=(LRECL=2100,BLKSIZE=4200,RECFM=FB,DEH=4),DISP=(,PASS) 00001200
00013: //FT06F001 DD SYSOUT=A 00001300
00014: //FT16F001 DD SYSOUT=A 00001400
00015: //FT44F001 DD DUMMY 00001500
00016: /* 00001600
00017: //MT102 EXEC MTSET,COND=(0,NE), 00001700
00018: // MSG1='101-201115-F4115-VOL001' 00001800
00019: //EX102 EXEC PGM=TP54TMP,COND=(0,NE) 00001900
00020: //STPLIB DD DSN=Q2011.EXPRESS.LOAD,DISP=SHR 00002000
00021: //FT01F001 DD UNIT=M0800,LABEL=(1,HL,,IN),VOL=SER=VOL001 00002100
00022: //FT02F001 DD UNIT=MTC,VOL=SER=SN0331,LABEL=(4,SL,,OUT),DSN=E.#2-1820, 00002200
00023: // DCB=(LRECL=2100,BLKSIZE=4200,RECFM=FB,DEH=4) 00002300
00024: //FT06F001 DD SYSOUT=A 00002400
00025: //FT16F001 DD DUMMY 00002500
00026: //FT44F001 DD DUMMY 00002600
00027: /* 00002700
00028: //MT103 EXEC MTSET,COND=(0,NE), 00002800
00029: // MSG1='101-201079-E5506-VOL001', 00002900
00030: // MSG2='002-250332-C2215-SN0332' 00003000
00031: //EX103 EXEC PGM=TP82TMP,COND=(0,NE) 00003100
00032: //STPLIB DD DSN=Q2011.EXPRESS.LOAD,DISP=SHR 00003200
00033: //FT01F001 DD UNIT=M0800,LABEL=(1,SL,,IN),VOL=SER=VOL001,DSN=LOGFILE 00003300
00034: //FT02F001 DD UNIT=MTC,VOL=SER=SN0332,LABEL=(4,SL,,OUT),DSN=E.#2-2114, 00003400
00035: // DCB=(LRECL=2100,BLKSIZE=4200,RECFM=FB,DEH=4) 00003500
00036: //FT03F001 DD DSN=Q2010.S121.DATA(RTCNEW),DISP=SHR,LABEL=(,IN) 00003600
00037: //FT06F001 DD SYSOUT=A 00003700
00038: //FT16F001 DD DUMMY 00003800
00039: //FT44F001 DD DUMMY 00003900
00040: // 00004000

```

—— は変更すべき箇所を示す。

.....1.....2.....3.....4.....5.....6.....7.....8



## 6 補助冷却系評価試験 ACSLOGMT 複写サブシステム

### 6.1 概 要

本サブシステムは、50MWSGTFで実施している補助冷却系評価試験で収録されたACSLOGMTの複写時にEXPRESSに対して必要項目データを自動登録するためのもので、TSS下で動作するACSLOGMT複写用JCL創成ステップとバッチで動作するMT複写ステップとから構成される。これを用いることにより、MT処理時のミスの発生が大幅に低減されるとともに、データ検索システムにおいて最も重要でかつ手間のかかる最新データの蓄積が自動的になされ省力化が計られる。図6.1にACSLOGMTの複写手順を示す。

なお、本サブシステムにより複写されたMTは、単ボリューム多ファイルとして高密度で記録されている点を除けば、ACSLOG原MTと同一のデータ構造を持つ。そのフォーマットを付録Cに示す。

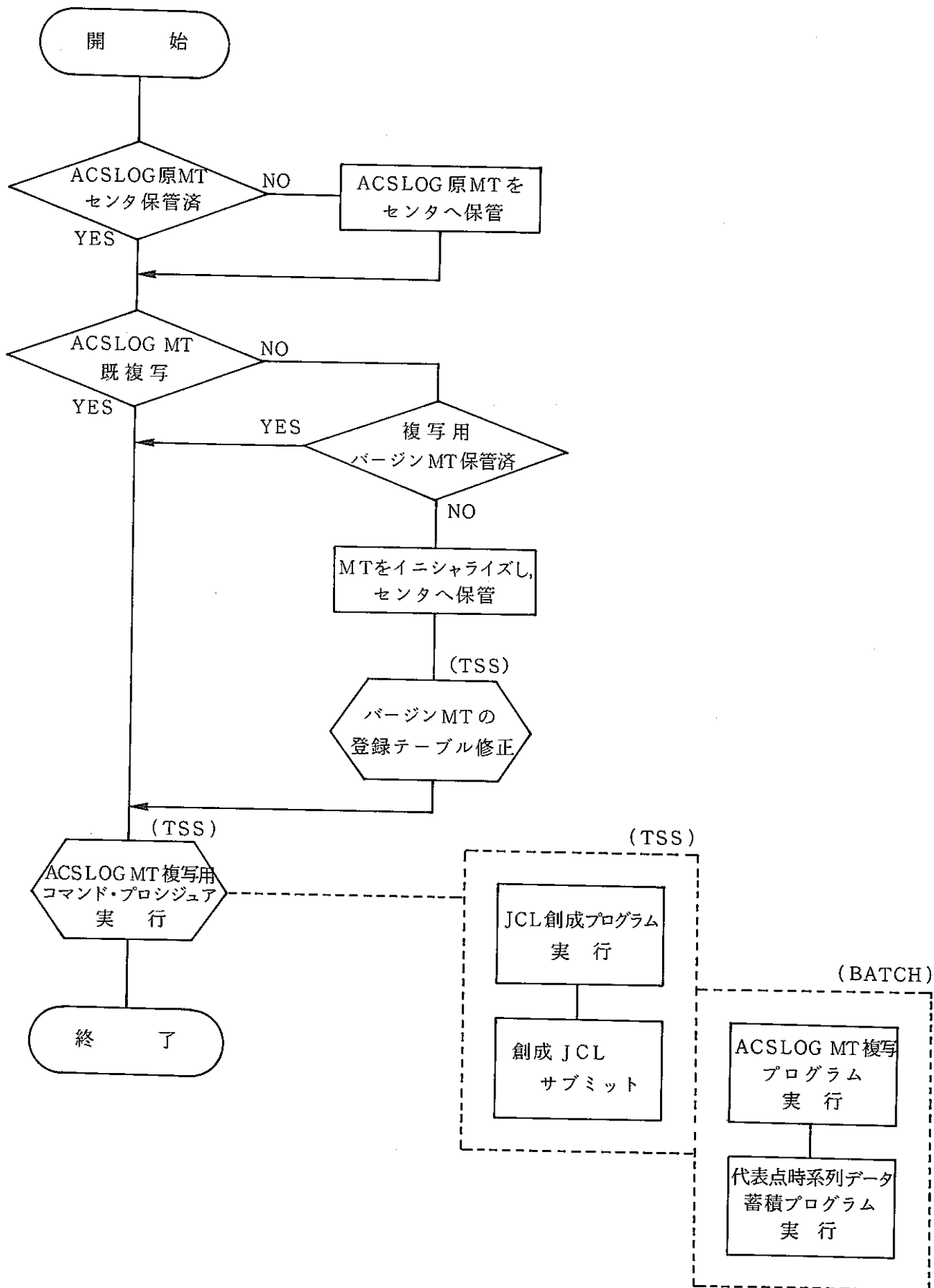


図 6.1 ACSLOGMT 複写手順

## 6.2 ACSLOGMT 複写用バージョンMT 登録ファイル

### (1) ACSLOG 複写用バージョンMT の初期化

- (i) 磁気テープ：6250BPIで記録可能な2400ftのMT
- (ii) 記録密度：6250BPI
- (iii) ラベル形式：SL
- (iv) ボリューム通番：AC○○○○（○○○○は既登録分続く連番とする。）

### (2) ACSLOGMT 複写用バージョンMT 登録

バージョンMT登録ファイルの内容は、ボリューム通番、センタ管理番号、ロッカ番号および預け入れ日で、以下に示す構造をもち、最大100レコードまで登録が可能である。

COL.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
ボリューム番号						管理番号						ロッカ番号						預け入れ日							
_ _ _ _ _						_ _ _ _ _						_ _ _ _ _						_ _ _ _ _							
_ _ _ _ _						_ _ _ _ _						_ _ _ _ _						_ _ _ _ _							
_ _ _ _ _						_ _ _ _ _						_ _ _ _ _						_ _ _ _ _							
_ _ _ _ _						_ _ _ _ _						_ _ _ _ _						_ _ _ _ _							

ファイルの最後のレコードとして、次に登録すべきMTのボリューム通番のみを記録しておくことが望ましい。

登録ファイルのデータセット名は'Q201#.ACSCPY.VMTREF.DATA'で、内容の追加等はTSSのEDITコマンドを用いて行なう。

登録ファイルの内容の一例を表6.1に示す。各レコードの28カラム以降はシステムが使用している。

表 6.1 ACSLOGMT 複写用バージョンMT登録ファイルの内容

DATA SET NAME : Q201#.ACSCPY.VMTREF.DATA

LRECL : 00080

VOLUME SER. : PNC121

BLKSIZ : 03120

入力項目

.....\*.....1.....\*.....2.....\*.....3.....\*.....4.....\*.....5.....\*.....6.....\*.....7.....\*.....8

00001:	AC0014	201188	F4509	821004	2
00002:	AC0015	201189	F4510	821004	1
00003:	AC0016	201190	F4511	821004	1
00004:	AC0017	201191	F4512	821004	1
00005:	AC0018	201192	F4513	821004	1
00006:	AC0019	201193	F4514	821004	1
00007:	AC0020	201194	F4515	821004	1
00008:	AC0021				← 未登録の複写用MT

.....\*.....1.....\*.....2.....\*.....3.....\*.....4.....\*.....5.....\*.....6.....\*.....7.....\*.....8

### 6.3 ACSLOGMT 複写手順

#### 6.3.1 ACSLOGMT 複写サブシステムの起動

本サブシステムは、TSS セッション内で下記コマンドにより起動される。

```
EXEC 'Q2011. EXPRESS. CLIST (ACSCPY)'
```

以下、下線 ( \_\_\_\_\_ ) は端末からの入力を示す。

#### 6.3.2 MT 複写用 JCL 創成プログラム使用法

実行は全て対話形式で、プロンプタに続き左づめで入力する。

```
001 : _USER - ID _____ => ユーザ識別子
```

```
002 : _PASSWORD _____ => パスワード
```

```
003 : _YOUR _NAME _____ => ユーザ名
```

```
010 : _ ( _n ) _ENTER _OMTNO ( _" #X - YYYY " _OR _"/" _ ) _ => _____
```

( 原MT 番号を入力せよ。)

```
{ # 2 - 0000 : 原MT 番号
  /           : 終了
  ( その他 ) : エラーメッセージを出力し、問い返す。}
```

```
011 : _____ O - KEEP # _ => _____
```

( 原MT センタ管理番号を入力せよ。)

```
012 : _____ O - LOCK # _ => _____
```

( 原MT ロッカ番号を入力せよ。)

\_\_\_\_\_ OMTNO = 原MT 番号    \_ OKEEP = センタ管理番号    \_ OLOCK = ロッカ番号

```
013 : _OK _? _ => _____
```

( 指定した原MT 番号等は正しいか。)

```
{ YES } : 原MT 番号, センタ管理番号, ロッカ番号が全て正しい場合。
  OK }
```

NO : 入力されたもののいずれかが正しくない場合。

(その他) : 問い返す。

```
014 : _UPDATE _O - KEEP # _OR _O - LOCK # _? _ => _____
```

( センタ管理番号あるいはロッカ番号を修正するか。)

- YES : 登録済の管理番号等を修正する場合。
- NO : 修正しないで別の原MTの処理を行なう場合。
- (その他) : 問い返す。

EXPNO(S) (MAX 50)

015 : => \_\_\_\_\_

(試験番号を入力せよ。)

- (i) 試験番号は、スラッシュ (/) 以外で始まるマイナス (-), 空白およびカンマ (,) を除く 15 文字以内の英数字で、最大 50 個まで指定可能で、区切り文字により 1 行に複数個入力できる。また、全ての試験番号が 1 行で入力できない場合、複数行の入力が可能である。なお、マイナスおよび 1 つの試験番号の 15 文字を越える部分は無視される。
- (ii) 試験番号の区切りは、
  - (a) 1 つ以上の空白
  - (b) 1 つのカンマ
  - (c) 1 つ以上の空白に囲まれた 1 つのカンマ
  - (d) 1 行の終わり
- (iii) 全ての試験番号の終わりは、
  - (a) / \*
  - (b) 区切り文字の次にあらわれるスラッシュ
  - (c) 空行

\*\*\* EXPERIMENT NUMBER (n) \*\*\*

入力された試験番号一覧

016 : ALL OF EXPNO(S) IS OK? => \_\_\_\_\_

(入力された試験番号は正しいか。)

- { YES } : 入力した試験番号が全て正しい場合。
- OK
- NO : いずれかが正しくない場合。
- (その他) : 問い返す。

W02 : A COPY-MT HAS ALREADY BEEN CREATED (mm/dd/yy).

(KEEP = センタ管理番号, LOCK = ロッカ番号, VOL = SER = ボリューム通番, FILE = ファイル番号, DSN = データセット名)

W03 : FILES ( f TO 4 ) ARE TO BE CRUSHED.

017 : REWRITE THIS E-MT ? => \_\_\_\_\_

( 複写MTは既に作成されており、以降のファイルが壊されるが、複写MTを書き直してよいか。)

{ YES } : 書き直しをする場合  
 { OK }  
 NO : 書き直しをしない場合。  
 (その他) : 問い返す。

050 : SITE-ID IS SG50 ? => \_\_\_\_\_

( 出力先はシステム設計室RJE端末か。)

YES : システム設計開発室RJE 端末に出力する場合。  
 NO : 他の場所に出力する場合。  
 (その他) : 問い返す。

052 : ENTER SITE-ID => \_\_\_\_\_

( 結果の出力先を指定せよ。)

CENTRAL : 計算センタラインプリンタ

SG50 : システム設計開発室RJE 端末

Rnn : 他のRJE 端末

### 6.3.3 MT複写プログラムの起動

以下のバッチジョブが自動的にサブミットされる。

- (i) ジョブ名 : ( ユーザ識別子 ) ACP
- (ii) ATTRパラメータ : ATTR = ( T0, C1, W1 )

### 6.3.4 一般事項

- (1) 新規に複写MTを作成するジョブが実行待ちあるいは実行中の場合、新規に複写MTを作成するJCLを作ることはできない。
- (2) 1回のJCL創成プログラム起動では原MTを20本まで処理できる。ただし、複写MTは単ボリューム多ファイルで作成されており、複写MT単位あるいはその整数倍であることが望ましい。( 現在1ボリュームに4ファイルまで作成できる。)
- (3) MT再複写の場合、書き直された部分より後方にあるデータは壊される。このため、複写MTの同一ボリューム内では、ファイル順に実行しなければならない。

- (4) MT複写用に創成されたJCLはTSSセッション開設時のユーザ識別子を第1修飾子とするデータセット名

user-id. INTRDR. CNTL

でカタログされ、次に同一ユーザ識別子でJCL創成用プロシジユアを実行するまで内容は保存される。

#### 6.3.5 実行例

MT複写用JCL創成例を表6.2に示す。また、これにより創成されたJCLの内容を表6.3に示す。



表 6.2 ACSLOGMT 複写用 JCL 創成例

```

EX 'Q2011.EXPRESS.CLIST(ACSCPY)'

E X P R E S S
ACS-LOG MT(S) COPY SUBSYSTEM STARTS.

001: USER-ID    =>Q2011
002: PASSWORD   =>
003: YOUR NAME  =>TOMITA

010: ( 1) ENTER OMTNO( "#X-YYYY" OR "/" ) =>#2-2559
011:           O-KEEP# =>201239
012:           O-LOCK# =>E5220
           OMTNO=#2-2559 OKEEP=201289 OLOCK=E5220
013: OK ? =>YES
           EXPNO(S) (MAX 50)
015: =>ADA2-0BD1-7 ADA2-0BD2-15 ADA2-0BD1-6, ADA2-0BD2-7
015: =>ADA2-0BD1-9 , ADA2-0BD2-18
015: =>
*** EXPERIMENT NUMBER ( 6) ***
ADA20BD17          ADA20BD215          ADA20BD16          ADA20BD27          ADA20BD19
ADA20BD218,
016: ALL OF EXPNO(S) IS OK ? =>YES

010: ( 2) ENTER OMTNO( "#X-YYYY" OR "/" ) =>#2-2555
           OMTNO=#2-2555 OKEEP=201287 OLOCK=E5218
013: OK ? =>YES
W02: A COPY-MT HAS ALREADY BEEN CREATED ( 83/03/02 ).
           (KEEP=201188,LOCK=F4509,VOL=SER=AC0014,FILE=3,DSN=A.#2-2555)
W03: FILES(4 TO 4) ARE TO BE CRUSHED.
017: REWRITE THIS COPY-MT ? =YES
W04: YOU SHOULD REPROCESS THE FOLLOWING O-MT(S) SEQUEFCIALLY.
           (4)#2-2557

010: ( 3) ENTER OMTNO( "#X-YYYY" OR "/" ) =>#2-2557
           OMTNO=#2-2557 OKEEP=201288 OLOCK=E5219
013: OK ? =>YES
W02: A COPY-MT HAS ALREADY BEEN CREATED ( 83/03/02 ).
           (KEEP=201188,LOCK=F4509,VOL=SER=AC0014,FILE=4,DSN=A.#2-2557)

010: ( 4) ENTER OMTNO( "#X-YYYY" OR "/" ) =>/
050: SITE-ID IS SG50 ? =>YES

```

表 6.3 ACSLOGMT 複写用 JCL 例

```

Q2011.INTROR.CNTL
1 //Q2011ACP JOB ,TOMITA,MSGCLASS=A,NOTIFY=Q2011,
2 // ATTR=(TO,C1,W1)
3 //ROUTE PRINT S650
4 //*
5 //*
6 //*
7 //MT102 EXEC MTSET,COND=(0,NE),
8 // MSG1='I01-201287-E5218-AC5000',
9 // MSG2='002-201188-F4509-AC0014'
10 //EX102 EXEC PGM=ACSCPYEX,COND=(0,NE)
11 //STEPLIB DD DSN=Q2011.EXPRESS.LOAD,DISP=SHR
12 //FT01F001 DD UNIT=M060G,LABEL=(1,SL,,IN),VOL=SER=AC5000,DSN=ACS-LOG
13 //FT02F001 DD UNIT=MTC,VOL=SER=AC0014,LABEL=(3,SL,,OUT),DSN=A.#2-2555,
14 // DISP=(,PASS),DCB=(LRECL=1024,BLKSIZE=10240,RECFM=FB,DSN=4)
15 //FT05F001 DD *
16 #2-2555 0 201188 F4507 AC0014 3 100 UACS
17 /*
18 //FT06F001 DD SYSOUT=A
19 //FT10F001 DD DSN=Q201#.ACSCPY.VMTREF.DATA,DISP=SHR
20 //FT21F001 DD DSN=Q201#.EXPRESS.#.DB.DATA,DISP=SHR
21 //FT22F001 DD DSN=Q201#.EXPRESS.#.KEY.DATA,DISP=SHR
22 //FT44F001 DD UNIT=WORK,DSN=8&TMSER,SPACE=(TRK,(1,1)),
23 // DCB=(LRECL=136,BLKSIZE=2992,RECFM=FB),DISP=(,PASS)
24 //AC102 EXEC PGM=TMSERACC,COND=(0,NE)
25 //STEPLIB DD DSN=Q2011.EXPRESS.LOAD,DISP=SHR
26 //FT04F001 DD DSN=Q201#.TMSER.DATA,DISP=MOD
27 //FT06F001 DD SYSOUT=A
28 //FT21F001 DD DSN=Q201#.EXPRESS.#.DB.DATA,DISP=SHR
29 //FT22F001 DD DSN=Q201#.EXPRESS.#.KEY.DATA,DISP=SHR
30 //FT44F001 DD UNIT=WORK,DSN=8&TMSER,DISP=(OLD,DELETE)
31 //FT45F001 DD DSN=Q201#.TMSER.ADDKEY.DATA,DISP=SHR
32 //*
33 //*
34 //MT103 EXEC MTSET,COND=(0,NE),
35 // MSG1='I01-201288-E5219-AC5000'
36 //EX103 EXEC PGM=ACSCPYEX,COND=(0,NE)
37 //STEPLIB DD DSN=Q2011.EXPRESS.LOAD,DISP=SHR
38 //FT01F001 DD UNIT=M060G,LABEL=(1,SL,,IN),VOL=SER=AC5000,DSN=ACS-LOG
39 //FT02F001 DD UNIT=MTC,VOL=SER=AC0014,LABEL=(4,SL,,OUT),DSN=A.#2-2557,
40 // DISP=(,PASS),DCB=(LRECL=1024,BLKSIZE=10240,RECFM=FB,DSN=4)
41 //FT05F001 DD *
42 #2-2557 0 201188 F4509 AC0014 4 100 UACS
43 /*
44 //FT06F001 DD SYSOUT=A
45 //FT10F001 DD DSN=Q201#.ACSCPY.VMTREF.DATA,DISP=SHR
46 //FT21F001 DD DSN=Q201#.EXPRESS.#.DB.DATA,DISP=SHR
47 //FT22F001 DD DSN=Q201#.EXPRESS.#.KEY.DATA,DISP=SHR
48 //FT44F001 DD UNIT=WORK,DSN=8&TMSER,SPACE=(TRK,(1,1)),
49 // DCB=(LRECL=136,BLKSIZE=2992,RECFM=FB),DISP=(,PASS)
50 //AC103 EXEC PGM=TMSERACC,COND=(0,NE)
51 //STEPLIB DD DSN=Q2011.EXPRESS.LOAD,DISP=SHR
52 //FT04F001 DD DSN=Q201#.TMSER.DATA,DISP=MOD
53 //FT06F001 DD SYSOUT=A
54 //FT21F001 DD DSN=Q201#.EXPRESS.#.DB.DATA,DISP=SHR
55 //FT22F001 DD DSN=Q201#.EXPRESS.#.KEY.DATA,DISP=SHR
56 //FT44F001 DD UNIT=WORK,DSN=8&TMSER,DISP=(OLD,DELETE)
57 //FT45F001 DD DSN=Q201#.TMSER.ADDKEY.DATA,DISP=SHR
58 //NO200 EXEC PGM=XDJBR14
59 //DD DD UNIT=MTC,LABEL=(1,BLP),VOL=SER=AC0014
60 //*
61 //*
62 //*
63 //MT101 EXEC MTSET,COND=(0,NE),
64 // MSG1='I01-201289-E5220-AC5000',
65 // MSG2='002-201189-F4510-AC0015'
66 //EX101 EXEC PGM=ACSCPYEX,COND=(0,NE)
67 //STEPLIB DD DSN=Q2011.EXPRESS.LOAD,DISP=SHR
68 //FT01F001 DD UNIT=M060G,LABEL=(1,SL,,IN),VOL=SER=AC5000,DSN=ACS-LOG
69 //FT02F001 DD UNIT=MTC,VOL=SER=AC0015,LABEL=(1,SL,,OUT),DSN=A.#2-2559,
70 // DISP=(,PASS),DCB=(LRECL=1024,BLKSIZE=10240,RECFM=FB,DSN=4)
71 //FT05F001 DD *
72 #2-2559 39953 201189 F4510 AC0015 1 100 UACS
73 /*
74 //FT06F001 DD SYSOUT=A
75 //FT10F001 DD DSN=Q201#.ACSCPY.VMTREF.DATA,DISP=SHR
76 //FT21F001 DD DSN=Q201#.EXPRESS.#.DB.DATA,DISP=SHR
77 //FT22F001 DD DSN=Q201#.EXPRESS.#.KEY.DATA,DISP=SHR
78 //FT44F001 DD UNIT=WORK,DSN=8&TMSER,SPACE=(TRK,(1,1)),
79 // DCB=(LRECL=136,BLKSIZE=2992,RECFM=FB),DISP=(,PASS)
80 //AC101 EXEC PGM=TMSERACC,COND=(0,NE)
81 //STEPLIB DD DSN=Q2011.EXPRESS.LOAD,DISP=SHR
82 //FT04F001 DD DSN=Q201#.TMSER.DATA,DISP=MOD
83 //FT06F001 DD SYSOUT=A
84 //FT21F001 DD DSN=Q201#.EXPRESS.#.DB.DATA,DISP=SHR
85 //FT22F001 DD DSN=Q201#.EXPRESS.#.KEY.DATA,DISP=SHR
86 //FT44F001 DD UNIT=WORK,DSN=8&TMSER,DISP=(OLD,DELETE)
87 //FT45F001 DD DSN=Q201#.TMSER.ADDKEY.DATA,DISP=SHR
88 //NO200 EXEC PGM=XDJBR14
89 //DD DD UNIT=MTC,LABEL=(1,BLP),VOL=SER=AC0015
90 //*
91 //*
92 //EX000 EXEC PGM=VMTIBLCL,COND=((990,LT),EVEN)
93 //STEPLIB DD DSN=Q2011.EXPRESS.LOAD,DISP=SHR
94 //FT06F001 DD SYSOUT=A
95 //FT10F001 DD DSN=Q201#.ACSCPY.VMTREF.DATA,DISP=SHR
96 //
END OF DATA

```



6.6 関連プログラム (1983年3月31日現在)

- (1) MT複写用JCL創成コマンドプロシジユア (表6.5)  
' Q 2011 . EXPRESS . CLIST ( ACSCPY ) '
- (2) MT複写用JCL創成プログラム  
' Q 2011 . EXPRESS . LOAD ( ACSCPYJC ) '
- (3) MT複写用プログラム  
' Q 2011 . EXPRESS . LOAD ( ACSCPYEX ) '
- (4) 複写MT用バージョンMT登録ファイル管理用プログラム  
' Q 2011 . EXPRESS . LOAD ( VMTTBLCL ) '
- (5) 代表点時系列データ蓄積用プログラム  
' Q 2011 . EXPRESS . LOAD ( TMSERACC ) '
- (6) その他  
KDJBR14  
MTSETカクログドプロシジユア  
' Q 201 G . EXPLIB . LOAD '  
' SYS9 . PNC . LOAD '

表 6.5 ACSLOGMT 複写用 JCL 創成コマンドプロシジユア

```

02011.EXPRESS.CLIST(ACSCPY)
00100 PROC 0 HOLD CLEAR USER(USER) CLASS(A) MXER(100) COMENT(UACS) NOMSG
00200 /*
00300 /* HOLD      : NOT EXECUTE BUT THE V-MT TABLE IS HELD BUSY.
00400 /* CLEAR     : SET THE V-MT TABLE READY.
00500 /* USER(*)   : IF SPECIFIED "OWNER", YOU MAY EXECUTE CLEAR OPTION.
00600 /* CLASS(*)  : JOB *****ACP SYSOUT CLASS, DEFAULT IS "A".
00700 /* MXER(*)   : MT READ ERROR MAXIMUM COUNT, DEFAULT IS 100.
00800 /*          : IF MXER IS LESS THAN 0, E-MT IS CREATED, NOT STOP 914.
00900 /* COMENT(*) : A DATA ITEM OF EXPRESS, DEFAULT IS "UACS".
01000 /* NOMSG    : SUPPRESS MT'S MESSAGES TO OPERATORS.
01100 /*
01200          CONTROL NOFLUSH NOMSG
01300 ERROR DO
01400          SET %CODE=%LASTCC
01500          IF %JUMP NE %STR(NOP) THEN GOTO %JUMP
01600          RETURN
01700          END
01800          SET %JUMP=%STR(NOP)
01900 WRITE
02000 WRITE EXPRESS
02100          FREE ALL
02200          SET %JUMP=%STR(E001)
02300          SET %DSN=%STR('Q201#.ACSCPY.VMTREF.DATA')
02400          ALLOC DA(%DSN) F(FT10F001) SHR
02500          SET %JUMP=%STR(NOP)
02600          IF %LENGTH(%CLEAR) NE 0 THEN GOTO J300
02700 WRITE ACS-LOG MT(S) COPY SUBSYSTEM STARTS.
02800          DEL INTRDR.CNTL
02900          ATTR FB80 BL(3120) LR(%G) REC(F,B)
03000          SET %JUMP=%STR(E001)
03100          SET %DSN=%STR('Q201#.EXPRESS.#.DB.DATA')
03200          ALLOC DA(%DSN) F(FT21F001) SHR
03300          SET %DSN=%STR('Q201#.EXPRESS.#.KEY.DATA')
03400          ALLOC DA(%DSN) F(FT22F001) SHR
03500          SET %JUMP=%STR(E002)
03600          SET %DSN=%STR(INTRDR.CNTL)
03700          ALLOC DA(%DSN) F(FT60F001) NEW CA USING(FB80)
03800          ALLOC F(FT61F001) UNIT(WORK) NEW USING(FB80)
03900          ALLOC F(FT62F001) UNIT(WORK) NEW USING(FB80)
04000          ALLOC F(FT63F001) UNIT(WORK) NEW USING(FB80)
04100          SET %JUMP=%STR(J010)
04200          ALLOC DA('Q201#.TMSE.#.ADDKEY.#.DATA') SHR
04300          GOTO J011
04400 J010: ALLOC DA('Q201#.TMSE.#.ADDKEY.#.DATA') F(FT45F001) NEW CA USING(FB80)
04500          OPENFILE FT45F001 OUTPUT
04600          SET %FT45F001=%STR( )
04700          PUTFILE FT45F001
04800          CLOSFILE FT45F001
04900 J011: FREE DA('Q201#.TMSE.#.ADDKEY.#.DATA')
05000          SET %JUMP=%STR(NOP)
05100          SET %LMXER=%LENGTH(%MXER)
05200          IF %LMXER LT 6 THEN +
05300              SET %MXER=%SUBSTR(1:6-%LMXER,%STR( )%STR(%MXER))
05400          IF %LMXER GT 6 THEN SET %MXER=100000
05500 WRITE
05600          CALL 'Q2011.EXPRESS.LOAD(ACSCPYJCL)' '%CLASS.%STR( )%MXER.%COMENT'
05700          IF %LENGTH(%HOLD) NE 0 THEN EXIT
05800 /* CHECK THE JCL IS EFFECTIVE OR NOT.
05900          SET %JUMP=%STR(J100)
06000          OPENFILE FT60F001 IN
06100          GETFILE FT60F001
06200          CLOSFILE FT60F001
06300          IF %LENGTH(%NOMSG) GT 0 THEN GOTO J110
06400          SET %JUMP=%STR(J120)
06500          OPENFILE FT63F001 IN
06600 J130: GETFILE FT63F001
06700          SE '%FT63F001' 0(2)
06800          GOTO J130
06900 J120: CLOSFILE FT63F001
07000 J110: SET %JUMP=%STR(NOP)
07100          CONTROL FLUSH MSG
07200          SUB INTRDR.CNTL
07300          EXIT
07400 J100: CLOSFILE FT60F001
07500          EXIT
07600 J300: IF %USER EQ %STR(OWNER) THEN GOTO J310
07700          IF %SYSUID EQ %STR(Q2011) THEN GOTO J310
07800          WRITE "CLEAR" OPTION IS NOT AVAILABLE UNDER %SYSUID..
07900          GOTO J320
08000 J310: WRITE JOB *****ACP WILL BE ABORTED.
08100          WRITENR %STR(OK ? )
08200          READ %ANS
08300          IF %SUBSTR(1,%ANS) NE %STR(Y) THEN GOTO J320
08400          CALL 'Q2011.EXPRESS.LOAD(VMTTBLCL)'
08500 J320: EXIT
08600 E001: WRITE %STR(F01: ERR=%CODE %DSN IS NOT ALLOCATED.)
08700          EXIT
08800 E002: WRITE %STR(F02: ERR=%CODE %DASD SPACE IS INSUFFICIENT.)
08900          EXIT
          END OF DATA
READY

```

6.7 関連カクログファイル (1983年3月31日現在)

- (1) 代表点時系列データファイル  
' Q 201 # .TMSER .DATA '
- (2) 代表点時系列データ書込キーファイル  
' Q 201 # .TMSER .ADDKEY .DATA '
- (3) 複写MT用バージョンMT登録ファイル  
' Q 201 # .ACSCP Y .VMTREF .DATA '
- (4) EXPRESS用データファイル  
' Q 201 # .EXPRESS .@ .DB .DATA '  
' Q 201 # .EXPRESS .@ .KEY .DATA '
- (5) MT複写用JCL  
' user-id .INTRDR .CNTL '

## 7 代表点データ時系列出力サブシステム

### 7.1 概要

本サブシステムは、50MWSGTF試験データ編集MT作成サブシステムおよび補助冷却系評価試験 ACSLOGMT 複写サブシステムにより蓄積された50MWSGTFの運転状態を示す32項目の時系列プラントデータを図形出力するためのものである。処理形態は蓄積データが一定件数を越えた時になされる定期処理と、利用者が必要に応じて行なう随時処理の2種類である。

定期処理は、試験データ処理蓄積用の上記サブシステムの1ステップとして自動的に起動される。時系列データがGCOMに図形出力されていない原MTが48本に達すると、GCOMに標準フォーマットで出力し、管理検索項目のTMSERの値を'IT'から'IP'に変更し、出力済であることを示す。

随時処理は、会話型のプログラムを起動し、原MT番を指定することにより、任意のTag. NOの時系列データを、NLP、バーサテックあるいはグラフィック端末に出力する。

いずれもEXPRESSのもとで動作し、必要項目の登録、参照がなされる。処理の流れを図7.1に示す。

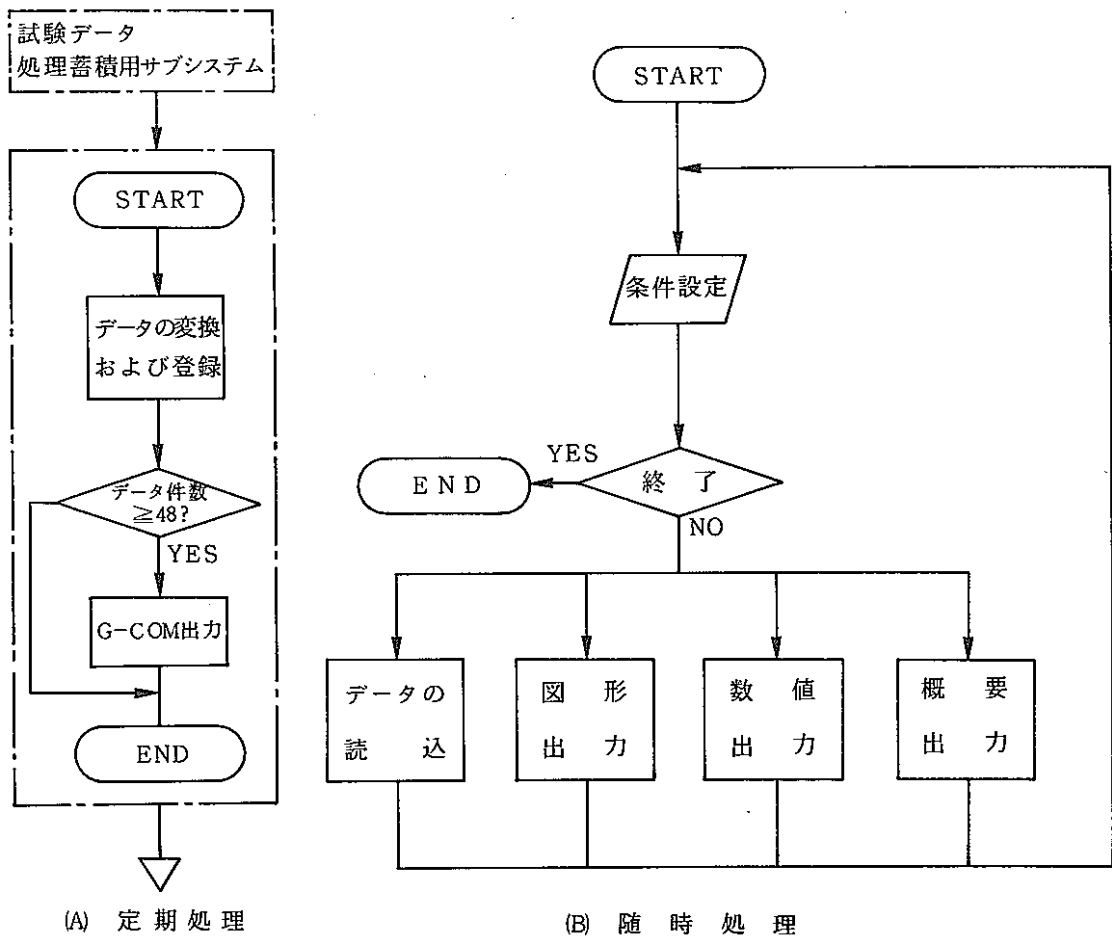


図 7.1 代表点データ時系列出力サブシステムの流れ

## 7.2 代表点データ時系列出力サブシステム使用方法

### 7.2.1 サブシステムの起動

サブシステムの起動はTSSセッション内で下記のTSS コマンドにより行なう。

```
CALL 'Q201G.EXPRESS.LOAD(EXPLOTT)'
```

なお、NLPへ図形出力する場合は、TSSセッションを1024KBで開設する必要がある。

起動後、画面にコマンド入力可能であることを示す==>が表示された後、対話型式で必要に応じた命令を入力することができる。

### 7.2.2 命令の概要

本サブシステムで使用できる命令の機能一覧を表7.1に示す。各命令における命令とオペランドの区切りは、

- 1) 1つ以上の空白
- 2) 1つのカンマ( , )
- 3) 1つ以上の空白に囲まれる1つのカンマ

によってなされる。

表 7.1 代表点データ時系列出力サブシステムコマンド一覧

コマンド名	機 能
LOAD	特定の原MT番号に対応する代表点時系列データを読み込む
TITLE	指定フォーマットの場合図の標題を変更する。
SIZE	指定フォーマットの場合図の大きさを変更する。
PLOT	読み込まれたデータを標準フォーマットで図形出力する。
SPLOT	読み込まれたデータを指定フォーマットで図形出力する。
PRINT	読み込まれたデータを数値でラインプリンタ出力する。
LIST	読み込まれたデータを数値で画面表示する。
INDEX	代表点時系列データの概要をラインプリンタ出力する。

### 7.2.3 代表点時系列データ項目

扱われるデータは原MT番号で指定される。代表点時系列データ項目は表4.2のうちの施設運転条件データで、項目名(Key, Tag. NO)で識別される。各項目のプラントにおける配置位置を図4.2に示す。

### 7.2.4 図形出力フォーマット

#### (1) 標準フォーマット

図の下部に原MT番号、試験開始日時、図の上部に原MT番号、ページを出力し、図の横軸



はACSLOGMTの場合は14時間、その他は85分とし、縦軸はTag. NO 毎に最大値を設定する。図示されるTag. NOは6グループに分けられ、各図はGraph-idで識別される。表7.2に標準フォーマットのGraph-idと図示されるTag. NOを示す。

(2) 指定フォーマット

出力形式は、標準フォーマットと同一であるが、以下の条件を変更可能で、図の下部に標題が出力される。

- i) Tag. NO (最大6個)
- ii) 横軸, 縦軸の長さ
- iii) 図の標題

表 7.2 標準フォーマット出力の図示項目

Graph-id	
A	F11005, F11009, T11007 T11008, T11010, T11011
B	F11007, F11008, T11001 T11006, S11001
C	F12003, F12003, T12001 F13022
D	F12002, T23001, T23002 T23004, T23003, S12001
E	F13021, T27001, T27002 T27003, T27004, P27010

7.2.5 サブシステムの終了

サブシステムの終了には、ENDコマンドを入力する。

7.3 代表点データ時系列出力サブシステム命令

7.3.1 LOAD コマンド

LOAD コマンドは、指定された原MT番号の代表点時系列データを作業領域にロードする。

LOAD omtno

omtno: 原MT番号 (# × - × × × ×)

〔使用例〕

```
LOAD #2-2643
LO #1-0157
```

## 7.3.2 PLOT コマンド

PLOT コマンドは、標準フォーマットで図形出力を行なう。

```
PLOT { graph-id } [ DEVICE(device) ] [ CLASS(class) ]
      { ALL }
```

graph-id : 図の識別名 (表 7.2) であり, A~F を指定する。'ALL' を指定すると, A~F のすべての図が出力される。

device : 図形出力機器を指定する。指定の方法は以下の通りである。

TTY = グラフィック表示端末 (CRT30)

NLP = 日本語ラインプリンタ

VER = バーサテック

省略すると TTY となる。

class : 図形出力クラスを指定する。省略すると, 出力クラスは R となる。

〔使用例〕

```
PLOT B
PL ALL DEVICE(NLP) CLASS(E)
```

## 7.3.3 SIZE コマンド

SIZE コマンドは、指定フォーマットの場合の図の大きさを変更する。

```
SIZE [ x ] [ , y ]
```

x : X 軸 (横軸) の長さ。単位は cm。省略すると 25 cm となる。この場合, 図全体の横幅は 33 cm である。

y : Y 軸 (縦軸) の長さ。単位は cm。省略すると 18 cm となる。この場合, 図全体の高さは 26 cm である。

なお, 初期値は  $x = 25 \text{ cm}$ ,  $y = 18 \text{ cm}$  である。

〔使用例〕

```
SIZE 10 6
SI
SI , 15
```

## 7.3.4 TITLE コマンド

TITLE コマンドは、指定フォーマットの場合の図の標題を変更する。

TITLE ( title )

title : 標題の文字列で、最大 40 文字まで指定できる。文字列に空白を含む場合は、リテラル ( ' ) で囲む。title を省略すると空白となる。

なお、初期値は全て空白である。

〔使用例〕

```
TITLE    CASE1
TI
TI      'FIGURE TITLE'
```

## 7.3.5 SPLOT コマンド

SPLOT コマンドは、指定フォーマットで図形出力を行なう。

SPLOP 'tag-no list' [DEVICE (device)] [CLASS (class)]

'tag-no list' : Tag-NOを指定する (最大 6 個)。

device : 図形出力機器を指定する。指定の方法は以下の通りである。

TTY = グラフィック表示端末 (CRT 30)

NLP = 日本語ラインプリンタ

VER = バーサテック

省略すると TTY となる。

class : 図形出力クラスを指定する省略すると出力クラスは R となる。

〔使用例〕

```
SPLOT    S11001    S12001    P27010
SP      T23001    T23002    DEVICE(NLP)    CLASS(E)
```

## 7.3.6 PRINT コマンド

PRINT コマンドは、代表点時系列データの数値出力をラインプリンタに行なう。

PRINT ('tag-no list') [DEST (dest)] [CLASS (class)]

'tag-no list' : tag-NOを指定する。省略すると全ての項目が出力される。

dest : RJE 端末名を指定する。省略すると RMT11 となる。

class : 出力クラスを指定する。省略すると、出力クラスは A となる。

〔使用例〕

```
PRINT
PR      T23003   T23004   DEST(CENTRAL)
```

## 7.3.7 LISTコマンド

LIST コマンドは、代表点時系列データを数値表示する。

```
LIST [ 'tag-no list' ]
```

'tag-no list': tag-NO を指定する (最大10項目)。

省略すると、以前に投入されたLIST コマンドのオペランドが有効となる。

〔使用例〕

```
LIST   T23001   T23002
LI
```

## 7.3.8 INDEX コマンド

INDEX コマンドは、蓄積された全ての代表点時系列データの概要をラインプリンタに出力する。

```
INDEX [ DEST(dest) ] [ CLASS(class) ]
```

dest : RJE 端末名を指定する。省略すると、RMT11 となる。

class : 出力クラスを指定する。省略すると、出力クラスは R となる。

〔使用例〕

```
INDEX
IN      DEST(CENTRAL)   CLASS(A)
```

## 7.3.9 END コマンド

END コマンドは、プログラムを終了させる。

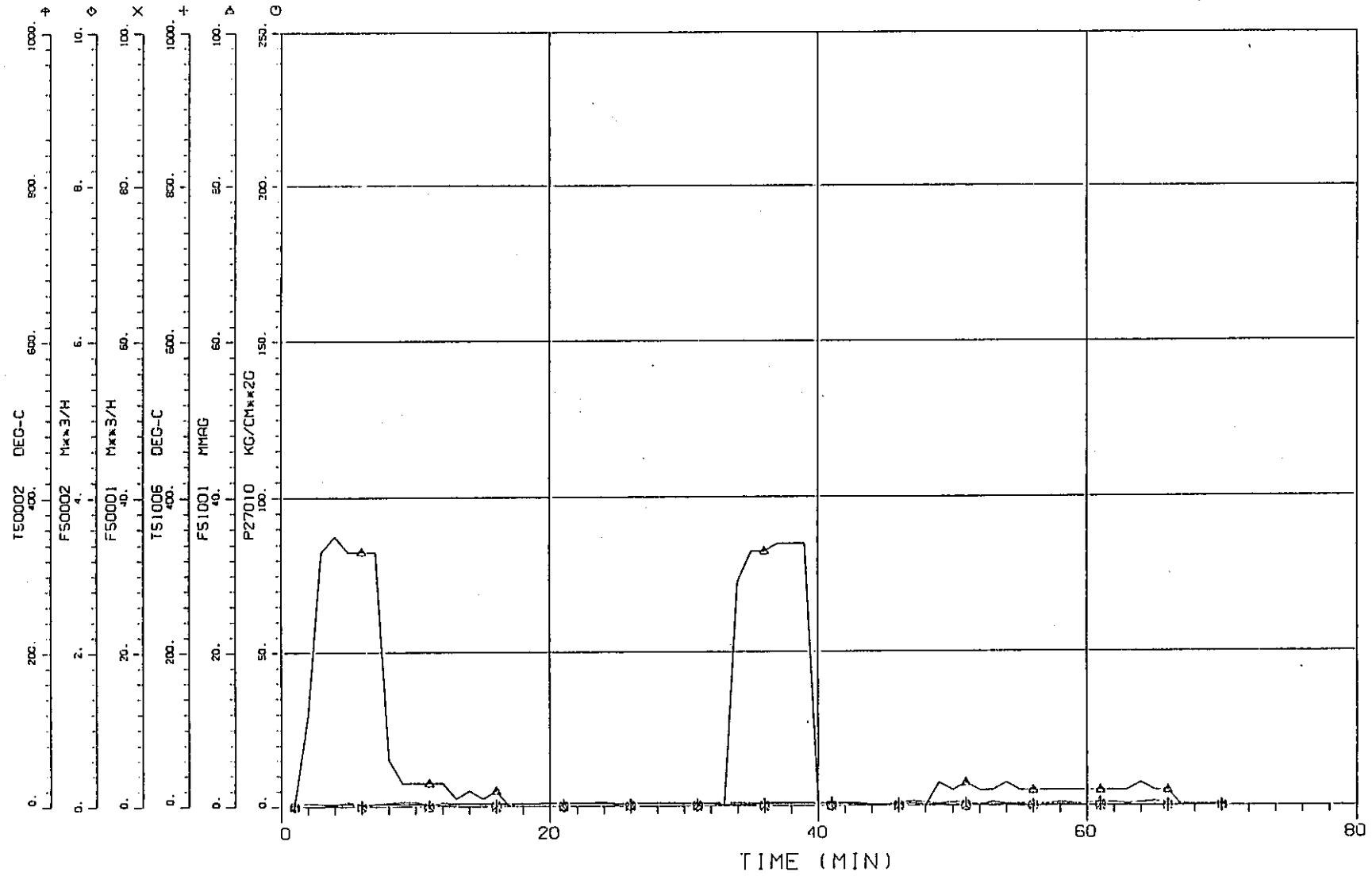
```
END オペランドなし
```

〔使用例〕

```
END
```

## 7.4 図形出力例

代表点時系列データの図形出力例を図 7.2 に示す。図は標準フォーマット (graph-id = F) で、出力機器は日本語ラインプリンタである。



DATE 83/01/10 14:23  
OMTNO = #2-2552

图 7.2 代表点時系列データ図形出力例

### 7.5 代表点時系列データファイル

代表点時系列データファイルは、原MT番号毎に全データを1レコードとして作成されており、その記録位置は、EXPRESSデータ管理検索項目のTRECに登録されている。表7.3にファイルの属性を、表7.4に1レコードの内容を示す。

表 7.3 代表点時系列データファイル属性

ファイル編成	順編成
レコード形式	可変長スパンド形式 (VBS)
レコード長	実効長 (X)
ブロック長	13030 バイト

表 7.4 代表点時系列データファイル内容

番号	変数名	サイズ	内 容
1	OMTNO	C * 8	原MT番号 (7文字, #×-××××)
2	DATE	C * 8	収録開始年月日 (6文字, YYMMDD)
3	TIME	C * 4	収録開始時刻 (4文字, HHMM)
4	NTAG	I * 4	蓄積されているTag. の数
5	ITC	I * 4	蓄積時間間隔 (分)
6	ISTP	I * 4	蓄積ステップ数
7	TAG	C * 8	蓄積されているTag. NO (NTAG個)
8	ICH	I * 2	TAGに対応するマルチプレクサ番号 (NTAG個)
9	IDATA	I * 2	代表点時系列データ (ISTP*NTAG個)

1レコード中に、TAGおよびICHはそれぞれNTAG個連続して記録される。IDATAはTag.NO毎にISTP個連続し、それがNTAG回連続して記録される。

## 8 あとがき

既存の汎用検索システムを調査、検討し、その結果をふまえて、50 MW 蒸気発生器試験施設専用の試験データ管理検索システム EXPRESS を新規に開発した。

これまでに蓄積したデータは試験データ収録MT約3500本分の管理検索データ56項目および同MT約1200本分の試験施設運転状態を表わす代表点時系列データである。本システムを用いることにより、大量の試験データを有効にかつ迅速に利用することが可能となった。

本システムは、50 MWSGTF用に作成されているが、多項目の管理検索機能を必要とする他のシステムへの適用も可能であり、同種のシステム開発の一助となれば幸いである。

## 謝 辞

本システムの開発にあたり、システムの詳細設計、プログラムの作成について、(株)アイ・エス・エルの鈴木雅之氏に多大な御協力を頂きました。また、データの作成および修正について、システム設計開発室の斉藤洋治氏(常陽産業(株))、米川和子嬢に多大な御協力を頂きました。さらに、同室の吉田邦緒氏、仲井悟氏、計算資料室の佐藤一雄氏には、貴重な御助言と御協力を頂きました。合わせてここに感謝の意を表します。



## 参 考 文 献

- (1) FAIRS II 使用手引書：富士通
- (2) QUERY 使用手引書：富士通
- (3) INTERACT 解説書：富士通
- (4) COMARID ( 会話型情報文献管理検索 ) システム開発 - II : 三菱総合研究所, PNC SJ 247 80-02, 1980年5月
- (5) SMAT FBR 構造材料試験データバンキングシステム利用手引書：ファコムハイタック, PNC SJ 228 82-01, 1982年6月
- (6) 50MW SG 試験施設動特性データ処理システム及び計装系データ：岡町正雄, 仲井悟, 土屋毎雄, PNC SN941 80-80, 1980年5月

## 付録A データベース処理用サブルーチン (DBUPDT)

サブルーチン 'DBUPDT' は、50MW SGTf データ管理検索システム用の2種類のファイルにアクセスするためのサブルーチンである。

### A-1 機能及び使用方法

サブルーチン 'DBUPDT' は、次の4種類の機能を有している。

- 1) 原MT番号をチェックし、同一レコードが存在しない場合のみレコードの追加を行う。
- 2) 原MT番号の同じレコードの存在にかかわらず、レコードの追加及び修正を行う。
- 3) 既に存在するレコードに対し、データの修正を行う。
- 4) データの読み込みを行う。

このサブルーチンは、データ累積用ファイルと検索キー用インデックスファイルの相方に対し同時に修正及び追加を行なう。

ファイルの論理基盤番号は、データ累積用ファイルが21、検索キー用インデックスファイルが22に設定されている。

以下にサブルーチンの引数等について説明する。

サブルーチン名	DBUPDT	言語	FORTRAN
機能	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原MT番号と同じレコードの存在にかかわらずレコードの追加又は修正を行う。</li> <li>2. 原MT番号をチェックし、同一レコードが存在しない場合のみレコードの追加を行う。</li> <li>3. 既に存在するレコードに対し、データの修正を行う。</li> <li>4. データの読み込みを行う。</li> </ol>		
CALL DBUPDT( IOPT, IGRP, MTNO, EXDATE, EXPNO, CATEGO, JTDT, ORMT EDMT, DSN, UPDATE, DOCU, COMENT, TMSER, IRT )			
ア-ギュメント	タイプ	内	容
IOPT	I * 4	動作オプション	IOPT = 1 ~ 4, 上記機能の 1 ~ 4 に対する。
IGRP	I * 4	グループ番号 ( IGRP )	
MTNO	C * 8	原MT番号 ( OMTNO )	
EXDATE (3)	C * 8	EXDATE (1) : ODATE (2) : TIMEST (3) : TIMEEN	
EXPNO	C * 15	試験番号 ( EXPNO )	
CATEGO	C * 4	試験分類	
JTDT (29)	I * 4	物理データ	JTDT (1) : F11005 (2) : F11007 (3) : F11008 (4) : F11009 (5) : T11007 (6) : T11008 (7) : T11011 (8) : S11001 (9) : F12002 (10) : F12003

サブルーチン名		言語	FORTRAN
機能			
CALL			
アーギュメント	タイプ	内	容
		JTDT (1) : F 2 3 0 0 1 (2) : T 1 2 0 0 1 (3) : T 2 3 0 0 1 (4) : T 2 3 0 0 2 (5) : T 2 3 0 0 4 (6) : T 2 3 0 0 3 (7) : S 1 2 0 0 1 (8) : F 1 3 0 2 1 (9) : F 1 3 0 2 2 (20) : T 2 7 0 0 1 (21) : T 2 7 0 0 2 (22) : T 2 7 0 0 3 (23) : T 2 7 0 0 4 (24) : P 2 7 0 1 0 (25) : F 5 1 0 0 1 (26) : T 5 1 0 0 6 (27) : F 5 0 0 0 1 (28) : F 5 0 0 0 2 (29) : T 5 0 0 0 2	

サブルーチン名		言語	FORTRAN
機能			
CALL			
アーギュメント	タイプ	内 容	
ORMT(3)	C * 8	ORMT(1) : 原MTラベル型式 (OLBL) (2) : 原MTセンター管理番号 (OKEEP) (3) : 原MTセンターロッカー番号 (OLOCK)	
EDMT(9)	C * 8	EDMT(1) : 編集MTボリューム通番 (EVOC) (2) : 編集MT記録密度 (EDEN) (3) : 編集MTラベル型式 (ELBL) (4) : 編集MT登録年月日 (EKDATE) (5) : 編集MTセンター管理番号 (EKEEP) (6) : 編集MTセンターロッカー番号 (ELOCK) (7) : 編集MT作成年月日 (ECDATE) (8) : マルチ・ファイル・ファイル番号 (FILE) (9) : 編集MT番号 (ENTNO)	
DSN	C * 9	マルチ・ファイル・データセット名 (DSN)	
UPDATE	C * 6	修正年月日	
DOCU	C * 10	報告書, データ集番号	
COMENT	C * 15	コメント	
TMSER(2)	C * 4	TMSER(1) : 初期値データ書き込みフラグ (2) : 時系列データ書き込みフラグ	

サブルーチン名		言語	FORTRAN
機能			
CALL			
アーギュメント	タイプ	内 容	
IRT	I * 4	復帰コード IRT = 0 : 正常終了 IRT = 1 : IOPT = 1 の場合 レコードの修正 IOPT = 2 の場合 レコードの追加なし IOPT = 3 の場合 レコードが存在せず IOPT = 4 の場合 レコードが存在せず	

サブルーチン名	DBUPIR	言語	FORTRAN
機能	<p>DBUPDTの機能にレコードの記録番号を返却する様にしたものである。</p> <p>* MREC 以外のアーギュメントは DBUPDT と同じである</p>		
<p>CALL DBUPDT (MREC, IOPT, IGRP, MTNO, EXDATE, EXPNO, CATEGO, JTDT, ORMT,EDMT, DSN, DOCU, COMENT, TMSER, IRT)</p>			
アーギュメント	タイプ	内	容
MREC	I * 4	記録番号が返却される。	

サブルーチン名	RDIREC	言語	FORTRAN
機能	<p>記録番号を指定することにより、直接読み込みをするためのサブルーチンである。</p> <p>* MRC 以外のアーギュメントはDBUPDT と同じである</p>		
<p>CALL RDIREC ( MRC, IGRP, MTNO, EXDATE, EXPNO, CATEGO, JTDT, ORMT, ORMT, EDMT, DSN, UPDATE, DOCU, COMENT, TMSER )</p>			
アーギュメント	タイプ	内 容	
MRC	I * 4	レコードの記録番号	



ソ ー ス ・ リ ス ト

0001 << DBUPDT >> Q201G.EXPLIB.FORT BLKSIZE : 03200 VOL : MSV233

.....1.....\*.....2.....\*.....3.....\*.....4.....\*.....5.....\*.....6.....\*.....7.....\*.....8

```

00001 :          SUBROUTINE DBUPDT(IOPTG,IGRP,MTNO,EXDATE,EXPNO,CATEGO,          00010000
00002 :          * JTDT,ORMT,EDMT,DSN,UPDATE,DOCU,COMENT,TMSER,IRT)          00020000
00003 :          C          00030000
00004 :          C USE FORTRAN IV H-E COMPILER WITH OPTIMIZE(2)          00040000
00005 :          C          00050000
00006 :          C THE TARGET RECORD IS IDENTIFIED WITH ITS "IGRP+MTNO".          00060000
00007 :          C          00070000
00008 :          C IF IOPTG IS LESS THAN 0, THEN A MESSAGE IS OUTPUT.          00080000
00009 :          C          00090000
00010 :          C IOPTG=1, WRITE UNCONDITIONALLY.          00100000
00011 :          C EXISTS, OVERWRITE TEXTS IN ITS POSITION (IRT=1).          00110000
00012 :          C NOT EXIST, WRITE TEXTS IN THE UNUSED POSITION (IRT=0).          00120000
00013 :          C          00130000
00014 :          C IOPTG=2, WRITE CONDITIONALLY.          00140000
00015 :          C EXISTS, RETURN WITHOUT REWRITING (IRT=1).          00150000
00016 :          C NOT EXIST, WRITE TEXTS IN THE UNUSED POSITION (IRT=0).          00160000
00017 :          C          00170000
00018 :          C IOPTG=3, UPDATE.          00180000
00019 :          C EXISTS, UPDATE THE SPECIFIED (NOT BLANK OR .LE.9999) TEXTS (IRT=0).          00190000
00020 :          C NOT EXIST, RETURN WITHOUT UPDATE (IRT=1).          00200000
00021 :          C          00210000
00022 :          C IOPTG=4, READ THE CONTENTS OF THE CORRESPONDED RECORD.          00220000
00023 :          C EXISTS, IRT=0          00230000
00024 :          C NOT EXIST, IRT=1          00240000
00025 :          C          00250000
00026 :          DEFINE FILE 21(10000,255,L,IREC)          00260000
00027 :          DEFINE FILE 22( 4000,540,L,JREC)          00270000
00028 :          C          00280000
00029 :          INTEGER*4 IGRP,EXPNO(4),JTDT(29),DSN(3),DOCU(3),COMENT(4)          00290000
00030 :          INTEGER*4 TMSER(2),CATEGO          00300000
00031 :          REAL*8    MTNO,EXDATE(3),ORMT(3),EDMT(9),NWDT,DUMMY,UPDT,UPDATE          00310000
00032 :          C          00320000
00033 :          INTEGER*4 M01,M04(4),M05,M06(29),M09(3),M10(3),M11(4),M12(2)          00330000
00034 :          REAL*8    M02,M03(3),M07(3),M08(9),M99          00340000
00035 :          C          00350000
00036 :          REAL*8    CMT8(2)          00360000
00037 :          INTEGER*4 CMT4(4),VEXPN(4,1),DEXPN(4),MDREC(99)          00370000
00038 :          INTEGER*2 CMT2(8)          00380000
00039 :          LOGICAL*1 CMT1(16)          00390000
00040 :          C          00400000
00041 :          COMMON / DABUF / BUF4          00410000
00042 :          REAL*8    BUF8( 67)          00420000
00043 :          INTEGER*4 BUF4(135)          00430000
00044 :          INTEGER*2 BUF2(270)          00440000
00045 :          LOGICAL*1 BUF1(540)          00450000
00046 :          C          00460000
00047 :          EQUIVALENCE (CMT8,CMT4,CMT2,CMT1),(BUF8,BUF4,BUF2,BUF1)          00470000
00048 :          C          00480000
00049 :          REAL*8 DELETE          00490000
00050 :          DATA DELETE / '*****' /          00500000

```

.....1.....\*.....2.....\*.....3.....\*.....4.....\*.....5.....\*.....6.....\*.....7.....\*.....8

0001 << DBUPDT >> Q201G.EXPLIB.FORT BLKSIZE : 03200 VOL : MSV233

```

.....*.....1.....*.....2.....*.....3.....*.....4.....*.....5.....*.....6.....*.....7.....*.....8
00051 : C 00510000
00052 : MF = 0 00520000
00053 : GO TO 5000 00530000
00054 : C 00540000
00055 : ENTRY DBUPIR(MREC,IOPTG,IGRP,MTNO,EXDATE,EXPNO,CATEGO, 00550000
00056 : * JTDT,DRMT,EDMT,DSN,DOCU,COMENT,TMSER,IRT) 00560000
00057 : MF = 1 00570000
00058 : C 00580000
00059 : 5000 IOPT=IABS(IOPTG) 00590000
00060 : C 00600000
00061 : IF(IOPT.GE.1.AND.IOPT.LE.4) GO TO 1 00610000
00062 : IRT = 99 00620000
00063 : RETURN 00630000
00064 : C 00640000
00065 : ENTRY DBCRET(LGRP,VEXPN, MTNO,EXDATE, CATEGO, 00650000
00066 : * JTDT,DRMT,EDMT,DSN,DOCU,COMENT,TMSER,IRT) 00660000
00067 : MF = 0 00670000
00068 : LCNT = 0 00680000
00069 : C IOPT = 5 : CREATE MODE ONLY 00690000
00070 : IOPT = 5 00700000
00071 : GO TO 1 00710000
00072 : C 00720000
00073 : ENTRY DBMDFY(LGRP,MDREC,VEXPN, MTNO,EXDATE, CATEGO, 00730000
00074 : * JTDT,DRMT,EDMT,DSN,DOCU,COMENT,TMSER,IRT) 00740000
00075 : MF = 0 00750000
00076 : LCNT = 0 00760000
00077 : C IOPT = 6 : MODIFY MODE ONLY 00770000
00078 : IOPT = 6 00780000
00079 : C 00790000
00080 : 1 IRT = 0 00800000
00081 : C 00810000
00082 : C 00840000
00083 : IF(IOPT.EQ.5.OR.IOPT.EQ.6) GO TO 5002 00850000
00084 : LRNO = 0 00860000
00085 : C 00870000
00086 : MGRP = IGRP 00880000
00087 : DO 5001 I=1,4 00890000
00088 : 5001 DEXPN(I) = EXPNO(I) 00900000
00089 : GO TO 5010 00910000
00090 : C 00920000
00091 : 5002 LCNT = LCNT + 1 00930000
00092 : LRNO = 0 00940000
00093 : IF(LCNT.LE.LGRP) GO TO 6002 00950000
00094 : IF(IOPT.EQ.6.AND.MDREC(LCNT).NE.0) GO TO 6010 00960000
00095 : GO TO 9000 00970000
00096 : 6002 MGRP = LCNT 00980000
00097 : DO 5003 I=1,4 00990000
00098 : 5003 DEXPN(I)=VEXPN(I,MGRP) 01000000
00099 : C 01010000
00100 : 6010 IF(IOPT.EQ.6.AND.MDREC(LCNT).NE.0) LRNO = MDREC(LCNT) 01020000

```

.....\*.....1.....\*.....2.....\*.....3.....\*.....4.....\*.....5.....\*.....6.....\*.....7.....\*.....8

0001 << DBUPDT >> Q201G.EXPLIB.FORT BLKSIZE : 03200 VOL : MSV233

```

.....*.....1.....*.....2.....*.....3.....*.....4.....*.....5.....*.....6.....*.....7.....*.....8
00101 : C 01030000
00102 : 5010 CONTINUE 01040000
00103 : C 01050000
00104 : JREC = 1 01060000
00105 : READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 01070000
00106 : IRNO = BUF4(1) 01080000
00107 : ILP = (IRNO+66)/67 01090000
00108 : JLP = IRNO -(ILP-1)*67 01100000
00109 : C 01110000
00110 : IF(IOPT.EQ.6.AND.LCNT.GT.LGRP) GO TO 450 01120000
00111 : C 01130000
00112 : CALL DATE(CMT8) 01140000
00113 : DO 4 I=3,6 01150000
00114 : K = 1 01160000
00115 : IF(I.GE.5) K = 2 01170000
00116 : 4 CMT1(I) = CMT1(I+K) 01180000
00117 : NWDI = CMT8(1) 01190000
00118 : C 01200000
00119 : ENCODE(2,5,CMT8) MGRP 01210000
00120 : 5 FORMAT(I2) 01220000
00121 : CMT8(2) = MTNO 01230000
00122 : DO 10 I=1,2 01240000
00123 : 10 CMT1(I+2) = CMT1(I+8) 01250000
00124 : DO 20 I=1,4 01260000
00125 : 20 CMT1(I+4) = CMT1(I+11) 01270000
00126 : DUMMY = CMT8(1) 01280000
00127 : C 01290000
00128 : IF(LRNO.NE.0) GO TO 350 01300000
00129 : C 01310000
00130 : IF(ILP.LE.0) GO TO 150 01320000
00131 : C 01330000
00132 : LEMPTY = 0 01340000
00133 : DO 100 I=1,ILP 01350000
00134 : JREC = I+1 01360000
00135 : READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 01370000
00136 : JX = 67 01380000
00137 : IF(I.EQ.ILP) JX = JLP 01390000
00138 : DO 50 J=1,JX 01400000
00139 : IF(BUF8(J).EQ.DELETE.AND.LEMPTY.EQ.0) 01410000
00140 : * LEMPTY = (I-1)*67 + J 01420000
00141 : IF(BUF8(J).NE.DUMMY) GO TO 50 01430000
00142 : LRNO = (I-1)*67 + J 01440000
00143 : GO TO 200 01450000
00144 : 50 CONTINUE 01460000
00145 : 100 CONTINUE 01470000
00146 : LRNO = IRNO + 1 01480000
00147 : IF(LEMPTY.NE.0) LRNO = LEMPTY 01490000
00148 : IF(IOPT.EQ.5.OR.IOPT.EQ.6) GO TO 350 01500000
00149 : IF(IOPT.EQ.1.OR.IOPT.EQ.2) GO TO 200 01510000
00150 : 120 IRT = 1 01520000

```

.....\*.....1.....\*.....2.....\*.....3.....\*.....4.....\*.....5.....\*.....6.....\*.....7.....\*.....8

0001 << DBUPDT >> Q201G.EXPLIB.FORT BLKSIZE : 03200 VOL : MSV233

```

.....*.....1.....*.....2.....*.....3.....*.....4.....*.....5.....*.....6.....*.....7.....*.....8
00151 :          GO TO 9000                                01530000
00152 : C
00153 :   150  IRNO = 0                                      01550000
00154 :          LRNO = 1                                  01560000
00155 :          IF<IOPT.EQ.3.OR.IOPT.EQ.4> GO TO 120      01570000
00156 : C
00157 :   200  GO TO (300,300,400,250,300), IOPT          01590000
00158 : C
00159 :   250  IREC=LRNO                                      01610000
00160 :          READ<21'IREC,10001> M01 ,M02 ,EXDATE,EXPNO,CATEGO,JTDT,ORMT, 01630000
00161 :          * (EDMT(K),K=1,8),DSN,EDMT(9),M99 ,DOCU,COMENT,TMSER      01640000
00162 : 10001  FORMAT<I2,A7,A6,SA4,A3,A4,7I3,I4,8I3,I4,12I3,A2,A6,A5, 01650000
00163 :          * A6,A1,A2,2A6,A5,A6,A1,2A4,A1,A5,A6,2A4,A2,3A4,A3,2A1,31X> 01660000
00164 :          UPDATE = M99                                  01670000
00165 :          GO TO 9000                                    01680000
00166 : C
00167 :   300  IF<LRNO.LE.IRNO> IRT = 1                        01700000
00168 :          IF<IRT.EQ.1.AND.IOPT.EQ.2> GO TO 9000        01710000
00169 :   350  IREC=LRNO                                      01720000
00170 :          WRITE<21'IREC,10001> MGRP,MTNO,EXDATE,DEXPN,CATEGO,JTDT,ORMT, 01730000
00171 :          * (EDMT(K),K=1,8),DSN,EDMT(9),NWD,DOCU,COMENT,TMSER      01740000
00172 :          GO TO 500                                      01760000
00173 : C
00174 :   400  IREC=LRNO                                      01770000
00175 :          READ<21'IREC,10001> M01 ,M02 ,M03 ,M04 ,M05 ,M06 ,M07 , 01780000
00176 :          * (M08 (K),K=1,8),M09,M08(9) ,M99 ,M10 ,M11 ,M12 01800000
00177 : C
00178 :          DO 401 I=1,3                                     01810000
00179 :          IF<EXDATE(I).NE.' '> M03(I) = EXDATE(I)      01820000
00180 :   401  CONTINUE                                         01830000
00181 :          IF<DEXPN(1).EQ.' '> GO TO 403                  01840000
00182 :          DO 402 I=1,4                                     01850000
00183 :   402  M04(I) = DEXPN(I)                                 01860000
00184 :   403  IF<CATEGO.NE.' '> M05 = CATEGO                   01870000
00185 :          DO 404 I=1,29                                    01880000
00186 :          IF<JTDT(I).LE.9999> M06(I) = JTDT(I)          01890000
00187 :   404  CONTINUE                                         01900000
00188 :          DO 405 I=1,3                                     01910000
00189 :          IF<ORMT(I).NE.' '> M07(I) = ORMT(I)            01920000
00190 :   405  CONTINUE                                         01930000
00191 :          DO 406 I=1,9                                     01940000
00192 :          IF<EDMT(I).NE.' '> M08(I) = EDMT(I)            01950000
00193 :   406  CONTINUE                                         01960000
00194 :          IF<DSN(1).EQ.' '> GO TO 408                    01970000
00195 :          DO 407 I=1,3                                     01980000
00196 :   407  M09(I) = DSN(I)                                   01990000
00197 :   408  IF<DOCU(1).EQ.' '> GO TO 410                     02000000
00198 :          DO 409 I=1,3                                     02010000
00199 :   409  M10(I) = DOCU(I)                                 02020000
00200 :   410  IF<COMENT(1).EQ.' '> GO TO 412                   02030000
02040000
02050000
.....*.....1.....*.....2.....*.....3.....*.....4.....*.....5.....*.....6.....*.....7.....*.....8

```

0001 << DBUPDT >> Q201G.EXPLIB.FORT BLKSIZE : 03200 VOL : MSV233

.....1.....2.....3.....4.....5.....6.....7.....8

```

00201 : DO 411 I=1,4 02060000
00202 : 411 M11(I) = COMENT(I) 02070000
00203 : 412 IF(TM SER(1).NE.' ') M12(1) = TM SER(1) 02080000
00204 : IF(TM SER(2).NE.' ') M12(2) = TM SER(2) 02090000
00205 : C 02100000
00206 : 414 IREC=LRNO 02110000
00207 : WRITE(21'IREC,10001) M01 ,M02 ,M03 ,M04 ,M05 ,M06 ,M07 , 02120000
00208 : * (M08 (K),K=1,8),M09,M08(9) ,NWD T,M10 ,M11 ,M12 02130000
00209 : GO TO 500 02150000
00210 : C 02160000
00211 : 450 DUMMY = DELETE 02170000
00212 : IREC=LRNO 02180000
00213 : WRITE(21'IREC,10001) MGRP,DUMMY,EXDATE,DEXPN,CATEGO,JTDT,ORMT, 02190000
00214 : * (EDMT(K),K=1,8),DSN,EDMT(9),NWD T,DOCU,COMENT,TM SER 02200000
00215 : C 02220000
00216 : C... SET UP FOR 1-BYTE DATA. 02230000
00217 : 500 N1R = (LRNO+539)/540 02240000
00218 : MP = LRNO - (N1R-1)*540 02250000
00219 : M1P = MP 02260000
00220 : C... SET UP FOR 2-BYTE DATA. 02270000
00221 : N2R = (LRNO+269)/270 02280000
00222 : MP = LRNO - (N2R-1)*270 02290000
00223 : M2P = MP 02300000
00224 : C... SET UP FOR 4-BYTE DATA. 02310000
00225 : N4R = (LRNO+134)/135 02320000
00226 : MP = LRNO - (N4R-1)*135 02330000
00227 : M4P = MP 02340000
00228 : C... SET UP FOR 5-BYTE DATA. 02350000
00229 : N5R = (LRNO+107)/108 02360000
00230 : MP = LRNO - (N5R-1)*108 02370000
00231 : MSP = (MP-1)*5 + 1 02380000
00232 : C... SET UP FOR 6-BYTE DATA. 02390000
00233 : N6R = (LRNO+89)/90 02400000
00234 : MP = LRNO - (N6R-1)*90 02410000
00235 : M6P = (MP-1)*3 + 1 02420000
00236 : C... SET UP FOR 8-BYTE DATA. 02430000
00237 : N8R = (LRNO+66)/67 02440000
00238 : MP = LRNO - (N8R-1)*67 02450000
00239 : M8P = MP 02460000
00240 : C... SET UP FOR 9-BYTE DATA. 02470000
00241 : N9R = (LRNO+59)/60 02480000
00242 : MP = LRNO - (N9R-1)*60 02490000
00243 : M9P = (MP-1)*9 + 1 02500000
00244 : C... SET UP FOR 10-BYTE DATA. 02510000
00245 : NAR = (LRNO+53)/54 02520000
00246 : MP = LRNO - (NAR-1)*54 02530000
00247 : MAP = (MP-1)*5 + 1 02540000
00248 : C... SET UP FOR 15-BYTE DATA. 02550000
00249 : NFR = (LRNO+35)/36 02560000
00250 : MP = LRNO - (NFR-1)*36 02570000

```

.....1.....2.....3.....4.....5.....6.....7.....8

0001 << DBUPDT >> Q201G.EXPLIB.FORT BLKSIZE : 03200 VOL : MSV233

```

.....*.....1.....*.....2.....*.....3.....*.....4.....*.....5.....*.....6.....*.....7.....*.....8
00251 :           MFP = (MP-1)*15 + 1                                02580000
00252 :           C                                           WRITE DATA FOR KEY FILE.      02590000
00253 :           C... GROUP & DMTNO                                02600000
00254 :           IF(IOPT.EQ.3) GO TO 2010                        02610000
00255 :           NR = N8R + 1                                    02620000
00256 :           JREC = NR                                       02630000
00257 :           IF(M8P.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 02640000
00258 :           BUF8(M8P) = DUMMY                                02650000
00259 :           JREC = NR                                       02660000
00260 :           WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135)              02670000
00261 :           IF(DUMMY.EQ.DELETE) GO TO 5002                   02680000
00262 :           C... ODATE                                       02690000
00263 :           2010 IF(IOPT.EQ.3.AND.EXDATE(1).EQ.' ') GO TO 2020 02700000
00264 :           NR = N6R + 151                                    02710000
00265 :           JREC = NR                                       02720000
00266 :           IF(M6P.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 02730000
00267 :           CMT8(1) = EXDATE(1)                              02740000
00268 :           BUF2(M6P ) = CMT2(1)                            02750000
00269 :           BUF2(M6P+1) = CMT2(2)                          02760000
00270 :           BUF2(M6P+2) = CMT2(3)                          02770000
00271 :           JREC = NR                                       02780000
00272 :           WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135)              02790000
00273 :           C... TIMEST                                       02800000
00274 :           2020 IF(IOPT.EQ.3.AND.EXDATE(2).EQ.' ') GO TO 2030 02810000
00275 :           NR = N4R + 263                                    02820000
00276 :           JREC = NR                                       02830000
00277 :           IF(M4P.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 02840000
00278 :           CMT8(1) = EXDATE(2)                              02850000
00279 :           BUF4(M4P) = CMT4(1)                             02860000
00280 :           JREC = NR                                       02870000
00281 :           WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135)              02880000
00282 :           C... TIMEEN                                       02890000
00283 :           2030 IF(IOPT.EQ.3.AND.EXDATE(3).EQ.' ') GO TO 2040 02900000
00284 :           NR = N4R + 338                                    02910000
00285 :           JREC = NR                                       02920000
00286 :           IF(M4P.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 02930000
00287 :           CMT8(1) = EXDATE(3)                              02940000
00288 :           BUF4(M4P) = CMT4(1)                             02950000
00289 :           JREC = NR                                       02960000
00290 :           WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135)              02970000
00291 :           C... EXPNO                                         02980000
00292 :           2040 IF(IOPT.EQ.3.AND.DEXP(1).EQ.' ') GO TO 2050 02990000
00293 :           NR = NFR + 413                                    03000000
00294 :           JREC = NR                                       03010000
00295 :           IF(MFP.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03020000
00296 :           DO 1090 I=1,4                                       03030000
00297 :           1090 CMT4(I) = DEXP(I)                            03040000
00298 :           DO 1100 I=1,15                                       03050000
00299 :           1100 BUF1(MFP+I-1) = CMT1(I)                    03060000
00300 :           JREC = NR                                       03070000

```

.....\*.....1.....\*.....2.....\*.....3.....\*.....4.....\*.....5.....\*.....6.....\*.....7.....\*.....8

```

.....*.....1.....*.....2.....*.....3.....*.....4.....*.....5.....*.....6.....*.....7.....*.....8
00301 : WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03080000
00302 : C... CATEGO 03090000
00303 : 2050 IF(IOPT.EQ.3.AND.CATEGO.EQ.' ') GO TO 2060 03100000
00304 : NR = N4R + 691 03110000
00305 : JREC = NR 03120000
00306 : IF(M4P.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03130000
00307 : BUF4(M4P) = CATEGO 03140000
00308 : JREC = NR 03150000
00309 : WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03160000
00310 : C... PHYSICAL DATA / 29 03170000
00311 : 2060 NR = N2R + 766 - 38 03180000
00312 : DO 1010 I=1,29 03190000
00313 : NR = NR + 38 03200000
00314 : IF(IOPT.EQ.3.AND.JTDT(I).GT.9999) GO TO 1010 03210000
00315 : JREC = NR 03220000
00316 : IF(M2P.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03230000
00317 : BUF2(M2P) = JTDT(I) 03240000
00318 : JREC = NR 03250000
00319 : WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03260000
00320 : 1010 CONTINUE 03270000
00321 : C... OLBL 03280000
00322 : IF(IOPT.EQ.3.AND.ORMT(1).EQ.' ') GO TO 2070 03290000
00323 : NR = N2R + 1868 03300000
00324 : JREC = NR 03310000
00325 : IF(M2P.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03320000
00326 : CMT8(1) = ORMT(1) 03330000
00327 : BUF2(M2P) = CMT2(1) 03340000
00328 : JREC = NR 03350000
00329 : WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03360000
00330 : C... OKEEP 03370000
00331 : 2070 IF(IOPT.EQ.3.AND.ORMT(2).EQ.' ') GO TO 2080 03380000
00332 : NR = N6R + 1906 03390000
00333 : JREC = NR 03400000
00334 : IF(M6P.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03410000
00335 : CMT8(1) = ORMT(2) 03420000
00336 : BUF2(M6P) = CMT2(1) 03430000
00337 : BUF2(M6P+1) = CMT2(2) 03440000
00338 : BUF2(M6P+2) = CMT2(3) 03450000
00339 : JREC = NR 03460000
00340 : WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03470000
00341 : C... OLOCK 03480000
00342 : 2080 IF(IOPT.EQ.3.AND.ORMT(3).EQ.' ') GO TO 2090 03490000
00343 : NR = N5R + 2018 03500000
00344 : JREC = NR 03510000
00345 : IF(M5P.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03520000
00346 : CMT8(1) = ORMT(3) 03530000
00347 : DO 1020 I=1,5 03540000
00348 : 1020 BUF1(M5P+I-1) = CMT1(I) 03550000
00349 : JREC = NR 03560000
00350 : WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03570000

```

.....\*.....1.....\*.....2.....\*.....3.....\*.....4.....\*.....5.....\*.....6.....\*.....7.....\*.....8



0001 << DBUPDT >> Q201G.EXPLIB.FORT BLKSIZE : 03200 VOL : MSV233

.....1.....2.....3.....4.....5.....6.....7.....8

```

00351 : C... EVOL                                03580000
00352 : 2090 IF(IOPT.EQ.3.AND.EDMT(1).EQ.' ') GO TO 2100 03590000
00353 : NR = N6R + 2111                        03600000
00354 : JREC = NR                             03610000
00355 : IF(M6P.NE.1.OR.LRND.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03620000
00356 : CMT8(1) = EDMT(1)                     03630000
00357 : BUF2(M6P ) = CMT2(1)                  03640000
00358 : BUF2(M6P+1) = CMT2(2)                03650000
00359 : BUF2(M6P+2) = CMT2(3)                03660000
00360 : JREC = NR                             03670000
00361 : WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135)    03680000
00362 : C... EDEN                                03690000
00363 : 2100 IF(IOPT.EQ.3.AND.EDMT(2).EQ.' ') GO TO 2110 03700000
00364 : NR = N1R + 2223                       03710000
00365 : JREC = NR                             03720000
00366 : IF(M1P.NE.1.OR.LRND.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03730000
00367 : CMT8(1) = EDMT(2)                     03740000
00368 : BUF1(M1P) = CMT1(1)                  03750000
00369 : JREC = NR                             03760000
00370 : WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135)    03770000
00371 : C... ELBL                                03780000
00372 : 2110 IF(IOPT.EQ.3.AND.EDMT(3).EQ.' ') GO TO 2120 03790000
00373 : NR = N2R + 2242                       03800000
00374 : JREC = NR                             03810000
00375 : IF(M2P.NE.1.OR.LRND.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03820000
00376 : CMT8(1) = EDMT(3)                     03830000
00377 : BUF2(M2P) = CMT2(1)                  03840000
00378 : JREC = NR                             03850000
00379 : WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135)    03860000
00380 : C... EKDATE                              03870000
00381 : 2120 IF(IOPT.EQ.3.AND.EDMT(4).EQ.' ') GO TO 2130 03880000
00382 : NR = N6R + 2280                       03890000
00383 : JREC = NR                             03900000
00384 : IF(M6P.NE.1.OR.LRND.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 03910000
00385 : CMT8(1) = EDMT(4)                     03920000
00386 : BUF2(M6P ) = CMT2(1)                  03930000
00387 : BUF2(M6P+1) = CMT2(2)                03940000
00388 : BUF2(M6P+2) = CMT2(3)                03950000
00389 : JREC = NR                             03960000
00390 : WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135)    03970000
00391 : C... EKEEP                                03980000
00392 : 2130 IF(IOPT.EQ.3.AND.EDMT(5).EQ.' ') GO TO 2140 03990000
00393 : NR = N6R + 2392                       04000000
00394 : JREC = NR                             04010000
00395 : IF(M6P.NE.1.OR.LRND.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04020000
00396 : CMT8(1) = EDMT(5)                     04030000
00397 : BUF2(M6P ) = CMT2(1)                  04040000
00398 : BUF2(M6P+1) = CMT2(2)                04050000
00399 : BUF2(M6P+2) = CMT2(3)                04060000
00400 : JREC = NR                             04070000

```

.....1.....2.....3.....4.....5.....6.....7.....8

```

.....*.....1.....*.....2.....*.....3.....*.....4.....*.....5.....*.....6.....*.....7.....*.....8
00401 : WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04080000
00402 : C... ELOCK 04090000
00403 : 2140 IF(IOPT.EQ.3.AND.EDMT(6).EQ.' ') GO TO 2150 04100000
00404 : NR = N5R + 2504 04110000
00405 : JREC = NR 04120000
00406 : IF(MSP.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04130000
00407 : CMT8(1) = EDMT(6) 04140000
00408 : DO 1030 I=1,5 04150000
00409 : 1030 BUF1(MSP+I-1) = CMT1(I) 04160000
00410 : JREC = NR 04170000
00411 : WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04180000
00412 : C... ECDATE 04190000
00413 : 2150 IF(IOPT.EQ.3.AND.EDMT(7).EQ.' ') GO TO 2160 04200000
00414 : NR = N6R + 2597 04210000
00415 : JREC = NR 04220000
00416 : IF(M6P.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04230000
00417 : CMT8(1) = EDMT(7) 04240000
00418 : BUF2(M6P ) = CMT2(1) 04250000
00419 : BUF2(M6P+1) = CMT2(2) 04260000
00420 : BUF2(M6P+2) = CMT2(3) 04270000
00421 : JREC = NR 04280000
00422 : WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04290000
00423 : C... FILE 04300000
00424 : 2160 IF(IOPT.EQ.3.AND.EDMT(8).EQ.' ') GO TO 2170 04310000
00425 : NR = N1R + 2709 04320000
00426 : JREC = NR 04330000
00427 : IF(M1P.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04340000
00428 : CMT8(1) = EDMT(8) 04350000
00429 : BUF1(M1P) = CMT1(1) 04360000
00430 : JREC = NR 04370000
00431 : WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04380000
00432 : C... DSN 04390000
00433 : 2170 IF(IOPT.EQ.3.AND.DSN(1).EQ.' ') GO TO 2180 04400000
00434 : NR = N9R + 2728 04410000
00435 : JREC = NR 04420000
00436 : IF(M9P.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04430000
00437 : DO 1050 I=1,3 04440000
00438 : 1050 CMT4(I) = DSN(I) 04450000
00439 : DO 1060 I=1,9 04460000
00440 : 1060 BUF1(M9P+I-1) = CMT1(I) 04470000
00441 : JREC = NR 04480000
00442 : WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04490000
00443 : C... EMTNO 04500000
00444 : 2180 IF(IOPT.EQ.3.AND.EDMT(9).EQ.' ') GO TO 2190 04510000
00445 : NR = N5R + 2895 04520000
00446 : JREC = NR 04530000
00447 : IF(M5P.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04540000
00448 : CMT8(1) = EDMT(9) 04550000
00449 : DO 1040 I=1,5 04560000
00450 : 1040 BUF1(M5P+I-1) = CMT1(I) 04570000
.....*.....1.....*.....2.....*.....3.....*.....4.....*.....5.....*.....6.....*.....7.....*.....8

```

0001 << DBUPDT >> Q201G.EXPLIB.FORT BLKSIZE : 03200 VOL : MSV233

.....\*.....1.....\*.....2.....\*.....3.....\*.....4.....\*.....5.....\*.....6.....\*.....7.....\*.....8

```

00451 :          JREC = NR                      04580000
00452 :          WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04590000
00453 : C... UPDATE                          04600000
00454 :          2190 NR = N6R + 2988           04610000
00455 :          JREC = NR                      04620000
00456 :          IF(M6P.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04630000
00457 :          CMT8(1) = NWDT                 04640000
00458 :          BUF2(M6P ) = CMT2(1)           04650000
00459 :          BUF2(M6P+1) = CMT2(2)          04660000
00460 :          BUF2(M6P+2) = CMT2(3)          04670000
00461 :          JREC = NR                      04680000
00462 :          WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04690000
00463 : C... DOCU                             04700000
00464 :          IF(IOPT.EQ.3.AND.DOCU(9).EQ.' ') GO TO 2200 04710000
00465 :          NR = NAR + 3100                 04720000
00466 :          JREC = NR                      04730000
00467 :          IF(MAP.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04740000
00468 :          DO 1070 I=1,3                   04750000
00469 :          1070 CMT4(I) = DOCU(I)          04760000
00470 :          DO 1080 I=1,5                   04770000
00471 :          1080 BUF2(MAP+I-1) = CMT2(I)    04780000
00472 :          JREC = NR                      04790000
00473 :          WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04800000
00474 : C... COMENT                            04810000
00475 :          2200 IF(IOPT.EQ.3.AND.COMENT(1).EQ.' ') GO TO 2210 04820000
00476 :          NR = NFR + 3286                 04830000
00477 :          JREC = NR                      04840000
00478 :          IF(MFP.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04850000
00479 :          DO 1110 I=1,4                   04860000
00480 :          1110 CMT4(I) = COMENT(I)        04870000
00481 :          DO 1120 I=1,15                  04880000
00482 :          1120 BUF1(MFP+I-1) = CMT1(I)    04890000
00483 :          JREC = NR                      04900000
00484 :          WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04910000
00485 : C... TMSER                             04920000
00486 :          2210 ENCODE(2,6,CMT8) TMSER     04930000
00487 :          6 FORMAT(2A1)                   04940000
00488 :          IF(IOPT.EQ.3.AND.CMT2(1).EQ.' ') GO TO 2220 04950000
00489 :          NR = N2R + 3564                 04960000
00490 :          JREC = NR                      04970000
00491 :          IF(M2P.NE.1.OR.LRNO.LE.IRNO) READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 04980000
00492 :          CMT2(2) = BUF2(M2P)             04981000
00493 :          IF(IOPT.EQ.3.AND.CMT1(1).EQ.' ') CMT1(1) = CMT1(3) 04982000
00494 :          IF(IOPT.EQ.3.AND.CMT1(2).EQ.' ') CMT1(2) = CMT1(4) 04983000
00495 :          BUF2(M2P) = CMT2(1)             04990000
00496 :          JREC = NR                      05000000
00497 :          WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 05010000
00498 : C                                         05020000
00499 :          2220 JREC = 1                    05030000
00500 :          READ(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135) 05040000

```

.....\*.....1.....\*.....2.....\*.....3.....\*.....4.....\*.....5.....\*.....6.....\*.....7.....\*.....8

.....1.....\*.....2.....\*.....3.....\*.....4.....\*.....5.....\*.....6.....\*.....7.....\*.....8

```

00501 :          BUF4(1) = IRNO                                05050000
00502 :          IF(LRNO.GT.IRNO) BUF4(1) = LRNO            05060000
00503 :          JREC = 1                                      05070000
00504 :          WRITE(22'JREC) (BUF4(KK),KK=1,135)          05080000
00505 : C                                                    05090000
00506 :          IF(IOPT.EQ.5.OR.IOPT.EQ.6) GO TO 5002        05100000
00507 : C                                                    05110000
00508 : C END OF UPDATE                                       05120000
00509 : C                                                    05130000
00510 :          GO TO 9000                                     05140000
00511 : C                                                    05150000
00512 : C RDIREC IS ENTRY FOR READ DATA BY SPECIFIED RECORD 05160000
00513 : C          MRC IS RECORD NUMBER.                        05170000
00514 : C                                                    05180000
00515 :          ENTRY      RDIREC(MRC ,IGRP,MTNO,EXDATE,EXPNO,CATEGO,
00516 :          * JTDT,ORMT,EDMT,DSN,UPDT,DOCU,COMENT,TMSER) 05190000
00517 :          MF = 0                                           05200000
00518 :          IREC = MRC                                       05210000
00519 :          READ(21'IREC,10001) IGRP,MTNO,EXDATE,EXPNO,CATEGO,JTDT,DRMT,
00520 :          * (EDMT(K),K=1,8),DSN,EDMT(9),UPDT,DOCU,COMENT,TMSER 05220000
00521 :          GO TO 9100                                       05230000
00522 : C                                                    05240000
00523 :          9000 CONTINUE                                     05250000
00524 :          9100 CONTINUE                                     05260000
00525 :          IF(MF.EQ.1) MREC = LRNO                          05270000
00526 :          RETURN                                           05280000
00527 :          END                                             05290000

```

.....1.....\*.....2.....\*.....3.....\*.....4.....\*.....5.....\*.....6.....\*.....7.....\*.....8

## 付録B データ蓄積状況

EXPRESS の検索機能を利用して、現在のデータ蓄積状況を3項目について調査した。その方法と結果を以下に示す。

### (1) 暦年毎の試験データMT収録状況

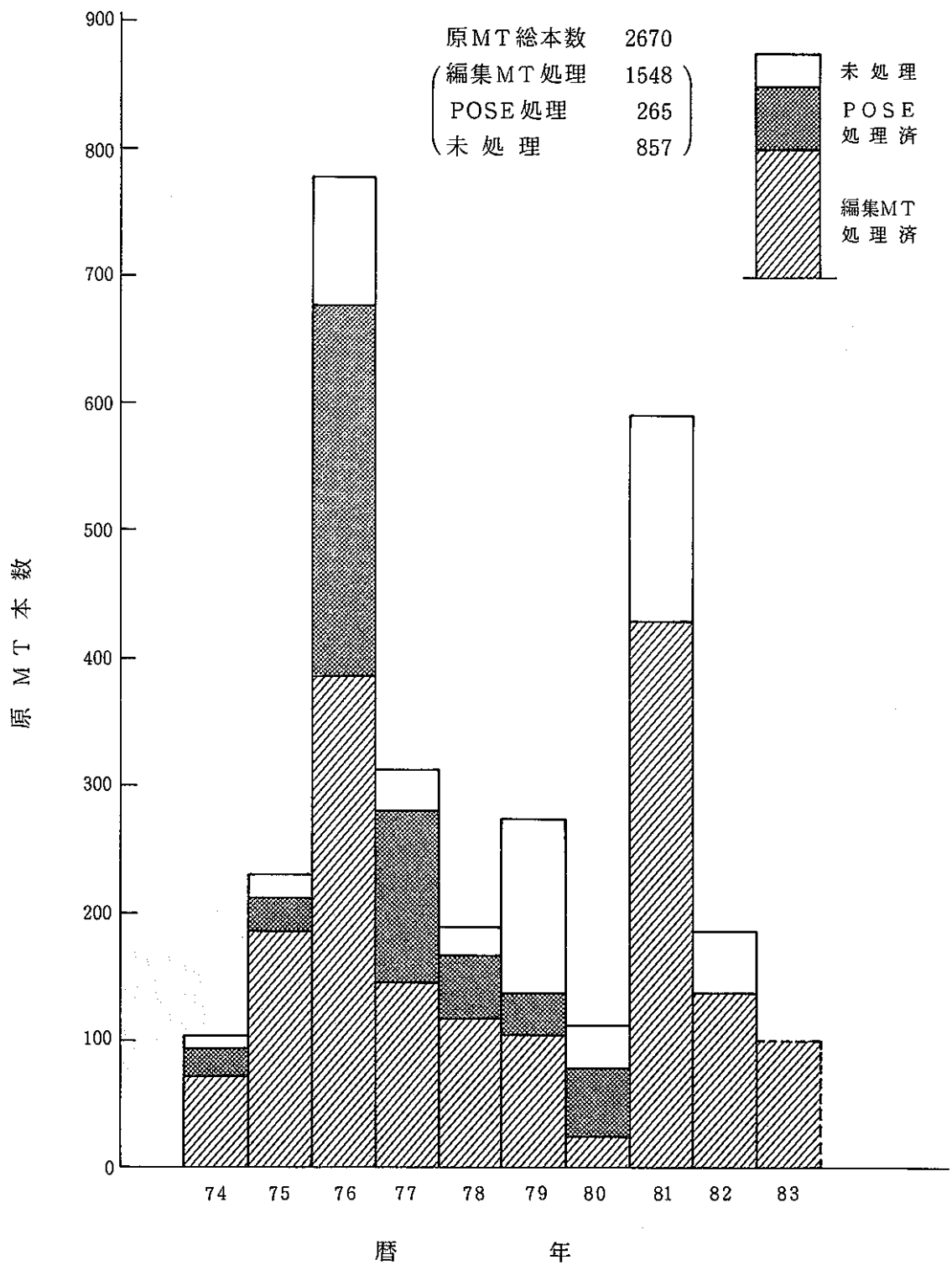
データ管理検索サブシステムを起動し、SEARCHモードにする。LOADサブコマンドを用いて、試験年月日ODATEで年月日範囲を指定し、さらにグループ番号GROUPで1を指定して、暦年毎の試験データMT（原MT）収録本数を求める。続いて、DELETEサブコマンドを用いて、編集MTファイル番号FILEで1以上、4以下を指定する。この結果、編集MT処理済の原MTのみ削除される。さらに、DELETEサブコマンドを用いて、初期値データ書込フラグTMSERで1を指定する。この結果、POSE処理済の原MTが削除され、未処理MTのみが残される。最後にCLEARサブコマンドを用いて作業領域のデータを消去し、以上の操作を暦年毎に繰り返す。その結果を図B1に示す。なお、1983年に関しては、未処理のMTはEXPRESSに未登録である。

### (2) SG給水流量毎の給水圧力分布

データ管理検索サブシステムを起動し、SEARCHモードにする。LOADサブコマンドを用いて、蒸発器（EV）給水流量F13021で流量範囲を指定し、さらにグループ番号GROUPで1を指定して、給水流量範囲毎の原MT収録本数を求める。続いて、DELETEサブコマンドを用いて、EV給水圧力P27010で圧力範囲を指定する。この結果、指定された給水圧力範囲の原MTのみが削除される。各圧力範囲での検索が終了した後、CLEARサブコマンドを用いて作業領域のデータを消去し、以上の操作を流量範囲毎に繰り返す。その結果を図B2に示す。なお、横軸は80t/hを定格として、給水流量を百分率で表わしている。

### (3) SG給水流量毎のSG運転モード分布

SGの運転モードの判定は、SG通水状態の中から、以下の基準により行なった。EV常温通水（非加熱单相）運転は、EV出口蒸気温度T27002が100℃未満の場合とする。EV加熱单相運転は、T27002がEV給水圧力P27010から定まる飽和温度以下の場合とする。EV単体通常運転は、他の3つのモードでない場合とする。過熱器（SH）通気運転は、T27002がP27010から定まる飽和温度以上でかつSH入口ナトリウム温度T23001とSH出口ナトリウム温度T23002の差が十分ある場合とした。データ管理検索サブシステムのSEARCHモードを用いて、これらの判定条件で検索した結果を図B3に出す。図B2と同様に、横軸は給水流量を百分率で表わしている。



図B.1 各暦年における原MT収録本数処理状況

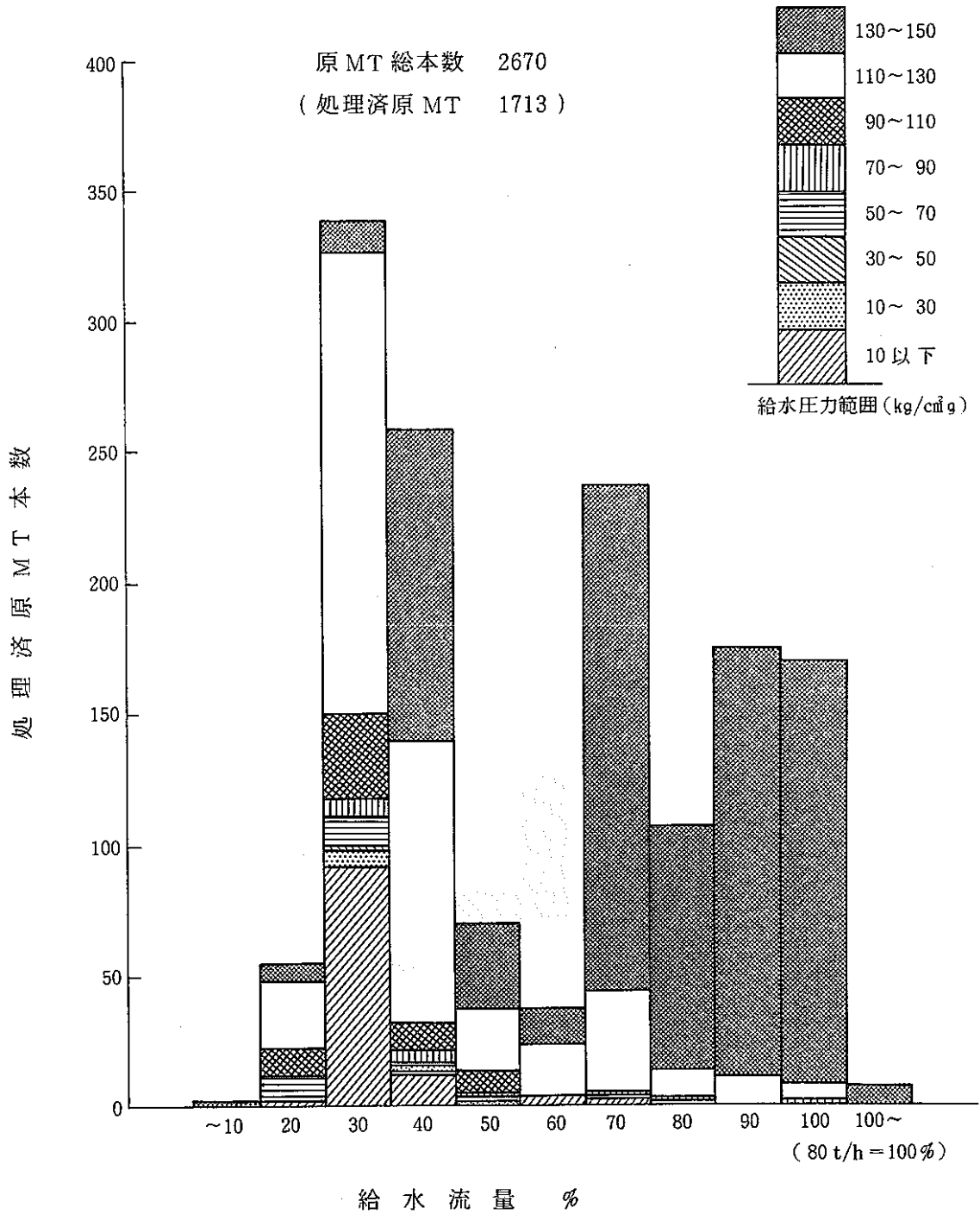
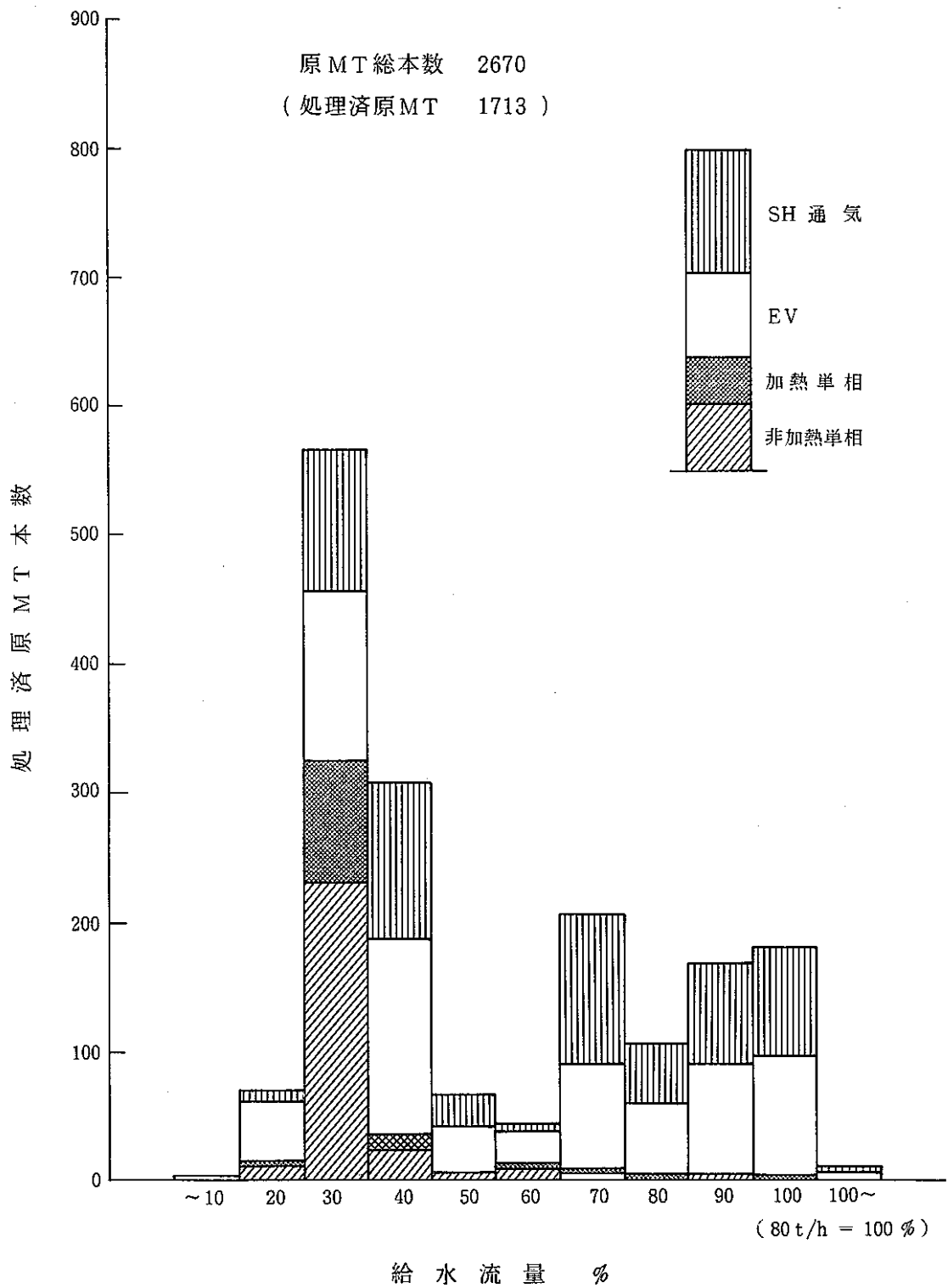


図 B.2 各給水流量範囲における給水圧力の分布



図B.3 各給水流量範囲における運転モードの分布

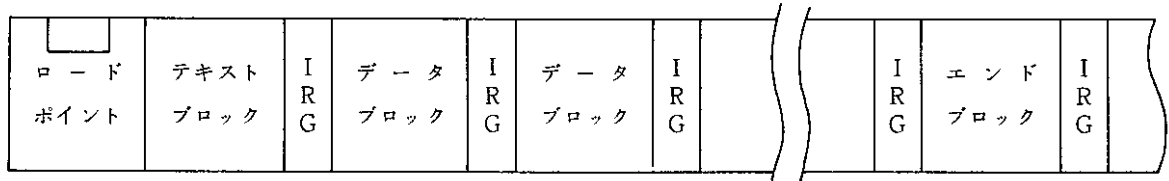


## 付録C 50MW SGT F試験データ集録MTフォーマット

### C-1 動特性MT

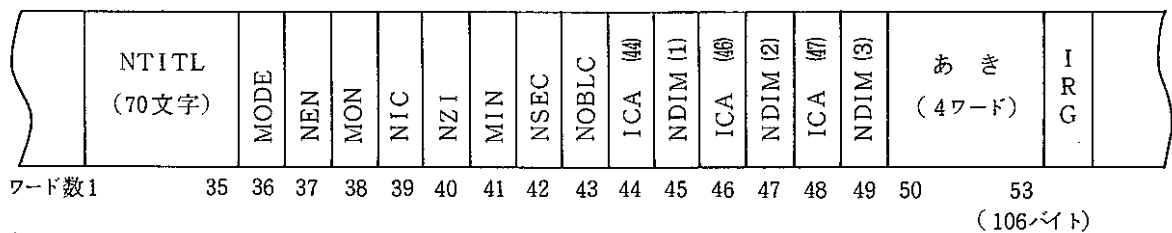
#### C.1.1 動特性MT (1980年以前)内容

50 MWSGT FのF 270-25 計算機により1980年以前に集録された動特性MT (原MT)は、記録密度800 BPI, ラベル無し形式(NL), 最大記録長2304バイトの不定長で記録されている。その全体構造を以下に示す。



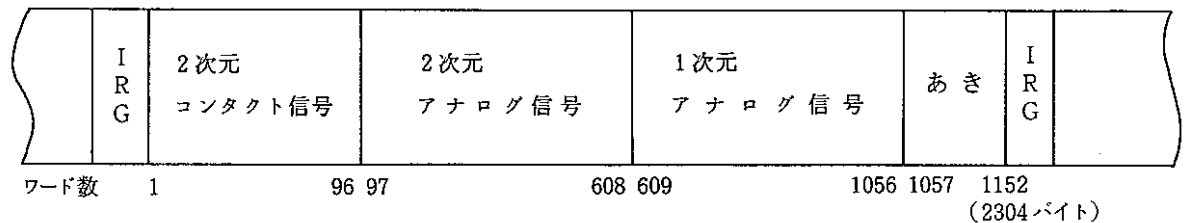
#### (1) テキストブロック

原MTの集録情報データで、MTの先頭に書込まれる。記録長は106バイトで以下の内容を持つ。各変数名の内容は表C 1に示す。



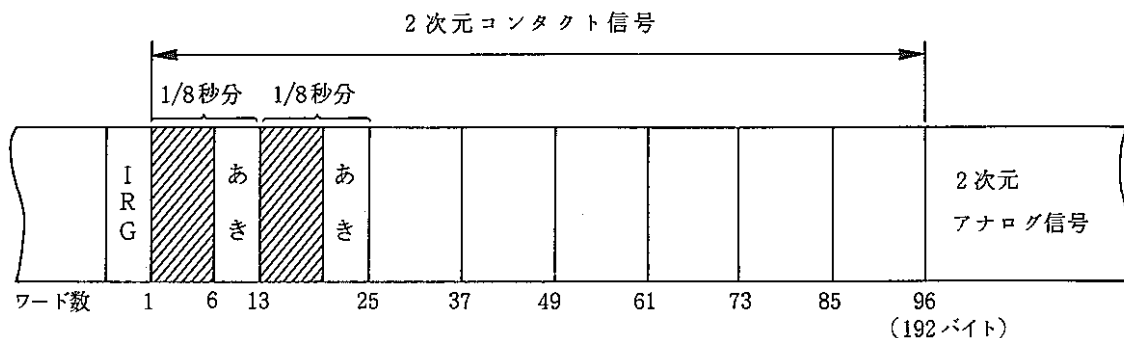
#### (2) データブロック

プラントデータで、毎秒1ブロックずつ書込まれる。記録長は2304バイト(1152ワード)で、内容は2次元コンダクト信号96ワード、2次元アナログ信号512ワードおよび1次元アナログ信号512ワードから成り、以下の構成である。



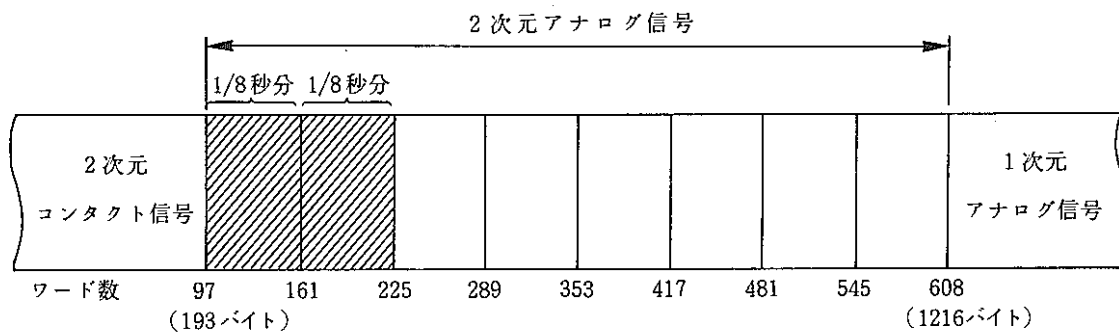
#### i) 2次元コンタクト信号

1/8秒毎の接点信号で、1秒間に8回走査される。1信号は1ビットで表らわされ、1/8秒毎に24バイト(192信号分)が確保され、1秒分192バイトが記録される。通常は92信号まで使用され、以下の構成である。



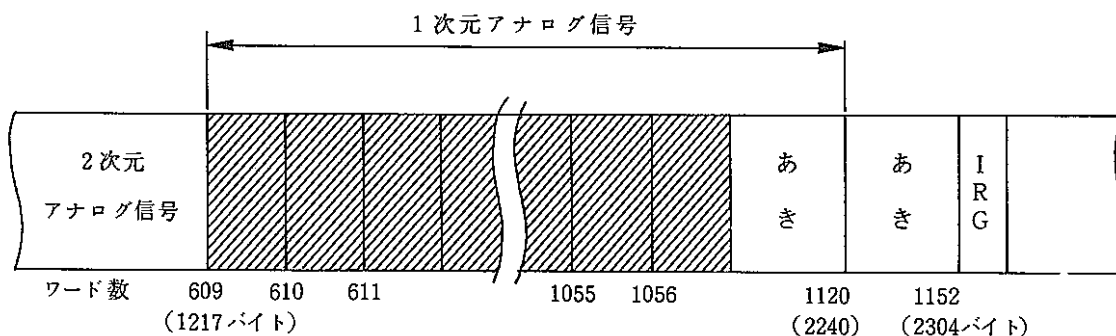
ii) 2次元アナログ信号

1/8秒毎のデータで、1秒間に8回走査される。1信号は2バイト(1ワード)で表わされ、1/8秒毎に128バイト(64信号分)が確保され、1秒分1024バイトが記録される。通常は64信号分すべて使用され、以下の構成である。



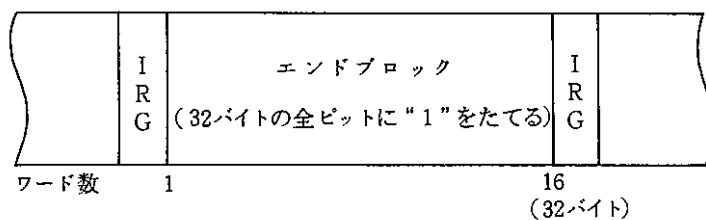
iii) 1次元アナログ信号

1秒毎に走査されるデータである。1信号は2バイト(1ワード)で表わされ、1秒分1024バイトが記録される。通常は448信号まで使用され、以下の構成である。



(3) エンドブロック

データブロックの終りを示すデータで、原MTへのデータ集録終了時に書込まれる。記録長は32バイトで全ビットに1が立ち、以下の構成となる。



表C 1 動特性MTテキストブロックの内容(1980年以前)

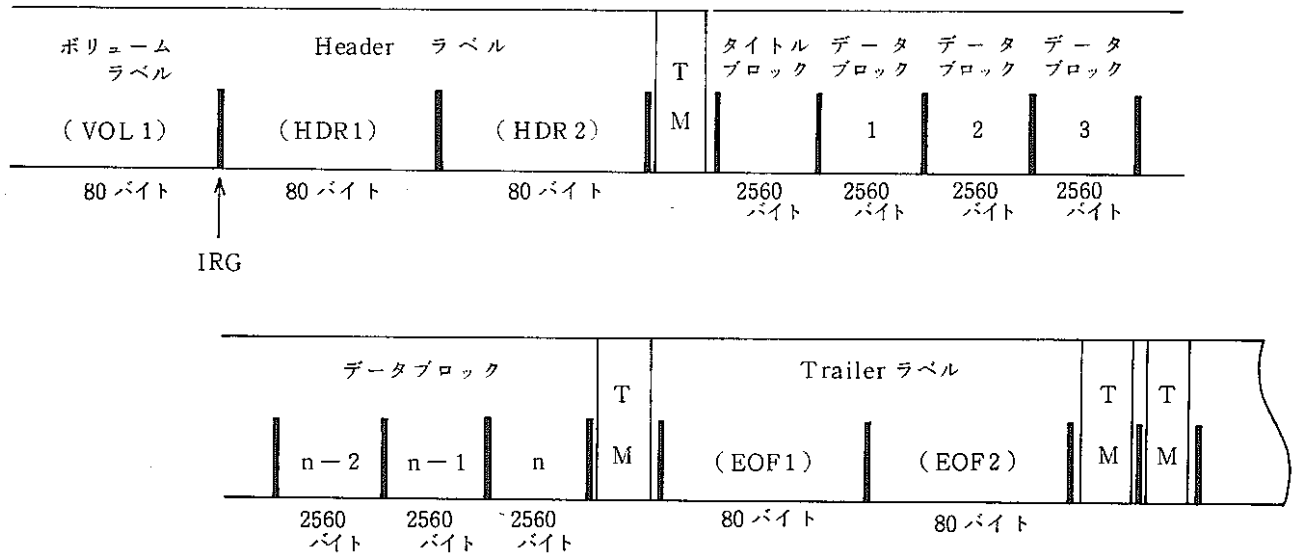
変数名	通常値	意味	
NTITL	50MW S G POWER CHANGE-CONTROLLED RAMP CHANGE	動特性試験名(どのMTにも同じタイトルが入っている。70文字以内)	
MODE	0	試験モード	
NEN		年	試験を実施(又はMTにデータ記録を開始)した日時を示す。
MON		月	
NIC		日	
NZI		時	
MIN		分	
NSEC		秒	
NOBLC	3	2次元コンタクト, 2次元アナログ, 1次元アナログの3つを示す。 (MTの1データブロック毎に記録されたデータ種類の数)	
ICA(44)	92	2次元コンタクト信号数(この値は使用しない)	
NDIM(1)	8	2次元コンタクト信号の毎秒サンプル数 (1/8秒に1回)	
ICA(46)	64	2次元アナログ信号数	
NDIM(2)	8	2次元アナログ信号の毎秒サンプル数 (1/8秒に1回)	
ICA(48)	448	1次元アナログ信号数	
NDIM(3)	1	1次元アナログ信号の毎秒サンプル数 (1秒に1回)	

C 1.2 動特性MT (1981年以降)内容

50 MWSGTFのF 270-25 計算機により1981年以降に集録された動特性MT (原MT)は、記録密度800 BPI, 標準ラベル形式(SL)で、下記仕様で記録されている。

VOL = SER = VOL001  
 DSN = LOGFILE  
 RECFM = F  
 BLKSIZE = 2560  
 LRECL = 2560  
 DEN = 2

その全体構造を以下に示す。



(1) タイトルブロック

原MTの集録情報データで、SL第1ファイルの先頭に書込まれる。その内容を以下に示す。

IRG	タイトル (70文字)	0	年	月	日	時	分	秒	3	1024	1	736	1	16	8	あき (4ワード)	(続く)	
	E	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I		
ワード数	1	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	53

(続き)	2次元アナログデータ MPX番号 (16ワード) I	あき (不定) (1211ワード)	IRG
54	69 70	1280 (2560バイト)	
I : 2バイト整数, E : EBCDIC			

54～69ワードのMPX番号は、2次元アナログデータ（1/8秒サンプリング）16点のマルチプレクサ番号（0～1023）を示す。なお、-1（X'FFFF'）は内容なしを示す。

(2) データブロック

プラントデータで、毎秒1ブロックずつ書込まれる。内容は管理情報32ワード、時間情報16ワード、1次元アナログ信号1024ワード、2次元コンタクト信号64ワードおよび2次元アナログ信号128ワードから成り、以下の構成である。また、詳細内容を表C2に示す。

	I R G	管 理 情 報 32ワード	時 間 情 報 32ワード	1次元アナログ信号 1024ワード	2次元 コンタクト信号 64ワード	2次元 アナログ信号 128ワード	I R G
ワード数	1	32 33	64 65	1088 1089	1152 1153	1280 (2560バイト)	

表C2 原MT(1981年以降)データブロック内容

(構成図)		項目	長さ	内容																																																
1 ワード	管理情報	管理情報	32ワード (64バイト)	SYSCOM Z '90' ~ Z 'CF'																																																
	33 時間情報		16ワード (32バイト)	SYSCOM Z '00' ~ Z 'IF'																																																
	65 1次元 アナログ信号 1024W	時間情報	16ワード (32バイト)	データ格納開始, 終了時刻 AI 開始 2W DI-A 開始 2W DI-C 開始 2W DI-C 終了 2W 1/8秒 開始 2W 1/8秒 終了 2W CCA 送出 2W CCA 受信 2W																																																
	1089	1次元 アナログ信号	1024ワード (2048バイト)	RTC-AI 1024点 1秒分 MPX順に記録されている。																																																
	2次元 コンタクト信号 46W	1次元 コンタクト信号	64ワード (128バイト)	1秒毎, 736信号 1秒分 $\frac{1 \text{ ビット} \times 736}{16 \text{ ビット/ワード}} = 46 \text{ ワード}$ 18ワードあき																																																
1153	あき 18W	2次元 アナログ信号	128ワード (256バイト)	1/8秒毎, 16信号 1秒分 1ワード×16信号×8スキャン = 128 ワード																																																
1280	2次元 アナログ信号 128W	<p>[備考] 時刻は 37 ~ 39 ワードにBCDで書込まれている。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">37 w</td> <td colspan="4" style="text-align: center;">38 w</td> <td colspan="4" style="text-align: center;">39 w</td> </tr> <tr> <td>10<sup>1</sup></td><td>10<sup>0</sup></td><td>10<sup>1</sup></td><td>10<sup>0</sup></td><td>10<sup>1</sup></td><td>10<sup>0</sup></td><td></td><td></td><td>10<sup>1</sup></td><td>10<sup>0</sup></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>の</td><td>の</td><td>の</td><td>の</td><td>の</td><td>の</td><td></td><td></td><td>の</td><td>の</td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>位</td><td>位</td><td>位</td><td>位</td><td>位</td><td>位</td><td></td><td></td><td>位</td><td>位</td><td></td><td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"> <span style="margin-right: 20px;">}</span> 時                <span style="margin-right: 20px;">}</span> 分                <span style="margin-right: 20px;">}</span> 秒                <span style="margin-right: 20px;">}</span> 1/64秒         </p>			37 w				38 w				39 w				10 <sup>1</sup>	10 <sup>0</sup>	10 <sup>1</sup>	10 <sup>0</sup>	10 <sup>1</sup>	10 <sup>0</sup>			10 <sup>1</sup>	10 <sup>0</sup>			の	の	の	の	の	の			の	の			位	位	位	位	位	位			位	位		
37 w				38 w				39 w																																												
10 <sup>1</sup>	10 <sup>0</sup>	10 <sup>1</sup>	10 <sup>0</sup>	10 <sup>1</sup>	10 <sup>0</sup>			10 <sup>1</sup>	10 <sup>0</sup>																																											
の	の	の	の	の	の			の	の																																											
位	位	位	位	位	位			位	位																																											

C-2 編集MT

動特性MT集録データから物理量換算された値が記録される編集MTは、記録密度 6250 BPI、標準ラベル形式 (SL) で、単ボリューム多ファイルで下記仕様で記録されている。

RECFM = FB (ただし、フォーマット無し<sup>註</sup>)

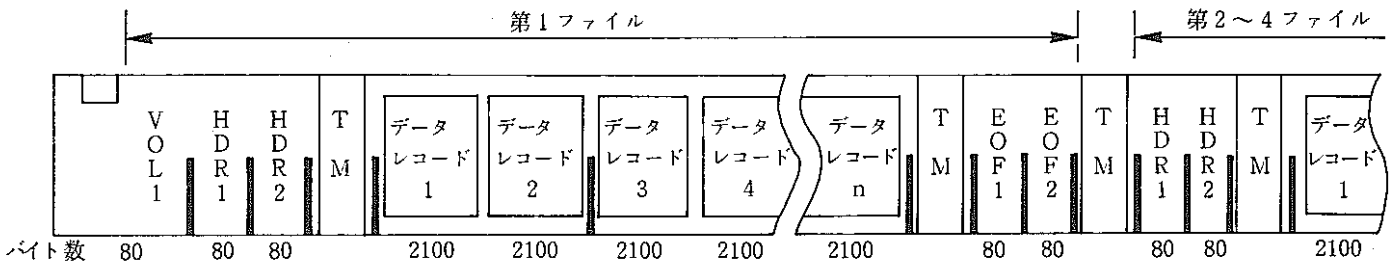
BLKSIZE = 4200

LRECL = 2100

DEN = 4

また、ボリューム通番はSNの2文字に続く4桁の数値、データセット名はEの2文字に続く7桁の動特性MT番号で表わされ、通常4ファイルまで書込可能である。

全体の記録構造を以下に示す。

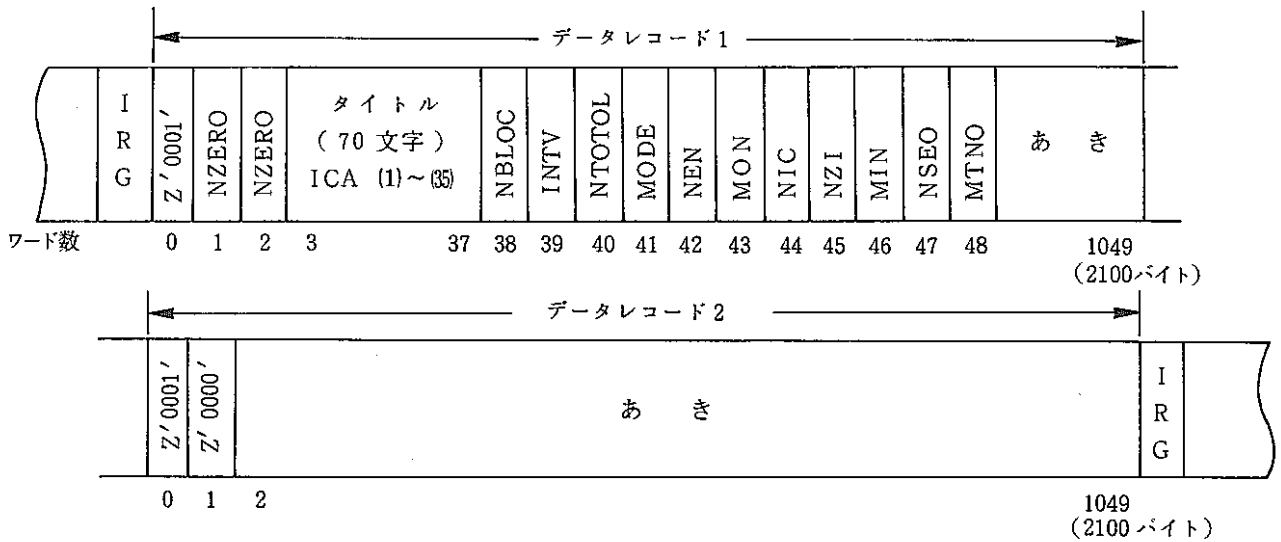


C.2.1 編集MT内容 (1980年以前の動特性MT)

1980年以前の動特性MTから作成される編集MTのデータは以下の内容を持つ。変数名は表C3に示す。

(1) データレコード 1, 2

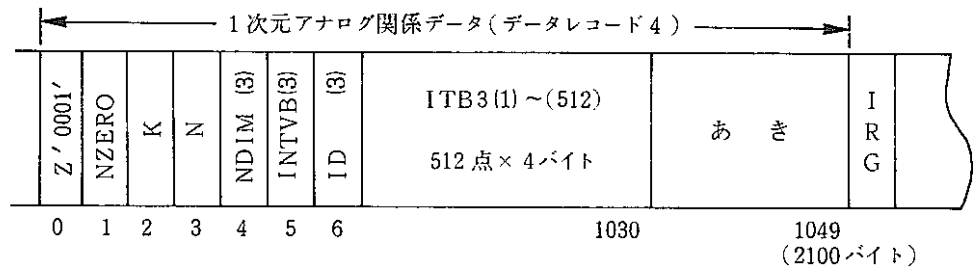
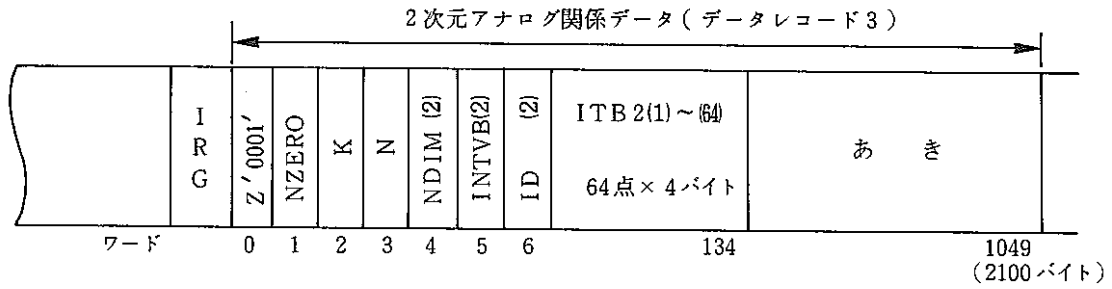
動特性MTのテキストブロックに相当する内容が書込まれる。その構造を以下に示す。



(注) 固定長記録形式でフォーマットなしWRITE文で書込む場合、FACOMのOSが先頭2バイトに16進数の'0001'を付加する。これを、フォーマットなしREAD文で読出す場合はこの制御変数は考慮しなくてよいが、文字データとして読出す場合は考慮しなくてはならない。

(2) データレコード 3, 4

2次元アナログ及び1次元アナログの信号数及びTAG NOの値が書込まれる。



(3) データレコード 5 ~ n

動特性MTの整数値データより物理量データに変換された2次元アナログ及び1次元アナログ信号が毎秒2レコードずつ書込まれる。1秒分のデータを以下に示す。

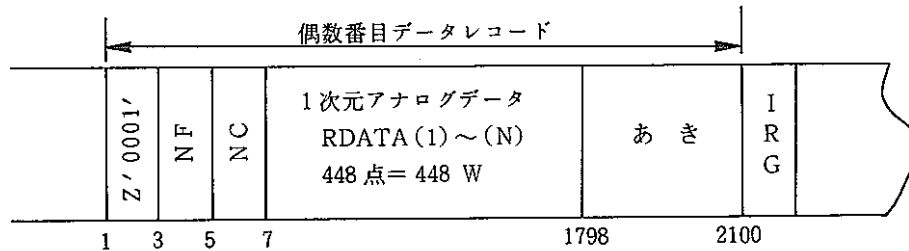
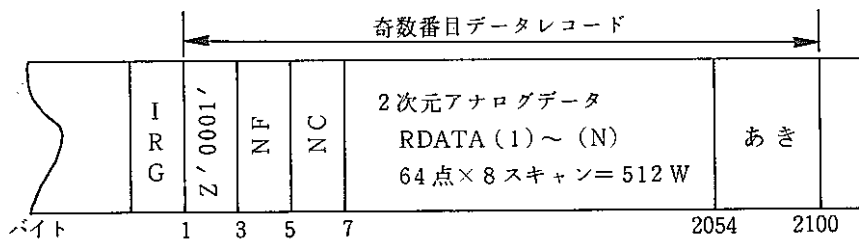




表 C 3 編集MTの内容 ( 1980年以前の動特性MT )

変数名	通常値	意味	
NZERO	0		
NZERO	0		
ICA(1)~(35)	50MW S G POWER CHANGE - CONTROLLED RAMP CHANGE	タイトル ( 全MTで同じ内容 )	
NBLOC	2	書込まれているデータの種類の数 2次元アナログと1次元アナログ	
INTV	1000	データサンプル時間間隔 ( msec ) ( 特に意味なし )	
NTOTAL	604	全信号数 ( 92 + 64 + 448 )	
MODE	0	試験モード	
NEN		年	試験開始 ( MT記録開始 ) の日時を示す。
MON		月	
NIC		日	
NZI		時	
MIN		分	
NSEC		秒	
MTNO	1	MT番号	
NZERO	0		
NZERO	0		
K	1	TAG No. ブロックの順位 2次元アナログを示す。	
N	64	2次元アナログ信号数	
NDIM (2)	8	2次元アナログの毎秒サンプル数 ( 1/8 秒に1回 )	
INTVB (2)	125	2次元アナログサンプル時間間隔 ( msec )	
ID (2)	1	データの種類 1はアナログデータを示す。	

表C3 (続 き)

変 数 名	通 常 値	意 味
ITB2(1)~(N)		2次元アナログのTAG No. (各ワード4バイト)
NZERO	0	
K	2	TAG No.ブロックの順位 1次元アナログを示す。
N	448	1次元アナログ信号数
NDIM(3)	1	1次元アナログの毎秒サンプル数 (1秒に1回)
INTV(3)	1000	1次元アナログサンプル時間間隔(msec)
ID(3)	1	データの種類 1はアナログデータを示す。
ITB(1)~(512)		1次元アナログのTAG No. (各ワード4バイト)
NF		データブロック <sup>註</sup> の順位 (何番目のデータブロックかを示す)
NC	1	1ヶのデータブロック <sup>註</sup> の中の順位 1は2次元アナログを示す。
RDAT(1)~(N)		2次元アナログ工業値データが入る。 N=64×8=512(各ワード4バイト)
NF		データブロックの順位 (1ヶのデータブロックでは2次元アナ ログのNFと同じ値)
NC	2	1ヶデータブロックの中の順位 2は1次元アナログを示す。
RDATA(1)~(N)		1次元アナログ工業値データが入る N=448(各ワード4バイト)

(注) データブロックは1秒分(2ブロックで2次元アナログ及び1次元アナログ)を1ヶと数えた。

C 2.2 編集MT内容(1981年以降の動特性MT)

1981年以降の動特性MTから作成される編集MTのデータは以下の内容を持つ。

(1) データレコード1

動特性MTのタイトルブロックに相当する内容および編集MT作成時の情報が書き込まれる。  
その詳細内容を表C4に示す。

(2) データレコード 2～10

1次元アナログ信号および2次元アナログ信号のTag No., 最小値, 最大値が書き込まれる。

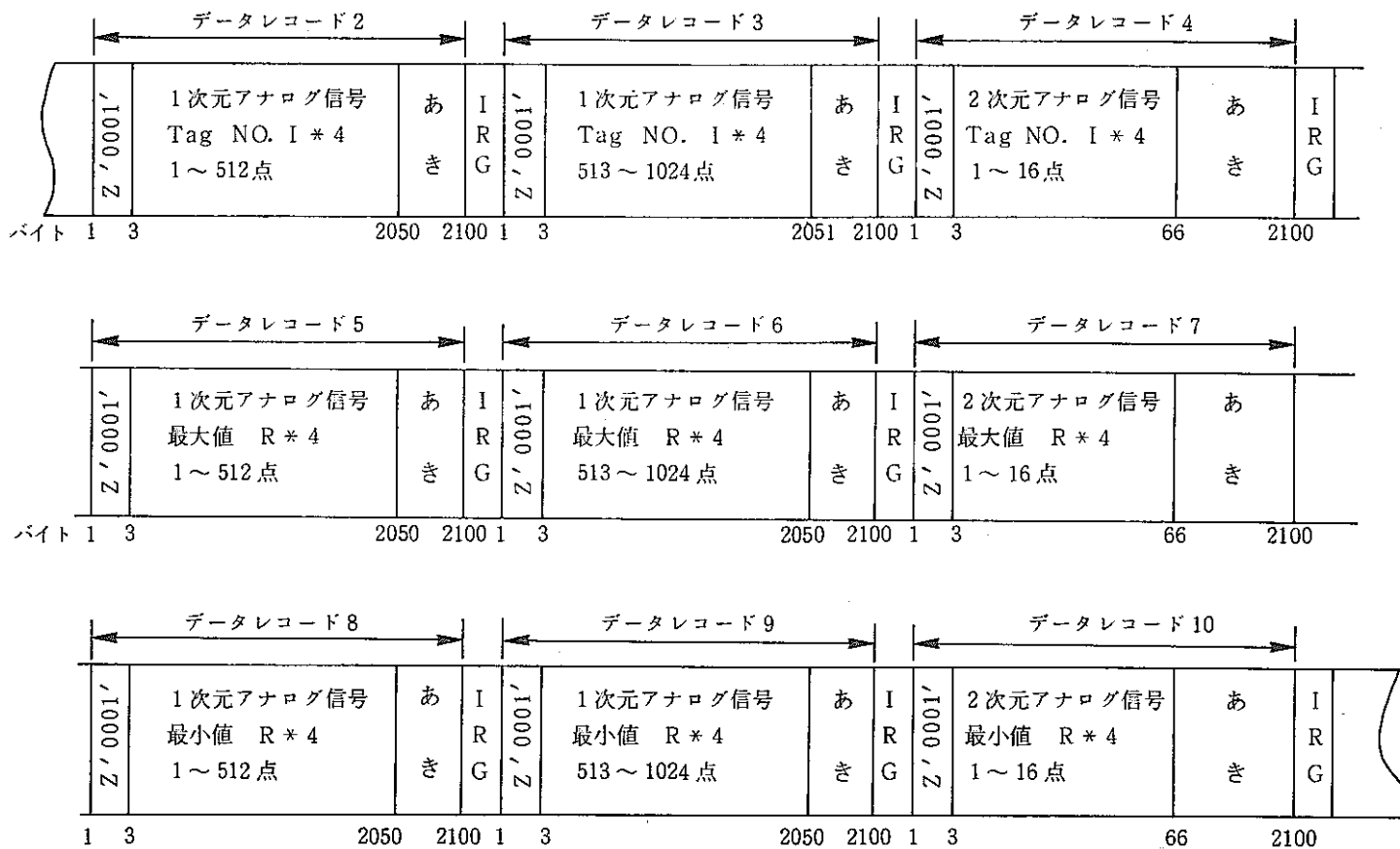
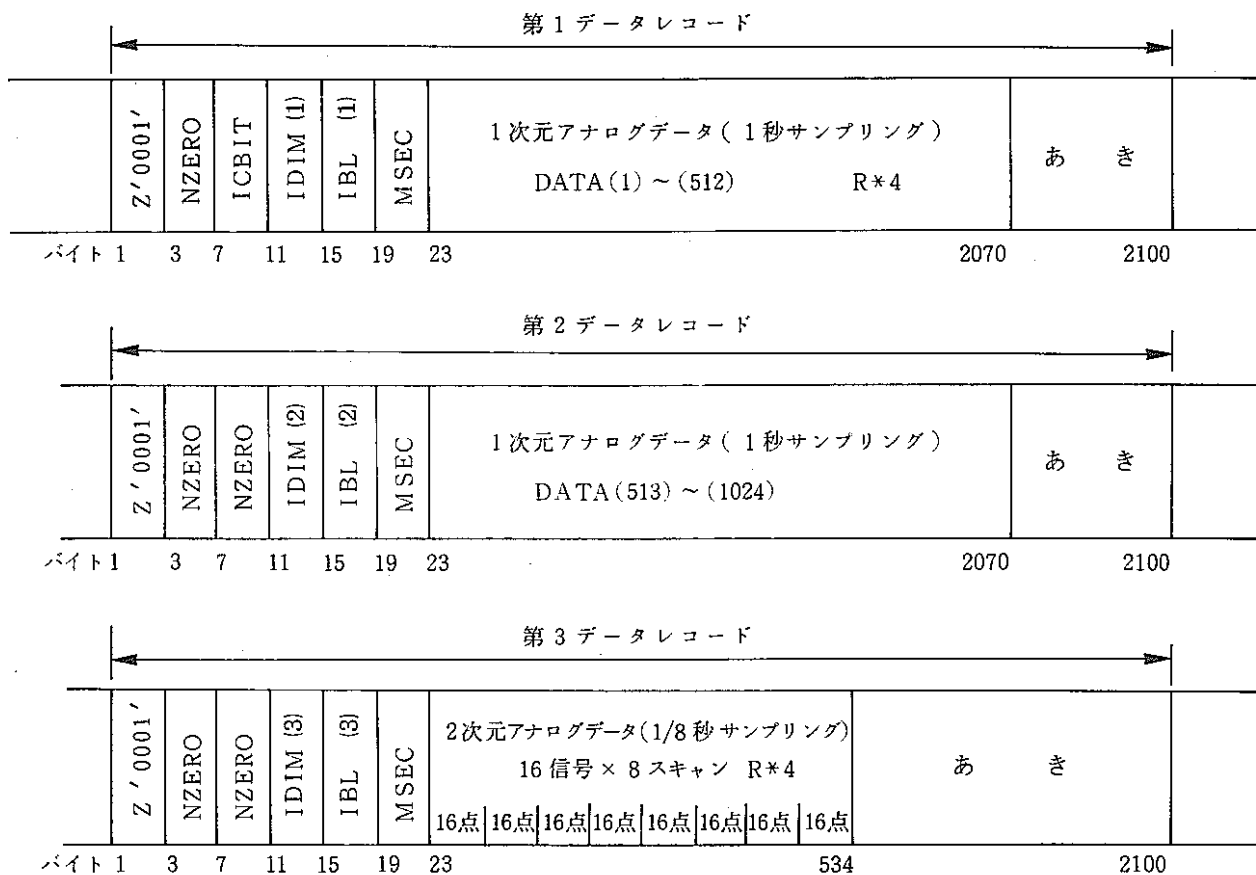


表 C 4 編集MT記録内容(1981年以降の動特性MT)

MT	編集MT(1981年以降の動特性MT)		データレコード位置	1
(構成図) バイト	項目	サイズ	内 容	値
1	制御情報	A * 2	固定長記録形式でフォーマットなしWRITE文によりOSが付加する制御用定数	Z'0001'
3				
7	NZE	I * 4		0
11	NZE	I * 4		0
35	IATIM	I * 4	IATIM(1)=原MT作成年 (2)= " 月 (3)= " 日 (4)= " 時 (5)= " 分 (6)= " 秒	
47	IDIM	I * 4	1秒分のデータ3レコードの配列	IDIM(1)= 1 (2)= 1 (3)= 2
59	IBL	I * 4	1秒分のデータ3レコードの信号点数	IBL(1)= 512 (2)= 512 (3)= 16
131	NTITL	A * 4	動特性MTのタイトル72文字	
139	DDATE	A * 4	編集MT作成年月日 DDATE(1)= yy-m (2)= m-dd	
150	IDTIME	I * 4	編集MT作成時刻 IDTIME(1)=時 (2)=分 (3)=秒	
2100	あ き			

(3) データレコード 3 ~ n

動特性MTの整数値データより物理量データに変換された1次元アナログおよび2次元アナログ信号が毎秒3レコードずつ書込まれる。1秒分のデータを以下に示す。



ただし, ICBIT : DIC 23 接点信号

MSEC : データ集録時刻〔msec〕

(動特性MTでREADエラーが発生すると)  
時刻は負で記録される。

C 3 補助冷却系評価試験 ACSLOG MT

50 MW SGTFのPFU-400 計算機により集録されるACSLOGMTは、記録密度1600 または 800 BPI, 標準ラベル形式(SL)で、下記仕様で記録されている。

VOL = SER = ACS000

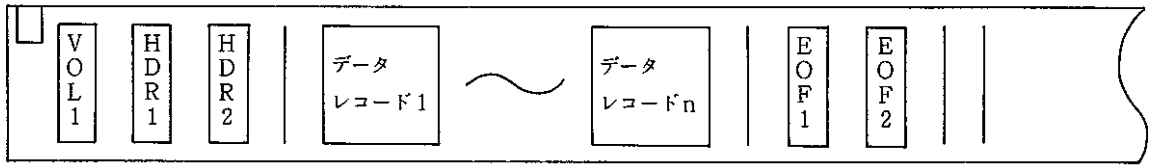
DSN = ACS - LOG

RECFM = F

BLKSIZE = 1024

LRECL = 1024

その全体構造を以下に示す。



(1) 1レコード目

	I R G	年月日 EBCDIC 6バイト	時分秒 EBCDIC 6バイト	実験番号 EBCDIC 12バイト	タイトル EBCDIC 32文字	MT番号 EBCDIC 8文字	集録データ MPX番号 217点 I * 4	あき	I R G
バイト	1	7	13	25	57	65	932	1024	

ACSLOGMT への集録データは表C 5に示す。

(2) 2レコード目以降

	I R G	U-400 時刻 (msec) I * 4	RTC 時刻 4バイト	データ 217点 R * 4	あき	I R G
バイト	1	5	9	876	1024	

1～4バイトにはPFU-400の時刻が4バイト整数で記録される。単位はミリ秒である。  
5～8バイトにはRTCの時刻がBCDで記録される。

5バイト目		6		7		8	
10 <sup>1</sup>	10 <sup>0</sup>	10 <sup>1</sup>	10 <sup>0</sup>	10 <sup>1</sup>	10 <sup>0</sup>	10 <sup>1</sup>	10 <sup>0</sup>
の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位
時		分		秒		1/64秒	

表 C. 5 ACSLOGMT 集録データ

No.	TAG - No.	MPX - No.
1	T50030	471
2	T50031	472
3	T50032	473
4	T50033	474
5	T50034	475
6	T50035	476
7	T50036	477
8	F51004	187
9	F51005	188
10	F51006	189
11	F51007	190
12	T50009	404
13	T50010	405
14	T50011	406
15	T50012	407
16	T50013	408
17	T50014	409
18	T50015	410
19	F51002	185
20	F51003	186
21	F51001	7
22	T50016	411
23	T50017	412
24	T50018	413
25	T50019	414
26	T50020	415
27	T50021	416
28	T50022	417
29	T51002	60
30	T51001	59
31	T51007	429
32	T51047	469
33	T51048	470
34	T50023	418
35	T50024	419
36	T50025	420
37	T50026	421
38	T50027	422
39	T50028	423
40	T50029	424

No.	TAG - No.	MPX - No.
41	T51006	428
42	F50001	4
43	F50002	5
44	T50037	478
45	T50038	479
46	T50039	480
47	T50040	481
48	T50041	482
49	T50042	483
50	T50043	484
51	T50004	140
52	T50005	400
53	T50006	401
54	T50007	511
55	T50008	403
56	T51016	438
57	T51017	439
58	T51018	440
59	T51019	441
60	T51034	456
61	T51035	457
62	T51036	458
63	T51037	459
64	T51038	460
65	T51020	442
66	T51021	443
67	T51022	444
68	T51023	445
69	T51049	485
70	T51050	486
71	T51051	487
72	T51052	488
73	T51053	489
74	T51039	461
75	T51040	462
76	T51041	463
77	T51042	464
78	T51054	490
79	T51055	491
80	T51056	492

表 C.5 (続 き)

No.	TAG-No.	MPX-No.
81	T51059	495
82	T51060	496
83	T51043	465
84	T51044	466
85	T51045	467
86	T51046	468
87	T51003	425
88	T51004	426
89	T51005	427
90	T51057	493
91	T51058	527
92	T51008	430
93	T51009	431
94	T51010	432
95	T51011	433
96	T51024	446
97	T51025	447
98	T51026	448
99	T51027	449
100	T51028	450
101	T51012	434
102	T51013	435
103	T51014	436
104	T51015	437
105	T51029	451
106	T51030	452
107	T51031	453
108	T51032	454
109	T51033	455
110	T50046	499
111	T50047	500
112	T50048	501
113	T50049	502
114	T50050	503
115	T50051	504
116	T50052	505
117	T50053	506
118	T50054	507
119	T50055	508
120	T50056	509

No.	TAG-No.	MPX-No.
121	T50057	510
122	T11004	8
123	F11002	36
124	T11005	9
125	F11003	37
126	T11007	17
127	F11005	40
128	T11008	18
129	F11006	43
130	F11007	39
131	S11001	51
132	T11011	11
133	F11009	41
134	P11001	33
135	T11001	13
136	F11001	35
137	P11002	32
138	T12001	54
139	P50012	2
140	T12002	53
141	P50013	3
142	T23001	959
143	F12002	65
144	L22003	163
145	F23002	960
146	L21003	161
147	T23004	858
148	F12021	64
149	S12001	70
150	T23003	961
151	F12001	152
152	P12001	63
153	T12004	56
154	P12002	62
155	T12005	52
156	F12003	66
157	T50001	49
158	P50011	1
159	T50002	50
160	Z50001	29



表 C.5 (続 き)

No.	TAG - No.	MPX - No.
161	T50044	497
162	F50003	6
163	Z50002	34
164	T50045	498
165	Z51001	20
166	Z51002	25
167	Z51003	30
168	S51001	48
169	F13004	92
170	P13001	87
171	T27001	962
172	F13021	91
173	P27010	164
174	T21262	229
175	F13022	103
176	P13017	79
177	T27002	963
178	P27020	179
179	T27011	181
180	P27030	165
181	T27003	964
182	P13003	80
183	T27004	965
184	F13002	93
185	P13005	82
186	T13003	72
187	F13321	110
188	P13011	85
189	T13005	73
190	F13322	115
191	P13021	159
192	T13009	74
193	F13323	123
194	P13012	90
195	S13001	99
196	Z13001	100
197	Z13002	117
198	J51002~J51007	
199	-	-
200	-	-

No.	TAG - No.	MPX - No.
201	T51061	528
202	T51062	529
203	T51063	530
204	T51064	531
205	T51065	532
206	T51066	533
207	T51067	534
208	T51068	535
209	T51069	536
210	T51070	537
211	T51071	538
212	T51072	539
213	T51073	540
214	T51074	541
215	T51075	542
216	T51076	543
217	T51077	544

付録D 50MW S G 2号機マルチプレクサ(アナログ入力)一覧表

変更履歴

(付記) 表中変更履歴○印は1983年3月31日以前に変更がなされたものを示す。

No	年月日	担当	主 内 容	配 布 先					
				解析	保修	試験	技開		本社
0	83. 3. 31		本一覧表を作成						
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									

マルチプレクサ変更履歴

MPX. No.	改 訂		TAG No.	測定レンジ	MPX 入出力	備 考
	No.	年月日				

## マルチプレクサ入力一覧表

(1/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
000 (000)	—	—	—					
1 (001)	P 50011	ACS 空気冷却器 出入口差圧	158	0~600 <sup>mmH<sub>2</sub>O</sup>	1~5 V	400~2000	PdE-1	○
2 (002)	P 50012	IHX 出入口差圧 (低)	139	"	"	"	PdE-2	○
3 (003)	P 50013	" (高)	141	0~10000 <sup>mmH<sub>2</sub>O</sup>	"	"	PdE-3	○
4 (004)	F 50001	ACS 空気冷却器 出口 Na 流量	42	0~100 m <sup>3</sup> /H	"	"	FE-1	○
5 (005)	F 50002	" 極小流量	43	0~7 m <sup>3</sup> /H	"	"	FE-2	○
6 (006)	F 50003	SH 入口 Na 遮断弁バイパス Na 流量	162	0~25 m <sup>3</sup> /H	"	"	FE-3	○
7 (007)	F 51001	ACS 空気冷却器 入口 空気風量	21	0~65.2mmAq	"	"	FE-5	○
8 (008)	T 11004	No 1 Na 加熱器 出口 Na 温度	122	0~600℃	1~5 V	400~2000	TICA-104	
9 (009)	T 11005	No 2 Na 加熱器 出口 Na 温度	124	"	"	"	" 105	
10 (00A)	T 11009	一次系循環ポンプ 入口 Na 温度	—	"	"	"	" 109	
11 (00B)	T 11011	空気冷却器 出口 Na 温度	132	"	"	"	" 111	
12 (00C)	T 11016	一次系コールド・トラップ 底部 Na 温度	—	"	"	"	" 116	
13 (00D)	T 11001	一次系循環ポンプ 出口 Na 温度	135	"	"	"	TR-181-1	
14 (00E)	T 11002	No 1 Na 加熱器 入口 Na 温度	—	"	"	"	" 2	
15 (00F)	T 11003	No 2 Na 加熱器 入口 Na 温度	—	"	"	"	" 3	
16 (010)	T 11006	コールド・バイパス・ミキシングティ Na 温度	—	"	"	"	" 6	
17 (011)	T 11007	IHX 一次系 入口 Na 温度	126	"	"	"	" 7	
18 (012)	T 11008	IHX 一次系 出口 Na 温度	128	"	"	"	" 8	
19 (013)	T 11023	IHX オーバ・フロー 出口 Na 温度	—	"	"	"	" 10	
20 (014)	Z 51001	ACS 空気冷却器 入口ダンパ開度	165	0~100%	"	"	ZE-1	○
21 (015)	T 11010	空気冷却器 入口 Na 温度	—	0~600℃	"	"	TR-182-1	
22 (016)	T 11051	空気冷却器 入口 空気温度	—	0~300℃	"	"	" 3	○
23 (017)	T 11052	空気冷却器 出口 空気温度	—	0~600℃	"	"	" 4	
24 (018)	T 11019	一次系エコノマイザ 出口 Na 温度	—	"	"	"	" 6	
25 (019)	Z 51002	ACS 空気冷却器 出口ダンパ開度	166	0~100%	"	"	ZE-2-1, 2-2	○
26 (01A)	T 11018	一次系コールド・トラップ 出口 Na 温度	—	0~600℃	"	"	TR-182-9	
27 (01B)	T 11012	一次系オーバ・フロー・タンク 内部 Na 温度	—	0~600℃	"	"	" 11	
28 (01C)	T 11091	No 1~No 2 Na 加熱器 出口 Na 温度差	—	-50~50℃	"	"	TdIA-191	○
29 (01D)	Z 50001	ACS 空気冷却器 出口 Na 流量調節弁開度	160	0~100%	"	"	ZE-4	○
30 (01E)	Z 51003	ACS 空気冷却器 送風機 入口ベーン開度	167	"	"	"	ZE-3	○
31 (01F)	T 11094	一次系コールド・トラップ 底部~ブラギング Na 温度差	—	0~100℃	1~5 V	400~2000	TR-182-194	○

## マルチプレクサ入力一覧表

(2/32)

MPX No.	TAG No.	名称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
(032/20)	P11002	一次系循環ポンプ入口圧力	137	-1~9 $\frac{\text{kg}}{\text{cm}^2\text{g}}$	1~5 V	400~2000	PRA-181-2	
(33/21)	P11001	一次系循環ポンプ出口圧力	134	"	"	"	"	1
(34/22)	Z50002	ACS 空気冷却器出口 Na 温度調節弁開度	163	0~100 %	"	"	ZE-5	○
(35/23)	F11001	一次系循環ポンプ出口 Na 流量	136	0~1500 T/h	"	"	FICA-101	
(36/24)	F11002	No.1 Na 加熱器入口 Na 流量	123	0~800 T/h	"	"	FRA-102	
(37/25)	F11003	No.2 Na 加熱器入口 Na 流量	125	"	"	"	" 103	
(38/26)	F11004	コールド・バイパス・ミキシングティ入口 Na 流量	-	0~1500 T/h	"	"	FIC-104	
(39/27)	F11007	コールド・バイパス Na 流量	130	"	"	"	" 107	
(40/28)	F11005	IHX 一次系入口 Na 流量	127	"	"	"	" 105	
(41/29)	F11009	クーラ・バイパス Na 流量	133	0~300 T/h	"	"	FICA-109	
(42/2A)	F11011	一次系エコノマイザ入口 Na 流量	-	0~20 "	"	"	FIC-111	
(43/2B)	F11006	IHX 一次系出口 Na 流量	129	0~1500 "	"	"	FR-181-3	
(44/2C)	F11008	ホットバイパス Na 流量	-	0~300 "	"	"	" 2	
(45/2D)	F11010	非常冷却ポンプ入口 Na 流量	-	0~100 $\text{m}^3/\text{h}$	"	"	" 4	
(46/2E)	F11051	空気冷却器空気流量	-	0~500000 "	"	"	FI-151	○
(47/2F)	F11012	一次系オーバ・フロー電磁ポンプ出口 Na 流量	-	0~20 "	"	"	FRA-112	○
(48/30)	S51001	ACS 空気冷却器送風機回転数	168	0~2000rpm	"	"	SE-1	○
(49/31)	T50001	ACS 空気冷却器入口 Na 温度	157	0~600 °C	"	"	TE-1	○
(50/32)	T50002	" 出口 "	159	"	"	"	" 4	○
(51/33)	S11001	一次系循環ポンプ回転数	131	0~2000rpm	"	"	SIA-101	
(52/34)	T12005	二次系循環ポンプ入口 Na 温度	155	0~600 °C	"	"	TICA-205	
(53/35)	T12002	IHX 二次系出口 Na 温度	140	"	"	"	TIC-202	
(54/36)	T12001	IHX 二次系入口 Na 温度	138	"	"	"	TR-281-1	
(55/37)	T12003	SG 入口 Na 温度	-	"	"	"	" 3	
(56/38)	T12004	SG 出口 Na 温度	153	"	"	"	" 4	
(57/39)	T12006	二次系オーバ・フロー・タンク内部 Na 温度	-	"	"	"	" 6	
(58/3A)	T12010	二次系ブラッキング計温度	-	0~600 °C	"	"	X(D)RA-283-1	○
(59/3B)	T51001	ACS 空気冷却器入口空気温度	30	-10~90 °C	"	"	TE-7	○
(60/3C)	T51002	" 送風機出口空気温度	29	"	"	"	" 9	○
(61/3D)	T50003	ACS ベーバートラップ内挿温度	-	0~300 °C	"	"	" 10	○
(62/3E)	P12002	二次系循環ポンプ入口圧力	154	-1~9 $\frac{\text{kg}}{\text{cm}^2\text{g}}$	"	"	PRA-281-2	
(63/3F)	P12001	二次系循環ポンプ出口圧力	152	"	1~5 V	400~2000	" 1	

## マルチプレクサ入力一覧表

( 3 / 32 )

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録 順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更 履歴
64 (40)	F12021	SG出口Na 流量 (MSA製に変更)	148	0~1500 T/h	1 ~ 5 V	400~2000	FR-281-1	○
65 (41)	F12002	" 入口 "	143	"	"	"	FICA-292	
66 (42)	F12003	" バイパス "	156	0~750 "	"	"	FR-281-3	
67 (43)	F12004	二次系オーバフロー電磁ポンプ出口Na 流量	—	-20~20 <sup>m</sup> ³/h	"	"	FRA-204	
68 (44)	L12001	二次系循環ポンプNa レベル(信頼性なし)	—	115~1365 <sup>mm</sup>	"	"	LRA-201	○
69 (45)	L12003	二次系オーバ・フロー・タンクNa レベル (信頼性なし)	—	-1150~500 <sup>mm</sup>	"	"	" 203	○
70 (46)	S12001	二次系循環ポンプ回転数	149	0~2000 <sup>rpm</sup>	"	"	SI A-201	
71 (47)	T13002	高圧給水加熱器出口給水温度	—	0~300 °C	"	"	TICA-302	
72 (48)	T13003	SG出口蒸気温度	186	0~600 °C	"	"	" 303	
73 (49)	T13005	第一減温器出口蒸気温度	189	"	"	"	" 305	
74 (4A)	T13009	ダンプ・ライン減温器出口温度	192	"	"	"	" 309	
75 (4B)	T13001	高圧給水加熱器入口給水温度	—	0~300 °C	"	"	TR-381-1	
76 (4C)	T13006	第二減温器出口蒸気温度	—	"	"	"	" 381-5	
77 (4D)	T13007	復水器出口復水温度	—	"	"	"	" 381-6	
78 (4E)	T13008	サブクーラ出口復水温度	—	0~300 °C	"	"	" 381-7	
79 (4F)	P13017	給水調整弁前後差圧	176	0~20 <sup>kg/cm</sup> ²	"	"	PdIC-317	
80 (50)	P13003	SG出口蒸気圧力(主蒸気圧力)	182	0~250 "	"	"	PICA-303	
81 (51)	P13004	ガバナ弁入口圧力	—	75~150 "	"	"	PIC-304	○
82 (52)	P13005	第一減圧弁入口蒸気圧力	185	0~250 "	"	"	" 305	○
83 (53)	P13006	第二減圧弁入口蒸気圧力	—	0~125 "	"	"	PICA-306	
84 (54)	P13008	給水脱気器内部蒸気圧力	—	0~5 "	"	"	" 308	
85 (55)	P13011	ダンプ・ライン減圧弁入口圧力	188	0~250 "	"	"	" 311	
86 (56)	P13013	給水脱気器加熱蒸気減圧弁出口圧力	—	0~10 "	"	"	PIC-313	
87 (57)	P13001	主給水ポンプ出口圧力	170	0~250 "	"	"	PR-381-6	
88 (58)	P13007	復水器内部蒸気圧力	—	0~2 "	"	"	PRA-307	
89 (59)	P13002	SG入口給水圧力	—	0~250 "	"	"	PI-302	
90 (5A)	P13012	フラッシュ・タンク内部蒸気圧力	194	0~80 "	"	"	" 312	
91 (5B)	F13021	SG給水流量	172	0~100 T/h	"	"	FICA-301	
92 (5C)	F13004	主給水ポンプ入口流量	169	"	"	"	FR-381-4	
93 (5D)	F13002	SG出口蒸気流量	184	"	"	"	FRA-381-2	
94 (5E)	F13005	給水脱気器入口蒸気流量	—	0~15 T/h	"	"	FI-305	
95 (5F)	L13001	高圧給水加熱器内水位	—	-250~250 <sup>mm</sup>	1 ~ 5 V	400~2000	LICA-301	○

## マルチプレクサ入力一覧表

(4/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録 順 序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変 更 履 歴
(096/60)	L13002	復水器内水位	—	$-300 \sim 300$ mm	1 ~ 5 V	400 ~ 2000	LICA-302	
(97/61)	L13003	給水脱気器内水位	—	$-1500 \sim 300$ mm	"	"	" 303	
(98/62)	L13004	フラッシュタンク内水位	—	$-500 \sim 1000$ mm	"	"	" 304	
(99/63)	S13001	主給水ポンプ回転数	195	$0 \sim 2000$ rpm	"	"	SI-301	
(100/64)	Z13001	ガバナー模擬弁開度 (QCV 301)	196	$100 \sim 0$ %	"	"	ZI-301	
(101/65)	T12007	EV汲上系Na温度 (ポンプダクト温度)	—	$0 \sim 600$ °C	"	"	TE 251	○
(102/66)	T12008	二次系ストレージタンク内Na温度	—	$0 \sim 600$ °C	"	"	" 207	○
(103/67)	F13022	給水 (極少) 流量	175	$0 \sim 25$ T/h	"	"		○
(104/68)	Y13021	FIC 301 出力	—	$0 \sim 100$ %	"	"		○
(105/69)	Y13017	PdIC 317 出力	—	"	"	"		○
(106/6A)	Z13021	FCV 301 開度	—	"	"	"		○
(107/6B)	T14001	冷却水循環ポンプ出口水温度	—	$0 \sim 50$ °C	"	"	TRA-481-1	○
(108/6C)	T14002	冷却塔入口水温度	—	"	"	"	" -481-2	
(109/6D)	P13023	ダンブライン減温器出口蒸気圧力	—	$0 \sim 100$ kg/cm <sup>2</sup>	"	"	PE-321	○
(110/6E)	F13321	ダンブライン減温器出口蒸気流量	187	$0 \sim 7000$ mmAq	"	"	FE-321	○
(111/6F)	T16002	No.1 Na 加熱器入口LPG温度	—	$0 \sim 100$ °C	"	"	TI-602	○
(112/70)	T16003	No.2 Na 加熱器入口LPG温度	—	"	"	"	" 603	○
(113/71)	T16021	No.1 Na 加熱器燃焼ガス温度	—	$0 \sim 1000$ °C	"	"	TR-681-1	
(114/72)	T16022	No.2 Na 加熱器燃焼ガス温度	—	"	"	"	" -681-2	
(115/73)	F13322	ダンブライン減温器入口注水流量	190	$0 \sim 1200$ mmAq	"	"	FE-322	○
(116/74)	P12091	二次系コールドトラップ出入口Na差圧	—	$0 \sim 2$ kg/cm <sup>2</sup>	"	"	PdIA-291	
(117/75)	Z13002	PCV305 弁開度	197	$100 \sim 0$ %	"	"		○
(118/76)	P16009	No.2 Na 加熱器入口LPG圧力	—	$0 \sim 10$ kg/cm <sup>2</sup>	"	"	PIA-609	○
(119/77)	F16001	No.1 Na 加熱器燃料流量	—	$0 \sim 1500$ Nm <sup>3</sup> /h	"	"	FIC-601	
(120/78)	F16002	No.2 Na 加熱器燃料流量	—	"	"	"	" 602	
(121/79)	F16021	No.1 Na 加熱器空気流量	—	$0 \sim 60$ 10 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> /h	"	"	" 621	○
(122/7A)	F16022	No.2 Na 加熱器空気流量	—	"	"	"	" 622	○
(123/7B)	F13323	タービン起動時ドレンライン蒸気流量	193	$0 \sim 45000$ mmAq	"	"	FE-323	○
(124/7C)	T13023	" 温度	—	$0 \sim 600$ °C	"	"	TE-323	○
(125/7D)	G16001	No.1 Na 加熱器燃焼ガス O <sub>2</sub> 濃度	—	$0.1 \sim 20.6$ 対数%	"	"	X(O <sub>2</sub> )R -681-3	○
(126/7E)	G16002	No.2 Na 加熱器燃焼ガス O <sub>2</sub> 濃度	—	"	"	"	" -681-4	○
(127/7F)	G16011	No.1 Na 加熱器煙濃度	—	$0 \sim 5$ 度	"	"	X(Sm)R -681-1	○

## マルチプレクサ入力一覧表

(5/32)

MPX No.	TAG No.	名称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
128 (80)	G16012	№2 Na 加熱器煙濃度	—	0 ~ 5 度	1 ~ 5 V	400~2000	SmR-681-4	○
129 (81)	P17002	一次系ポンプ・オーバ・フロータンクカバーガス圧力	—	-1~2 <sup>kg/cm<sup>2</sup>g</sup>	"	"	PIC-702	
130 (82)	P17003	二次系 "	—	"	"	"	"-703	
131 (83)	P17004	IHX カバーガス圧力	—	"	"	"	PIA-704	
132 (84)	F17002	一次循環ポンプ・シールガス流量	—	0~0.3 m <sup>3</sup> /h	"	"	FICA-702	○
133 (85)	F17003	二次 " " "	—	"	"	"	"-703	○
134 (86)	T12013	二次系コールド・トラップ底部 Na 温度	—	0 ~ 600 °C	"	"	"-213	○
135 (87)	T12015	二次系エコノマイザ出口 Na 温度	—	"	"	"	TRA-284-2	○
136 (88)	T12012	二次系コールド・トラップ入口 Na 温度	—	"	"	"	"-284-3	○
137 (89)	T12014	二次系 " 出口 Na 温度	—	"	"	"	"-284-5	○
138 (8A)	F12008	二次系エコノマイザ入口 Na 流量	—	0 ~ 20 T/h	"	"	FIC-208	
139 (8B)	F13009	SG 冷却用所内蒸気流量	—	0 ~ 6 "	"	"	FI-309	○
140 (8C)	T50004	ACS 空気冷却器伝熱管温度	51	0 ~ 600 °C	"	"	TE-H1M	○
141 (8D)	T27031	SH 起動時タービン昇温用バイパスライン蒸気温度	—	"	"	"		○
142 (8E)	P27031	蒸気圧力 "	—	0~200 <sup>kg/cm<sup>2</sup>g</sup>	"	"		○
143 (8F)	F27031	蒸気流量 "	—	0~20 T/h	"	"		○
144 (90)	W13001	復水器出口電導度	—	0~10 μS/cm	4~20mA	"	CRA-321-1	○
145 (91)	P27032	水・蒸気系 SH バイパス流量計差圧	—	0~17580 <sup>mmH<sub>2</sub>O</sup>	"	"	FT17-1	○
146 (92)	P27007	" 圧力	—	100~150 <sup>kg/cm<sup>2</sup>g</sup>	"	"	PT17-7	○
147 (93)	W13012	SG 入口給水 PH	—	0~14 pH	"	"	PHRA-321-3	○
148 (94)	T27009	水・蒸気系 SH バイパス温度	—	300~500°C	"	"	TT17-1	○
149 (95)	T27010	水・蒸気系 SH バイパス・ミキシング・ティ出口温度	—	0~600 °C	"	"	"17-2	○
150 (96)	F23001	SH バイパス Na 流量	—	0~1200 m <sup>3</sup> /H	"	"		○
151 (97)	P26080	EV ガスキル層 Ar ガス圧力	—	-1~5 <sup>kg/cm<sup>2</sup>g</sup>	"	"		○
152 (98)	F12001	SG 出口ナトリウム流量	151	(0~5mV)m <sup>3</sup> /h 0~1200	"	"		○
153 (99)	P11012	6B (クーラー・バイパス) エルボ差圧	—	0~800 <sup>mmH<sub>2</sub>O</sup>	4~20 mA	"		○
154 (9A)	P11013	12B (一次主冷却系) 直管差圧	—	"	"	"		○
155 (9B)	P11014	" " エルボ差圧	—	"	"	"		○
156 (9C)	P12011	" (二次主冷却系) ティ・ピース差圧	—	"	"	"		○
157 (9D)	P12012	2 次系汲上げポンプ差圧	—	"	"	"		○
158 (9E)	P12013	1 次系 "	—	0~50,000 <sup>mmH<sub>2</sub>O</sup>	"	"		○
159 (9F)	P13021	給水極少流量計差圧	191	0~2,000 "	"	"		○



## マルチプレクサ入力一覧表

(6/32)

MPX No.	TAG No.	名 称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
160 (A0)	L21001	EV ダウンカマNa 液位	—	-550/250mm	4~20 mA	400~2000	LT11-1	○
161 (A1)	L21003	EV 伝熱管アニュラスNa 液位	146	"	"	"	11-3	
162 (A2)	L22001	SH ダウンカマNa 液位	—	"	"	"	12-1	○
163 (A3)	L22003	SH 伝熱管アニュラスNa 液位	144	"	"	"	12-3	○
164 (A4)	P27010	EV 給水圧力	173	$\frac{\text{kg}}{\text{cm}^2 \text{g}}$ 0~200	"	"	PT17-1	
165 (A5)	P27030	SH 出口蒸気圧力	180	"	"	"	17-3	
166 (A6)	—	—	—	—	"	"	—	○
167 (A7)	—	—	—	—	"	"	—	○
168 (A8)	G24021	EV Na 中H <sub>2</sub> 濃度	—	0~10 ppm	"	"	H <sub>2</sub> T14-2AE	○
169 (A9)	P26004	EV カバーガス圧力	—	$\frac{\text{kg}}{\text{cm}^2 \text{g}}$ -1~5	"	"	PT 16-4	
170 (AA)	G24022	SH Na 中H <sub>2</sub> 濃度	—	0~10 ppm	"	"	H <sub>2</sub> T14-2AS	○
171 (AB)	P26003	SH カバーガス圧力	—	$\frac{\text{kg}}{\text{cm}^2 \text{g}}$ -1~5	"	"	PT16-3	
172 (AC)	F21001	EV 各伝熱管流量計差圧 (# 14)	—	0~400mmAq	"	"	CCR11-1	○
173 (AD)	F21002	" (# 21)	—	"	"	"	" 11-2	○
174 (AE)	F21003	" (# 32)	—	"	"	"	" 11-3	○
175 (AF)	F21004	" (# 43)	—	"	"	"	" 11-4	○
176 (BB0)	F21005	" (# 53)	—	"	"	"	" 11-5	○
177 (B1)	F21006	" (# 67)	—	"	"	"	" 11-6	○
178 (B2)	P27012	EV 入口給水~出口蒸気差圧	—	-1~5 $\frac{\text{kg}}{\text{cm}^2}$	"	"	PdT17-1	○
179 (B3)	P27020	ドラム圧力 (EV 出口蒸気圧力)	178	0~200 $\frac{\text{kg}}{\text{cm}^2}$	"	"	PT 17-2	○
180 (B4)	P27021	SH 入口~出口蒸気差圧	—	-1~15 $\frac{\text{kg}}{\text{cm}^2}$	"	"	PdT17-2	○
181 (B5)	T27011	EV 出口蒸気温度 (RTD)	179	0~500 °C	"	"	176 M	○
182 (B6)	T27012	"	—	"	"	"	176 M	○
183 (B7)	T27013	SH 出口蒸気温度 (RTD)	—	"	"	"	176 M	○
184 (B8)	T27014	"	—	"	"	"	176 M	○
185 (B9)	F51002	ACS 空気冷却器入口空気風速分布 (1)	19	0~2 m/s 0~10	"	"	ASE-1	○
186 (BA)	F51003	" (2)	20	"	"	"	" -2	○
187 (BB)	F51004	" 出口空気風速分布 (1)	8	0~2 m/s 0~20	"	"	" -3	○
188 (BC)	F51005	" (2)	9	"	"	"	" -4	○
189 (BD)	F51006	" (3)	10	"	"	"	" -5	○
190 (BE)	F51007	" (4)	11	"	"	"	" -6	○
191 (BF)	—	—	—	—	—	—	—	

## マルチプレクサ入力一覧表

(7/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録 順 序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変 更 履 歴
192 (C0)	T21229	EV伝熱管出口蒸気温度(#52)	—	0~600℃	0~25mV	0~2000	E4-1	○
193 (C1)	T21230	" (#54)	—	"	"	"	" 2	○
194 (C2)	T21231	" (#56)	—	"	"	"	" 3 (E4-1)	○
195 (C3)	T21232	" (#35)	—	"	"	"	E4-4	○
196 (C4)	T21233	" (#21)	—	"	"	"	" 5	○
197 (C5)	T21234	" (#22)	—	"	"	"	" 6	○
198 (C6)	T21235	" (#23)	—	"	"	"	" 7	○
199 (C7)	T21223	EV外部シュラウドArガス温度 (53.5°, NL-1261.3)	—	"	"	"	E2-G-01	○
200 (C8)	T21236	EV伝熱管出口蒸気温度(#24)	—	"	"	"	E4-8	○
201 (C9)	T21237	" (#25)	—	"	"	"	" 9 (E4-2)	○
202 (CA)	T21238	" (#31)	—	"	"	"	E4-10	○
203 (CB)	T21224	EV外部シュラウドArガス温度 (53.5°, NL-3521.3)	—	"	"	"	E2-G-02	○
204 (CC)	T21239	EV伝熱管出口蒸気温度(#32)	—	"	"	"	E4-11	○
205 (CD)	T21240	" (#33)	—	"	"	"	" 12 (E4-3)	○
206 (CE)	T21241	" (#34) メンテナンス技術実証試験でプラグ	—	"	"	"	E4-13	○
207 (CF)	T21242	" (#14)	—	"	"	"	" 14	○
208 (D0)	T21243	" (#41)	—	"	"	"	" 15	○
209 (D1)	T21225	EV外部シュラウドArガス温度 (53.5°, NL-3521.3)	—	"	"	"	E2-G-03	○
210 (D2)	T21244	EV伝熱管出口蒸気温度(#42)	—	"	"	"	E4-16	○
211 (D3)	T21245	" (#43)	—	"	"	"	" 17	○
212 (D4)	T21246	" (#44)	—	"	"	"	" 18 (E4-4)	○
213 (D5)	T21247	" (#45)	—	"	"	"	E4-19	○
214 (D6)	T21248	" (#46)	—	"	"	"	" 20	○
215 (D7)	T21249	" (#51)	—	"	"	"	" 21	○
216 (D8)	T21250	" (#11) メンテナンス技術実証試験でプラグ	—	"	"	"	" 22	○
217 (D9)	T21251	" (#53)	—	"	"	"	" 23	○
218 (DA)	T21252	" (#12)	—	"	"	"	" 24 (E4-5)	○
219 (DB)	T21253	" (#55)	—	"	"	"	E4-25	○
220 (DC)	T21254	" (#13)	—	"	"	"	" 26	○
221 (DD)	T21255	" (#61)	—	"	"	"	" 27	○
222 (DE)	T21256	" (#62)	—	"	"	"	" 28	○
223 (DF)	T21257	" (#63)	—	"	"	"	" 29	○

## マルチプレクサ入力一覧表

( 8 / 32 )

MPX No.	TAG No.	名 称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
224 (E0)	T21258	EV伝熱管出口蒸気温度(# 64)	—	0~600℃	0~25mV	0~2000	E4-30 (E4-6)	○
225 (E1)	T21259	" (# 65)	—	"	"	"	E4-31	○
226 (E2)	T21226	EV外部シュラウドArシールド壁温 (53.5°, NL-1261.3)	—	"	"	"	E2-G-04	○
227 (E3)	T21260	EV伝熱管出口蒸気温度(# 66)	—	"	"	"	E4-32	○
228 (E4)	T21261	" (# 67)	—	"	"	"	" 33	○
229 (E5)	T21262	EV給水ヘッダ内給水温度(45°方向)	174	"	"	"	" 39	○
230 (E6)	T21263	" (225°方向)	—	"	"	"	" 40	○
231 (E7)	—	—	—	—	—	—	—	○
232 (E8)	—	—	—	—	—	—	—	○
233 (E9)	—	—	—	—	—	—	—	○
234 (EA)	—	—	—	—	—	—	—	○
235 (EB)	—	—	—	—	—	—	—	○
236 (EC)	—	—	—	—	—	—	—	○
237 (ED)	—	—	—	—	—	—	—	○
238 (EE)	—	—	—	—	—	—	—	○
239 (EF)	—	—	—	—	—	—	—	○
240 (F0)	—	—	—	—	—	—	—	○
241 (F1)	—	—	—	—	—	—	—	○
242 (F2)	—	—	—	—	—	—	—	○
243 (F3)	—	—	—	—	—	—	—	○
244 (F4)	—	—	—	—	—	—	—	○
245 (F5)	—	—	—	—	—	—	—	○
246 (F6)	—	—	—	—	—	—	—	○
247 (F7)	—	—	—	—	—	—	—	○
248 (F8)	T21227	EV外部シュラウドArシールド壁温 (53.5°, NL-3521.3)	—	0~600℃	0~25mV	0~2000	E2-G-05	○
249 (F9)	—	—	—	—	—	—	—	○
250 (FA)	—	—	—	—	—	—	—	○
251 (FB)	—	—	—	—	—	—	—	○
252 (FC)	—	—	—	—	—	—	—	○
253 (FD)	—	—	—	—	—	—	—	○
254 (FE)	T21228	EV外部シュラウドArシールド壁温 (53.5°, NL-5781.3) T/C不調な場合あり	—	0~600℃	0~25mV	0~2000	E2-G-06	○
255 (FF)	—	—	—	—	—	—	—	○

マルチプレクサ入力一覧表

(9/32)

MPX No.	TAG No.	名 称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
256 (100)	-	-	-					○
257 (101)	-	-	-					○
258 (102)	-	-	-					○
259 (103)	-	-	-					○
260 (104)	-	-	-					○
261 (105)	-	-	-					○
262 (106)	-	-	-					○
263 (107)	-	-	-					○
264 (108)	-	-	-					○
265 (109)	-	-	-					○
266 (10A)	-	-	-					○
267 (10B)	-	-	-					○
268 (10C)	-	-	-					○
269 (10D)	-	-	-					○
270 (10E)	-	-	-					○
271 (10F)	-	-	-					○
272 (110)	-	-	-					○
273 (111)	-	-	-					○
274 (112)	-	-	-					○
275 (113)	-	-	-					○
276 (114)	-	-	-					○
277 (115)	-	-	-					○
278 (116)	-	-	-					○
279 (117)	-	-	-					○
280 (118)	-	-	-					○
281 (119)	-	-	-					○
282 (11A)	-	-	-					○
283 (11B)	-	-	-					○
284 (11C)	-	-	-					○
285 (11D)	-	-	-					○
286 (11E)	-	-	-					
287 (11F)	-	-	-					

## マルチプレクサ入力一覧表

(10/32)

MPX No.	TAG No.	名 称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX 力	AD出力	計器番号	変更履歴
288 (120)	—	—	—	0~600℃	0~25mV	0~2000		○
289 (121)	—	—	—	"	"	"		○
290 (122)	—	—	—	"	"	"		○
291 (123)	—	—	—	"	"	"		○
292 (124)	—	—	—	"	"	"		○
293 (125)	—	—	—	"	"	"		○
294 (126)	—	—	—	"	"	"		○
295 (127)	—	—	—	"	"	"		○
296 (128)	—	—	—	"	"	"		○
297 (129)	—	—	—	"	"	"		○
298 (12A)	—	—	—	"	"	"		○
299 (12B)	—	—	—	"	"	"		○
300 (12C)	—	—	—	"	"	"		○
301 (12D)	—	—	—	"	"	"		○
302 (12E)	—	—	—	"	"	"		○
303 (12F)	—	—	—	"	"	"		○
304 (130)	—	—	—	"	"	"		○
305 (131)	—	—	—	"	"	"		○
306 (132)	—	—	—	"	"	"		○
307 (133)	—	—	—	"	"	"		○
308 (134)	—	—	—	"	"	"		○
309 (135)	—	—	—	"	"	"		○
310 (136)	—	—	—	"	"	"		○
311 (137)	—	—	—	"	"	"		○
312 (138)	—	—	—	"	"	"		○
313 (139)	—	—	—	"	"	"		○
314 (13A)	—	—	—	"	"	"		○
315 (13B)	—	—	—	"	"	"		○
316 (13C)	—	—	—	"	"	"		○
317 (13D)	—	—	—	"	"	"		○
318 (13E)	—	—	—	"	"	"		○
319 (13F)	—	—	—	"	"	"		○

## マルチプレクサ入力一覧表

(11/32)

MPX No.	TAG No.	名 称	ACSLOG MT集録 順 序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変 更 履 歴
320 (140)	—	—	—	0~600℃	0~25 mV	0~2000		○
321 (141)	—	—	—	"	"	"		○
322 (142)	—	—	—	"	"	"		○
323 (143)	—	—	—	"	"	"		○
324 (144)	—	—	—	"	"	"		○
325 (145)	—	—	—	"	"	"		○
326 (146)	—	—	—	"	"	"		○
327 (147)	—	—	—	"	"	"		○
328 (148)	—	—	—	"	"	"		○
329 (149)	—	—	—	"	"	"		○
330 (14A)	—	—	—	"	"	"		○
331 (14B)	—	—	—	"	"	"		○
332 (14C)	—	—	—	"	"	"		○
333 (14D)	—	—	—	"	"	"		○
334 (14E)	—	—	—	"	"	"		○
335 (14F)	—	—	—	"	"	"		○
336 (150)	—	—	—	"	"	"		○
337 (151)	—	—	—	"	"	"		○
338 (152)	—	—	—	"	"	"		○
339 (153)	—	—	—	"	"	"		○
340 (154)	—	—	—	"	"	"		○
341 (155)	—	—	—	"	"	"		○
342 (156)	—	—	—	"	"	"		○
343 (157)	—	—	—	"	"	"		○
344 (158)	—	—	—	"	"	"		○
345 (159)	—	—	—	"	"	"		○
346 (15A)	—	—	—	"	"	"		○
347 (15B)	—	—	—	"	"	"		○
348 (15C)	—	—	—	"	"	"		○
349 (15D)	—	—	—	"	"	"		○
350 (15E)	—	—	—	"	"	"		○
351 (15F)	—	—	—	"	"	"		○

## マルチプレクサ入力一覧表

(12/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録 順 序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変 更 履 歴
352 (160)	—	—	—	0～600℃	0～25mV	0～2000		○
353 (161)	—	—	—	"	"	"		○
354 (162)	—	—	—	"	"	"		○
355 (163)	—	—	—	"	"	"		○
356 (164)	—	—	—	"	"	"		○
357 (165)	—	—	—	"	"	"		○
358 (166)	—	—	—	"	"	"		○
359 (167)	—	—	—	"	"	"		○
360 (168)	—	—	—	"	"	"		○
361 (169)	—	—	—	"	"	"		○
362 (16A)	—	—	—	"	"	"		○
363 (16B)	—	—	—	"	"	"		○
364 (16C)	—	—	—	"	"	"		○
365 (16D)	—	—	—	"	"	"		○
366 (16E)	—	—	—	"	"	"		○
367 (16F)	—	—	—	"	"	"		○
368 (170)	—	—	—	"	"	"		○
369 (171)	—	—	—	"	"	"		○
370 (172)	—	—	—	"	"	"		○
371 (173)	—	—	—	"	"	"		○
372 (174)	—	—	—	"	"	"		○
373 (175)	—	—	—	"	"	"		○
374 (176)	—	—	—	"	"	"		○
375 (177)	—	—	—	"	"	"		○
376 (178)	—	—	—	"	"	"		○
377 (179)	—	—	—	"	"	"		○
378 (17A)	—	—	—	"	"	"		○
379 (17B)	—	—	—	"	"	"		○
380 (17C)	—	—	—	"	"	"		○
381 (17D)	—	—	—	"	"	"		○
382 (17E)	—	—	—	"	"	"		○
383 (17F)	—	—	—	"	"	"		○

## マルチプレクサ入力一覧表

(13/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録 順 序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変 更 履 歴
384 (180)	—	—	—	0~600℃	0~25 mV	0~2000		○
385 (181)	—	—	—	"	"	"		○
386 (182)	—	—	—	"	"	"		○
387 (183)	—	—	—	"	"	"		○
388 (184)	—	—	—	"	"	"		○
389 (185)	—	—	—	"	"	"		○
390 (186)	—	—	—	"	"	"		○
391 (187)	—	—	—	"	"	"		○
392 (188)	—	—	—	"	"	"		○
393 (189)	—	—	—	"	"	"		○
394 (18A)	—	—	—	"	"	"		○
395 (18B)	—	—	—	"	"	"		○
396 (18C)	B10011	測温抵抗体 Gr. 1 零接点補償 1.1	—	0 ~ 50 °C	"	"		
397 (18D)	B10012	" 1.2	—	"	"	"		
398 (18E)	B10013	" 1.3	—	"	"	"		
399 (18F)	B10014	" 1.4	—	0 ~ 50 °C	"	"		
400 (190)	T50005	ACS空気冷却器入口ヘッダーNa温度(1)	52	0~600℃	"	"	TE-A 01	○
401 (191)	T50006	" (2)	53	"	"	"	" - A 02	○
402 (192)	—	—	—	"	"	"		○
403 (193)	T50008	ACS空気冷却器出口ヘッダーNa温度(2)	55	"	"	"	TE-A 04	○
404 (194)	T50009	ACS空気冷却器伝熱管上部Uバンド部温度(1)	12	"	"	"	" - A 05	○
405 (195)	T50010	" (2)	13	"	"	"	" - A 06	○
406 (196)	T50011	" (3)	14	"	"	"	" - A 07	○
407 (197)	T50012	" (4)	15	"	"	"	" - A 08	○
408 (198)	T50013	" (5)	16	"	"	"	" - A 09	○
409 (199)	T50014	" (6)	17	"	"	"	" - A 10	○
410 (19A)	T50015	" (7)	18	"	"	"	" - A 11	○
412 (19B)	T50016	ACS空気冷却器伝導管中段Uバンド部温度(1)	22	"	"	"	" - A 12	○
413 (19C)	T50017	" (2)	23	"	"	"	" - A 13	○
414 (19D)	T50018	" (3)	24	"	"	"	" - A 14	○
415 (19E)	T50019	" (4)	25	"	"	"	" - A 15	○
416 (19F)	T50020	" (5)	26	"	"	"	" - A 16	○



## マルチプレクサ入力一覧表

(14/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録 順 序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変 更 履 歴
416 (1A0)	T50021	ACS 空気冷却器 伝熱管中段Uベンド部温度 (6)	27	0~600℃	0~25 mV	0~2000	TE-A17	○
417 (1A1)	T50022	" (7)	28	"	"	"	" - A18	○
418 (1A2)	T50023	ACS 空気冷却器 伝熱管下段Uベンド部温度 (1)	34	"	"	"	" - A19	○
419 (1A3)	T50024	" (2)	35	"	"	"	" - A20	○
420 (1A4)	T50025	" (3)	36	"	"	"	" - A21	○
421 (1A5)	T50026	" (4)	37	"	"	"	" - A22	○
422 (1A6)	T50027	" (5)	38	"	"	"	" - A23	○
423 (1A7)	T50028	" (6)	39	"	"	"	" - A24	○
424 (1A8)	T50029	" (7)	40	"	"	"	" - A25	○
425 (1A9)	T51003	ACS 空気冷却器 架構, 支持梁温度 (1)	87	"	"	"	" - A26	○
426 (1AA)	T51004	" (2)	88	"	"	"	" - A27	○
427 (1AB)	T51005	" (3)	89	"	"	"	" - A28	○
428 (1AC)	T51106	ACS 空気冷却器出口空気温度	41	"	"	"	" - A29	○
429 (1AD)	T51007	" 入口 "	31	"	"	"	" - A30	○
430 (1AE)	T51008	ACS 空気冷却器出口空気温度分布 (1)	92	"	"	"	" - A31	○
431 (1AF)	T51009	" (2)	93	"	"	"	" - A32	○
432 (1B0)	T51010	" (3)	94	"	"	"	" - A33	○
433 (1B1)	T51011	" (4)	95	"	"	"	" - A34	○
434 (1B2)	T51012	" (5)	101	"	"	"	" - A35	○
435 (1B3)	T51013	" (6)	102	"	"	"	" - A36	○
436 (1B4)	T51014	" (7)	103	"	"	"	" - A37	○
437 (1B5)	T51015	" (8)	104	"	"	"	" - A38	○
438 (1B6)	T51016	" (9)	56	"	"	"	" - A39	○
439 (1B7)	T51017	" (10)	57	"	"	"	" - A40	○
440 (1B8)	T51018	" (11)	58	"	"	"	" - A41	○
441 (1B9)	T51019	" (12)	59	"	"	"	" - A42	○
442 (1BA)	T51020	" (13)	65	"	"	"	" - A43	○
443 (1BB)	T51021	" (14)	66	"	"	"	" - A44	○
444 (1BC)	T51022	" (15)	67	"	"	"	" - A45	○
445 (1BD)	T51023	" (16)	68	"	"	"	" - A46	○
446 (1BE)	T51024	ACS 空気冷却器 有効伝熱部上段空気温度分布 (1)	96	"	"	"	" - A47	○
447 (1BF)	T51025	" (2)	97	"	"	"	" - A48	○

## マルチプレクサ入力一覧表

(15/32)

MPX No.	TAG No.	名 称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
448 (1C0)	T51026	ACS 空気冷却器 有効伝熱部上段空気温度分布 (3)	98	0~600℃	0~25 mV	0~2000	TE-A 49	○
449 (1C1)	T51027	" (4)	99	"	"	"	" - A 50	○
450 (1C2)	T51028	" (5)	100	"	"	"	" - A 51	○
451 (1C3)	T51029	ACS 空気冷却器 有効伝熱部中段空気温度分布 (1)	105	"	"	"	" - A 52	○
452 (1C4)	T51030	" (2)	106	"	"	"	" - A 53	○
453 (1C5)	T51031	" (3)	107	"	"	"	" - A 54	○
454 (1C6)	T51032	" (4)	108	"	"	"	" - A 55	○
455 (1C7)	T51033	" (5)	109	"	"	"	" - A 56	○
456 (1C8)	T51034	ACS 空気冷却器 有効伝熱部下段空気温度分布 (1)	60	"	"	"	" - A 57	○
457 (1C9)	T51035	" (2)	61	"	"	"	" - A 58	○
458 (1CA)	T51036	" (3)	62	"	"	"	" - A 59	○
459 (1CB)	T51037	" (4)	63	"	"	"	" - A 60	○
460 (1CC)	T51038	" (5)	64	"	"	"	" - A 61	○
461 (1CD)	T51039	ACS 空気冷却器バイパス防止板外 空気温度 (Na ヘッド側)	74	"	"	"	" - A 62	○
462 (1CE)	T51040	" (2)	75	"	"	"	" - A 63	○
463 (1CF)	T51041	" (3)	76	"	"	"	" - A 64	○
464 (1D0)	T51042	" (4)	77	"	"	"	" - A 65	○
465 (1D1)	T51043	ACS 空気冷却器バイパス防止板外 空気温度 (Na ヘッド反対側)	83	"	"	"	" - A 66	○
466 (1D2)	T51044	" (2)	84	"	"	"	" - A 67	○
467 (1D3)	T51045	" (3)	85	"	"	"	" - A 68	○
468 (1D4)	T51046	" (4)	86	"	"	"	" - A 69	○
469 (1D5)	T51047	ACS 空気冷却器入口空気温度分布 (1)	32	"	"	"	" - A 70	○
470 (1D6)	T51048	" (2)	33	"	"	"	" - A 71	○
471 (1D7)	T50030	ACS 空気冷却器 入口ヘッド付根部伝熱管温度 (1)	1	"	"	"	" - A 72	○
472 (1D8)	T50031	" (2)	2	"	"	"	" - A 73	○
473 (1D9)	T50032	" (3)	3	"	"	"	" - A 74	○
474 (1DA)	T50033	" (4)	4	"	"	"	" - A 75	○
475 (1DB)	T50034	" (5)	5	"	"	"	" - A 76	○
476 (1DC)	T50035	" (6)	6	"	"	"	" - A 77	○
477 (1DD)	T50036	" (7)	7	"	"	"	" - A 78	○
478 (1DE)	T50037	ACS 空気冷却器 出口ヘッド付根部伝熱管温度 (1)	44	"	"	"	" - A 79	○
479 (1DF)	T50038	" (2)	45	"	"	"	" - A 80	○

## マルチプレクサ入力一覧表

(16/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録 順 序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変 更 履 歴
480 (1E0)	T50039	ACS空気冷却器 出口ヘッダ付根部伝熱管温度 (3)	46	0~600℃	0~25 mV	0~2000	TE-A 81	○
481 (1E1)	T50040	" (4)	47	"	"	"	-A 82	○
482 (1E2)	T50041	" (5)	48	"	"	"	-A 83	○
483 (1E3)	T50042	" (6)	49	"	"	"	-A 84	○
484 (1E4)	T50043	" (7)	50	"	"	"	-A 85	○
485 (1E5)	T51049	ACS空気冷却器架構, 支持梁温度 (1)	69	"	"	"	-A 86	○
486 (1E6)	T51050	" (2)	70	"	"	"	-A 87	○
487 (1E7)	T51051	" (3)	71	"	"	"	-A 88	○
488 (1E8)	T51052	" (4)	72	"	"	"	-A 89	○
489 (1E9)	T51053	" (5)	73	"	"	"	-A 90	○
490 (1EA)	T51054	" (6)	78	"	"	"	-A 91	○
491 (1EB)	T51055	" (7)	79	"	"	"	-A 92	○
492 (1EC)	T51056	" (8)	80	"	"	"	-A 93	○
493 (1ED)	T51057	ACS空気冷却器入口ダクト壁温度 (1)	90	"	"	"	-A 94	○
494 (1EE)			-	"	"	"		○
495 (1EF)	T51059	ACS空気冷却器出口ダクト壁温度 (1)	81	"	"	"	TE-A 96	○
496 (1F0)	T51060	" (2)	82	"	"	"	-A 97	○
497 (1F1)	T50044	ACS ミキシングティ-入口 (12 B) Na 温度	161	"	"	"	-M 01	○
498 (1F2)	T50045	" (6 B) "	164	"	"	"	-M 02	○
499 (1F3)	T50046	ACS ミキシングティ-出口 Na 温度 (1)	110	"	"	"	-M 03	○
500 (1F4)	T50047	" (2)	111	"	"	"	-M 04	○
501 (1F5)	T50048	" (3)	112	"	"	"	-M 05	○
502 (1F6)	T50049	" (4)	113	"	"	"	-M 06	○
503 (1F7)	T50050	" (5)	114	"	"	"	-M 07	○
504 (1F8)	T50051	" (6)	115	"	"	"	-M 08	○
505 (1F9)	T50052	ACS ミキシングティ-出口管壁温度 (1)	116	"	"	"	-M 09	○
506 (1FA)	T50053	" (2)	117	"	"	"	-M 10	○
507 (1FB)	T50054	" (3)	118	"	"	"	-M 11	○
508 (1FC)	T50055	" (4)	119	"	"	"	-M 12	○
509 (1FD)	T50056	" (5)	120	"	"	"	-M 13	○
510 (1FE)	T50057	" (6)	121	"	"	"	-M 14	○
511 (1FF)	T50007	ACS空気冷却器出口ヘッダNa 温度 (1)	54	"	"	"	-A 03	○

## マルチプレクサ入力一覧表

(17/32)

MPX No.	TAG No.	名 称	ACSLOG MT集録 順 序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変 更 履 歴
512 (200)	—	—	—	0～600℃	0～25 mV	0～2000		○
513 (201)	—	—	—	"	"	"		○
514 (202)	—	—	—	"	"	"		○
515 (203)	—	—	—	"	"	"		○
516 (204)	—	—	—	"	"	"		○
517 (205)	—	—	—	"	"	"		○
518 (206)	—	—	—	"	"	"		○
519 (207)	—	—	—	"	"	"		○
520 (208)	—	—	—	"	"	"		○
521 (209)	—	—	—	"	"	"		○
522 (20A)	—	—	—	"	"	"		○
523 (20B)	—	—	—	"	"	"		○
524 (20C)	—	—	—	"	"	"		○
525 (20D)	—	—	—	"	"	"		○
526 (20E)	T13019	SG冷却補助蒸気温度	—	"	"	"	TE-319	○
527 (20F)	T51058	ACS 空気冷却器入口ダクト壁温度 (2)	91	"	"	"	-A95	○
528 (210)	T51061	" 出口空気温度	201	"	"	"	-A100	○
529 (211)	T51062	" 出口ダクト空気温度 (1)	202	"	"	"	-A101	○
530 (212)	T51063	" " (2)	203	"	"	"	-A102	○
531 (213)	T51064	" " (3)	204	"	"	"	-A103	○
532 (214)	T51065	" " (4)	205	"	"	"	-A104	○
533 (215)	T51066	" " (5)	206	"	"	"	-A105	○
534 (216)	T51067	" " (6)	207	"	"	"	-A106	○
535 (217)	T51068	" 出口ダクト壁温度 (1)	208	"	"	"	-A107	○
536 (218)	T51069	" " (2)	209	"	"	"	-A108	○
537 (219)	T51070	" " (3)	210	"	"	"	-A109	○
538 (21A)	T51071	" " (4)	211	"	"	"	-A110	○
539 (21B)	T51072	" " (5)	212	"	"	"	-A111	○
540 (21C)	T51073	" 出口ダクト空気温度 (7)	213	"	"	"	-A112	○
541 (21D)	T51074	" " (8)	214	"	"	"	-A113	○
542 (21E)	T51075	" " (9)	215	"	"	"	-A114	○
543 (21F)	T51076	" 出口ダクト壁温度 (6)	216	"	"	"	-A115	○

## マルチプレクサ入力一覧表

(18/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録 順 序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変 更 履 歴
544 (220)	T51077	ACS 空気冷却器伝熱管温度	217	0 ~ 600℃	0 ~ 25 mV	0 ~ 2000		○
545 (221)	—	—	—	〃	〃	〃		○
546 (222)	—	—	—	〃	〃	〃		○
547 (223)	—	—	—	〃	〃	〃		○
548 (224)	—	—	—	〃	〃	〃		○
549 (225)	—	—	—	〃	〃	〃		○
550 (226)	—	—	—	〃	〃	〃		○
551 (227)	—	—	—	〃	〃	〃		○
552 (228)	—	—	—	〃	〃	〃		○
553 (229)	—	—	—	〃	〃	〃		○
554 (22A)	—	—	—	〃	〃	〃		○
555 (22B)	—	—	—	〃	〃	〃		○
556 (22C)	—	—	—	〃	〃	〃		○
557 (22D)	—	—	—	〃	〃	〃		○
558 (22E)	—	—	—	〃	〃	〃		○
559 (22F)	—	—	—	〃	〃	〃		○
560 (230)	—	—	—	〃	〃	〃		○
561 (231)	—	—	—	〃	〃	〃		○
562 (232)	—	—	—	〃	〃	〃		○
563 (233)	—	—	—	〃	〃	〃		○
564 (234)	—	—	—	〃	〃	〃		○
565 (235)	—	—	—	〃	〃	〃		○
566 (236)	—	—	—	〃	〃	〃		○
567 (237)	—	—	—	〃	〃	〃		○
568 (238)	—	—	—	〃	〃	〃		○
569 (239)	—	—	—	〃	〃	〃		○
570 (23A)	—	—	—	〃	〃	〃		○
571 (23B)	—	—	—	〃	〃	〃		○
572 (23C)	—	—	—	〃	〃	〃		○
573 (23D)	—	—	—	〃	〃	〃		○
574 (23E)	—	—	—	〃	〃	〃		○
575 (23F)	—	—	—	〃	〃	〃		○

## マルチプレクサ入力一覧表

(19/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録 順 序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変 更 履 歴
576 (240)	—	—	—	0～600℃	0～25mV	0～2000		○
577 (241)	—	—	—	"	"	"		○
578 (242)	—	—	—	"	"	"		○
579 (243)	—	—	—	"	"	"		○
580 (244)	—	—	—	"	"	"		○
581 (245)	—	—	—	"	"	"		○
582 (246)	—	—	—	"	"	"		○
583 (247)	—	—	—	"	"	"		○
584 (248)	—	—	—	"	"	"		○
585 (249)	—	—	—	"	"	"		○
586 (24A)	—	—	—	"	"	"		○
587 (24B)	—	—	—	"	"	"		○
588 (24C)	—	—	—	"	"	"		○
589 (24D)	—	—	—	"	"	"		○
590 (24E)	—	—	—	"	"	"		○
591 (24F)	—	—	—	"	"	"		○
592 (250)	—	—	—	"	"	"		○
593 (251)	—	—	—	"	"	"		○
594 (252)	—	—	—	"	"	"		○
595 (253)	—	—	—	"	"	"		○
596 (254)	—	—	—	"	"	"		○
597 (255)	—	—	—	"	"	"		○
598 (256)	—	—	—	"	"	"		○
599 (257)	—	—	—	"	"	"		○
600 (258)	—	—	—	"	"	"		○
601 (259)	—	—	—	"	"	"		○
602 (25A)	—	—	—	"	"	"		○
603 (25B)	—	—	—	"	"	"		○
604 (25C)	B10021	测温抵抗体 Gr. 2 零接点補償 2.1	—	0～50℃	"	"		
605 (25D)	B10022	" " 2.2	—	"	"	"		
606 (25E)	B10023	" " 2.3	—	"	"	"		
607 (25F)	B10024	" " 2.4	—	"	"	"		

## マルチプレクサ入力一覧表

(20/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録 順 序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変 更 履 歴
608 (260)	—	—	—	0～600℃	0～25 mV	0～2000		○
609 (261)	—	—	—	〃	〃	〃		○
610 (262)	—	—	—	〃	〃	〃		○
611 (263)	—	—	—	〃	〃	〃		○
612 (264)	—	—	—	〃	〃	〃		○
613 (265)	—	—	—	〃	〃	〃		○
614 (266)	—	—	—	〃	〃	〃		○
615 (267)	—	—	—	〃	〃	〃		○
616 (268)	—	—	—	〃	〃	〃		○
617 (269)	—	—	—	〃	〃	〃		○
618 (26A)	—	—	—	〃	〃	〃		○
619 (26B)	—	—	—	〃	〃	〃		○
620 (26C)	—	—	—	〃	〃	〃		○
621 (26D)	—	—	—	〃	〃	〃		○
622 (26E)	—	—	—	〃	〃	〃		○
623 (26F)	—	—	—	〃	〃	〃		○
624 (270)	—	—	—	〃	〃	〃		○
625 (271)	—	—	—	〃	〃	〃		○
626 (272)	—	—	—	〃	〃	〃		○
627 (273)	—	—	—	〃	〃	〃		○
628 (274)	—	—	—	〃	〃	〃		○
629 (275)	—	—	—	〃	〃	〃		○
630 (276)	—	—	—	〃	〃	〃		○
631 (277)	—	—	—	〃	〃	〃		○
632 (278)	—	—	—	〃	〃	〃		○
633 (279)	—	—	—	〃	〃	〃		○
634 (27A)	—	—	—	〃	〃	〃		○
635 (27B)	—	—	—	〃	〃	〃		○
636 (27C)	—	—	—	〃	〃	〃		○
637 (27D)	—	—	—	〃	〃	〃		○
638 (27E)	—	—	—	〃	〃	〃		○
639 (27F)	—	—	—	〃	〃	〃		○

## マルチプレクサ入力一覧表

(21/32)

MPX No.	TAG No.	名 称	ACSLOG MT集録 順 序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変 更 履 歴
640 (280)	—	—	—	0~600℃	0~25mV	0~2000		○
641 (281)	—	—	—	"	"	"		○
642 (282)	—	—	—	"	"	"		○
643 (283)	—	—	—	"	"	"		○
644 (284)	—	—	—	"	"	"		○
645 (285)	—	—	—	"	"	"		○
646 (286)	—	—	—	"	"	"		○
647 (287)	—	—	—	"	"	"		○
648 (288)	—	—	—	"	"	"		○
649 (289)	—	—	—	"	"	"		○
650 (28A)	—	—	—	"	"	"		○
651 (28B)	—	—	—	"	"	"		○
652 (28C)	—	—	—	"	"	"		○
653 (28D)	—	—	—	"	"	"		○
654 (28E)	—	—	—	"	"	"		○
655 (28F)	—	—	—	"	"	"		○
656 (290)	—	—	—	"	"	"		○
657 (291)	—	—	—	"	"	"		○
658 (292)	—	—	—	"	"	"		○
659 (293)	—	—	—	"	"	"		○
660 (294)	—	—	—	"	"	"		○
661 (295)	—	—	—	"	"	"		○
662 (296)	—	—	—	"	"	"		○
663 (297)	—	—	—	"	"	"		○
664 (298)	—	—	—	"	"	"		○
665 (299)	—	—	—	"	"	"		○
666 (29A)	—	—	—	"	"	"		○
667 (29B)	—	—	—	"	"	"		○
668 (29C)	—	—	—	"	"	"		○
669 (29D)	—	—	—	"	"	"		○
670 (29E)	—	—	—	"	"	"		○
671 (29F)	—	—	—	"	"	"		○



## マルチプレクサ入力一覧表

(22/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
672 (2A0)	—	—	—	0～600℃	0～25 mV	0～2000		○
673 (2A1)	—	—	—	"	"	"		○
674 (2A2)	—	—	—	"	"	"		○
675 (2A3)	—	—	—	"	"	"		○
676 (2A4)	—	—	—	"	"	"		○
677 (2A5)	—	—	—	"	"	"		○
678 (2A6)	—	—	—	"	"	"		○
679 (2A7)	—	—	—	"	"	"		○
680 (2A8)	—	—	—	"	"	"		○
681 (2A9)	—	—	—	"	"	"		○
682 (2AA)	—	—	—	"	"	"		○
683 (2AB)	—	—	—	"	"	"		○
684 (2AC)	—	—	—	"	"	"		○
685 (2AD)	—	—	—	"	"	"		○
686 (2AE)	—	—	—	"	"	"		○
687 (2AF)	—	—	—	"	"	"		○
688 (2B0)	—	—	—	"	"	"		○
689 (2B1)	T21211	EV蒸気出口管板下面メタル温度	—	"	"	"	E3-25	
690 (2B2)	T27006	減温器入口給水温度	—	"	"	"	TE17-6	
691 (2B3)	T22090	SH上部平板メタル温度	—	"	"	"	S3-41	
692 (2B4)	T21163	EV DNB点近傍管壁温度(# 32 上)	—	"	"	"	E1-DNB -3-1	○
693 (2B5)	T21164	" (# 32 外)	—	"	"	"	" -3-2	○
694 (2B6)	T21165	" (# 32 内)	—	"	"	"	" -3-3	○
695 (2B7)	T21166	" (# 32 上)	—	"	"	"	" -3-4	○
696 (2B8)	T21167	" (# 32 内)	—	"	"	"	" -3-5	○
697 (2B9)	T21168	" (# 32 外)	—	"	"	"	" -3-6	○
698 (2BA)	T21169	" (# 32 外)	—	"	"	"	" -3-7	○
699 (2BB)	T21170	" (# 32 上)	—	"	"	"	" -3-8	○
700 (2BC)	T21001	EV アニュラス部 Na温度(135, 3~4 層間)	—	"	"	"	E1-C-3-1	
701 (2BD)	T21002	"	—	"	"	"	" 2	
702 (2BE)	T21003	"	—	"	"	"	" 3	
703 (2BF)	T21004	" T/C絶縁劣下あり	—	"	"	"	" 4	○

## マルチプレクサ入力一覧表

(23/32)

MPX No.	TAG No.	名 称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
704 (2C0)	T21005	EVアニュラス部Na温度 (135°, 3~4層間)	—	0~600°C	0~25 mV	0~2000	E1-C-3-5	
705 (2C1)	T21006	"	—	"	"	"	"	6
706 (2C2)	T21007	"	—	"	"	"	"	7
707 (2C3)	T21008	"	—	"	"	"	"	8
708 (2C4)	T21009	"	—	"	"	"	"	9
709 (2C5)	T21010	"	—	"	"	"	"	10
710 (2C6)	T21011	"	—	"	"	"	"	11
711 (2C7)	T21012	"	—	"	"	"	"	12
712 (2C8)	T21013	"	—	"	"	"	"	13
713 (2C9)	T21014	"	—	"	"	"	"	14
714 (2CA)	T21015	"	—	"	"	"	"	15
715 (2CB)	T21016	"	—	"	"	"	"	16
716 (2CC)	T21017	"	—	"	"	"	"	17
717 (2CD)	T21018	"	—	"	"	"	"	18
718 (2CE)	T21019	"	—	"	"	"	"	19
719 (2CF)	T21020	"	—	"	"	"	"	20
720 (2D0)	T21021	EVアニュラス部Na温度 (315°, 3~4層間)	—	"	"	"	E1-A-3-1	
721 (2D1)	T21022	"	—	"	"	"	"	2
722 (2D2)	T21023	"	—	"	"	"	"	3
723 (2D3)	T21024	"	—	"	"	"	"	4
724 (2D4)	T21025	"	—	"	"	"	"	5
725 (2D5)	T21026	"	—	"	"	"	"	6
726 (2D6)	T21027	EVアニュラス部Na温度 (45°, 内部シュラウド~1層間)	—	"	"	"	E1-D-0-1	
727 (2D7)	T21028	T/C不調(絶縁不良)使用不可	—	"	"	"	"	2 ○
728 (2D8)	T21029	"	—	"	"	"	"	3
729 (2D9)	T21030	"	—	"	"	"	"	4
730 (2DA)	T21031	"	—	"	"	"	"	5
731 (2DB)	T21032	"	—	"	"	"	"	6
732 (2DC)	T21033	EVアニュラス部Na温度(45°, 2~3層間)	—	"	"	"	E1-D-2-1	
733 (2DD)	T21034	"	—	"	"	"	"	2
734 (2DE)	T21035	"	—	"	"	"	"	3
735 (2DF)	T21036	"	—	"	"	"	"	4

## マルチプレクサ入力一覧表

(24/32)

MPX No.	TAG No.	名 称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
736 (2E0)	T21037	EVアニュラス部Na温度 (45°, 2~3層間)	—	0~600°C	0~25 mV	0~2000	E1-D-2-5	
737 (2E1)	T21038	"	—	"	"	"	"	6
738 (2E2)	T21039	EVアニュラス部Na温度 (45°, 4~5層間)	—	"	"	"	E1-D-4-1	
739 (2E3)	T21040	"	—	"	"	"	"	2
740 (2E4)	T21041	"	—	"	"	"	"	3
741 (2E5)	T21042	"	—	"	"	"	"	4
742 (2E6)	T21043	"	—	"	"	"	"	5
743 (2E7)	T21044	"	—	"	"	"	"	6
744 (2E8)	T21045	EVアニュラス部Na温度 (45°, 6層~外部シュラウド間)	—	"	"	"	E1-D-6-1	
745 (2E9)	T21046	"	—	"	"	"	"	2
746 (2EA)	T21047	"	—	"	"	"	"	3
747 (2EB)	T21048	"	—	"	"	"	"	4
748 (2EC)	T21049	"	—	"	"	"	"	5
749 (2ED)	T21050	"	—	"	"	"	"	6
750 (2EE)	T21051	EVアニュラス部Na温度 (135°, 内部シュラウド~1層間)	—	"	"	"	E1-C-0-1	
751 (2EF)	T21052	"	—	"	"	"	"	2
752 (2F0)	T21053	"	—	"	"	"	"	3
753 (2F1)	T21054	T/C不調(絶縁不良)使用不可	—	"	"	"	"	4 ○
754 (2F2)	T21055	"	—	"	"	"	"	5
755 (2F3)	T21056	EVアニュラス部Na温度 (135°, 1~2層間)	—	"	"	"	"	6
756 (2F4)	T21057	"	—	"	"	"	E1-C-1-1	
757 (2F5)	T21058	"	—	"	"	"	"	2
758 (2F6)	T21059	"	—	"	"	"	"	3
759 (2F7)	T21060	"	—	"	"	"	"	4
760 (2F8)	T21061	"	—	"	"	"	"	5
761 (2F9)	T21062	"	—	"	"	"	"	6
762 (2FA)	T21063	EVアニュラス部Na温度 (135°, 2~3層間)	—	"	"	"	E1-C-2-1	
763 (2FB)	T21064	"	—	"	"	"	"	2
764 (2FC)	T21065	"	—	"	"	"	"	3
765 (2FD)	T21066	"	—	"	"	"	"	4
766 (2FE)	T21067	"	—	"	"	"	"	5
767 (2FF)	T21068	"	—	"	"	"	"	6

## マルチプレクサ入力一覧表

(25/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
768 (300)	T21069	EV アニュラス部Na 温度 (135°, 4~5層間)	—	0~600℃	0~25mV	0~2000	E1-C-4-1	
769 (301)	T21070	"	—	"	"	"	"	2
770 (302)	T21071	"	—	"	"	"	"	3
771 (303)	T21072	"	—	"	"	"	"	4
772 (304)	T21073	"	—	"	"	"	"	5
773 (305)	T21074	T/C不調(絶縁不良)使用不可	—	"	"	"	"	6 ○
774 (306)	T21075	EV アニュラス部Na 温度 (135°, 5~6層間)	—	"	"	"	E1-C-5-1	
775 (307)	T21076	"	—	"	"	"	"	2
776 (308)	T21077	"	—	"	"	"	"	3
777 (309)	T21078	"	—	"	"	"	"	4
778 (30A)	T21079	T/C絶縁劣下あり	—	"	"	"	"	5 ○
779 (30B)	T21080	"	—	"	"	"	"	6
780 (30C)	T21081	EV アニュラス部Na 温度 (135°, 6層~外部セラウド間)	—	"	"	"	E1-C-6-1	
781 (30D)	T21082	"	—	"	"	"	"	2
782 (30E)	T21083	"	—	"	"	"	"	3
783 (30F)	T21084	"	—	"	"	"	"	4
784 (310)	T21085	"	—	"	"	"	"	5
785 (311)	T21086	"	—	"	"	"	"	6
786 (312)	T21087	EV アニュラス部Na 温度 (157.5°, 内部セラウド~1層間)	—	"	"	"	E1-B-0-1	
787 (313)	T21088	"	—	"	"	"	"	2
788 (314)	T21089	"	—	"	"	"	"	3
789 (315)	T21090	"	—	"	"	"	"	4
790 (316)	T21091	"	—	"	"	"	"	5
791 (317)	T21092	"	—	"	"	"	"	6
792 (318)	T21093	EV アニュラス部Na 温度 (157.5°, 2~3層間)	—	"	"	"	E1-B-2-1	
793 (319)	T21094	"	—	"	"	"	"	2
794 (31A)	T21095	"	—	"	"	"	"	3
795 (31B)	T21096	"	—	"	"	"	"	4
796 (31C)	T21097	"	—	"	"	"	"	5
797 (31D)	T21098	"	—	"	"	"	"	6
798 (31E)	T21099	EV アニュラス部Na 温度 (157.5°, 4~5層間)	—	"	"	"	E1-B-4-1	
799 (31F)	T21100	"	—	"	"	"	"	2

## マルチプレクサ入力一覧表

(26/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
800 (320)	T21101	EV アニュラス部Na温度 (157.5°, 4~5層間)	—	0~600°C	0~25mV	0~2000	E1-B-4-3	
801 (321)	T21102	"	—	"	"	"	" 4	
802 (322)	T21103	"	—	"	"	"	" 5	
803 (323)	T21104	"	—	"	"	"	" 6	
804 (324)	T21105	EV アニュラス部Na温度 (157.5°, 6層~外部シュラウト間)	—	"	"	"	E1-B-6-1	
805 (325)	T21106	"	—	"	"	"	" 2	
806 (326)	T21107	"	—	"	"	"	" 3	
807 (327)	T21108	"	—	"	"	"	" 4	
808 (328)	T21109	"	—	"	"	"	" 5	
809 (329)	T21110	"	—	"	"	"	" 6	
810 (32A)	T21111	EV ダウンカマ下端Na温度 (135°, # 11)	—	"	"	"	E1-UC-1-1	
811 (32B)	T21112	T/C絶縁劣下あり (135°, # 35)	—	"	"	"	" 3-2	○
812 (32C)	B 10031	测温抵抗体 Gr. 3, 零接点補償 3.1	—	0~50°C	"	"		
813 (32D)	B 10032	" 3.2	—	"	"	"		
814 (32E)	B 10033	" 3.3	—	"	"	"		
815 (32F)	B 10034	" 3.4	—	"	"	"		
816 (330)	T21113	EV ダウンカマ下端Na温度 (135°, # 51)	—	0~600°C	"	"	E1-UC-5-3	
817 (331)	T21114	EV Naリングヘッド内Na温度 (315° 方向)	—	"	"	"	E1-RH-1	
818 (332)	T21115	(135° 方向)	—	"	"	"	" 2	
819 (333)	T21116	EV ダウンカマ内軸方向水温度 (# 41)	—	"	"	"	E2-21	○
820 (334)	T21117	" (# 22)	—	"	"	"	" 22	○
821 (335)	T21118	" (# 35)	—	"	"	"	" 23	○
822 (336)	T21119	" (# 46)	—	"	"	"	" 24	○
823 (337)	T21120	" (# 55)	—	"	"	"	" 25	○
824 (338)	T21121	" (# 66)	—	"	"	"	" 26	○
825 (339)	T21122	EV ダウンカマ下端水温度 (# 13)	—	"	"	"	" 27	○
826 (33A)	T21123	" (# 25)	—	"	"	"	" 28	○
827 (33B)	T21124	" (# 33)	—	"	"	"	" 29	○
828 (33C)	T21125	" (# 44)	—	"	"	"	" 30	○
829 (33D)	T21126	" (# 54)	—	"	"	"	" 31	○
830 (33E)	T21127	" (# 64)	—	"	"	"	" 32	○
831 (33F)	T21128	EV ダウンカマ部Na温度 (#51.NL-1261.3)	—	"	"	"	E2-09	○

## マルチプレクサ入力一覧表

(27/32)

MPX No.	TAG No.	名称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
832 (340)	T21129	EVダウンカメラ部Na温度 " (#51. NL-2391.3)	—	0~600℃	0~25mV	0~2000	E2-10	
833 (341)	T21130	" T/C絶縁劣下あり(#51. NL-3521.3)	—	"	"	"	" 11	
834 (342)	T21131	" (#51. NL-4651.3)	—	"	"	"	" 12	
835 (343)	T21132	" (#51. NL-5781.3)	—	"	"	"	" 13	
836 (344)	T21133	" (#51. NL-6911.3)	—	"	"	"	" 14	
837 (345)	T21134	" (#65. NL-1261.3)	—	"	"	"	" 15	
838 (346)	T21135	" (#65. NL-3521.3)	—	"	"	"	" 16	
839 (347)	T21136	" (#51. NL-1261.3)	—	"	"	"	" 17	
840 (348)	T21137	" (#51. NL-1261.3)	—	"	"	"	" 18	
841 (349)	T21138	" (#34. NL-1261.3)	—	"	"	"	" 19	
842 (34A)	T21139	" (#34. NL-3521.3)	—	"	"	"	" 20	
843 (34B)	T21140	EV外部シュラウド壁内温度 (126.5°, NL-1261.3)	—	"	"	"	" 01	
844 (34C)	T21141	" (126.5°, NL-3521.3)	—	"	"	"	" 02	
845 (34D)	T21142	" (126.5°, NL-5781.3)	—	"	"	"	" 03	
846 (34E)	T21143	EV外部シュラウド外壁温度 (126.5°, NL-1261.3)	—	"	"	"	" 04	
847 (34F)	T21144	" (126.5°, NL-3521.3)	—	"	"	"	" 05	
848 (350)	T21145	" (126.5°, NL-5781.3)	—	"	"	"	" 06	
849 (351)	T21146	EVダウンカメラ外壁温度 (#42. NL-1261.3)	—	"	"	"	" 07	
850 (352)	T21147	" (#42. NL-3521.3)	—	"	"	"	" 08	
851 (353)	T21148	内部シュラウド内Na温度 (75°, NL-1261.3)	—	"	"	"	E5-01	
852 (354)	T21149	" (75°, NL-3521.3)	—	"	"	"	" 02	
853 (355)	T21150	" (75°, NL-5781.3)	—	"	"	"	" 03	
854 (356)	T21270	EVカバーガス温度	—	"	"	"		○
855 (357)	T21271	"	—	"	"	"		○
856 (358)	T21272	"	—	"	"	"		○
857 (359)	T21273	"	—	"	"	"		○
858 (35A)	T23004	EV入口Na温度	147	"	"	"		○
859 (35B)	T21156	EVカバーガス温度	—	"	"	"		○
860 (35C)	T21193	EV上部平板下面メタル温度	—	"	"	"	E3-07	
861 (35D)	T21194	EV蒸気出口ノズルメタル温度	—	"	"	"	" 08	
862 (35E)	T21195	EV蒸気出口サーマルスリーブメタル温度	—	"	"	"	" 09	
863 (35F)	T21196	EV蒸気出口ノズルスリーブメタル温度	—	"	"	"	" 10	

## マルチプレクサ入力一覧表

(28/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
864 (360)	T21197	EV蒸気出口ノズルメタル温度	—	0~600℃	0~25 mV	0~2000	E3-11	
865 (361)	T21198	"	—	"	"	"	" 12	
866 (362)	T21180	EV DNB点近傍管壁温度 (# 67 外)	—	"	"	"	E1-DNB -6-6	
867 (363)	T21181	" (# 67 内)	—	"	"	"	" -6-7	
868 (364)	T21182	" (# 67 上)	—	"	"	"	" -6-8	
869 (365)	T21183	" (# 67 外)	—	"	"	"	" -6-9	
870 (366)	T21184	" (# 67 内)	—	"	"	"	" -6-10	
871 (367)	T21185	" (# 67 上)	—	"	"	"	" -6-11	
872 (368)	T22001	SHアニュラス部 Na 温度 (135°, 3~4層間)	—	"	"	"	S1-B-3-1	○
873 (369)	T22002	T/C 不調使用不可	—	"	"	"	" 2	○
874 (36A)	T22003	"	—	"	"	"	" 3	○
875 (36B)	T22004	"	—	"	"	"	" 4	○
876 (36C)	T22005	"	—	"	"	"	" 5	○
877 (36D)	T22006	"	—	"	"	"	" 6	○
878 (36E)	T22007	"	—	"	"	"	" 7	○
879 (36F)	T22008	"	—	"	"	"	" 8	○
880 (370)	T22009	"	—	"	"	"	" 9	○
881 (371)	T22010	"	—	"	"	"	" 10	○
882 (372)	T22011	(135°, " 3~4層間)	—	"	"	"	S1-A-3-1	○
883 (373)	T22012	"	—	"	"	"	" 2	○
884 (374)	T22013	"	—	"	"	"	" 3	○
885 (375)	T22014	"	—	"	"	"	" 4	○
886 (376)	T22015	(45°, " 3~4層間)	—	"	"	"	S1-C-3-1	○
887 (377)	T22016	"	—	"	"	"	" 2	○
888 (378)	T22017	"	—	"	"	"	" 3	○
889 (379)	T22018	"	—	"	"	"	" 4	○
890 (37A)	T22019	(135°, 内部シュラウド~1層間)	—	"	"	"	S1-B-0-1	○
891 (37B)	T22020	"	—	"	"	"	" 2	○
892 (37C)	T22021	"	—	"	"	"	" 3	
893 (37D)	T22022	"	—	"	"	"	" 4	
894 (37E)	T22023	(135°, 6層~外部シュラウド間)	—	"	"	"	S1-B-6-1	
895 (37F)	T22024	"	—	"	"	"	" 2	

## マルチプレクサ入力一覧表

(29/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録 順 序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変 更 履 歴
896 (380)	T22025	SHアニュラス部Na温度 (135°, 6層~外部シュラウド間)	—	0~600℃	0~25 mV	0~2000	S1-B-6-3	
897 (381)	T22026	"	—	"	"	"	" 4	
898 (382)	T22027	SHダウンカマ部Na温度(#35.NL-1461.3)	—	"	"	"	S2-09	
899 (383)	T22028	" (#46.NL-1461.3)	—	"	"	"	" 10	
900 (384)	T22029	" (#35.NL-2168.4)	—	"	"	"	" 11	
901 (385)	T22030	" (#54.NL-1461.3)	—	"	"	"	" 12	
902 (386)	T22031	" (#46.NL-1461.3)	—	"	"	"	" 13	
903 (387)	T22032	" (#54.NL-2168.4)	—	"	"	"	" 14	
904 (388)	T22033	" (#46.NL-1461.3)	—	"	"	"	" 15	
905 (389)	T22034	" (#46.NL-1697 )	—	"	"	"	" 16	
906 (38A)	T22035	" (#46.NL-2168.4)	—	"	"	"	" 17	
907 (38B)	T22036	" (#46.NL-2404.2)	—	"	"	"	" 18	
908 (38C)	T22037	" (#46.NL-2875.6)	—	"	"	"	" 19	
909 (38D)	T22038	" (#46.NL-3111.3)	—	"	"	"	" 20	
910 (38E)	T22039	SH外部シュラウド内壁温度 (NL-1461.3)	—	"	"	"	" 01	
911 (38F)	T22040	" (NL-2168.4)	—	"	"	"	" 02	
912 (390)	T22041	" (NL-2875.6)	—	"	"	"	" 03	
913 (391)	T22042	SH外部シュラウド外壁温度 (NL-1461.3)	—	"	"	"	" 04	
914 (392)	T22043	" (NL-2168.4)	—	"	"	"	" 05	
915 (393)	T22044	" (NL-2875.6)	—	"	"	"	" 06	
916 (394)	T22045	SHダウンカマ外壁温度 (#62.NL-1461.3)	—	"	"	"	" 07	
917 (395)	T22046	" (#62.NL-2168.4)	—	"	"	"	" 08	
918 (396)	T22047	SH内部シュラウド内Na温度 (NL-1461.3)	—	"	"	"	S5-01	
919 (397)	T22048	" (NL-2168.4)	—	"	"	"	" 02	
920 (398)	T22049	" (NL-2875.6)	—	"	"	"	" 03	
921 (399)	T22050	SH Na 入口ノズルメタル温度	—	"	"	"	S3-01	
922 (39A)	T22051	"	—	"	"	"	" 02	
923 (39B)	T22052	"	—	"	"	"	" 03	
924 (39C)	T22053	"	—	"	"	"	" 04	
925 (39D)	T22054	SH 上部平板下面メタル温度 (315°方向)	—	"	"	"	" 05	
926 (39E)	T22055	" 中央 "	—	"	"	"	" 06	
927 (39F)	T22056	" 下面 "	—	"	"	"	" 07	



## マルチプレクサ入力一覧表

(30/32)

MPX No	TAG No	名 称	ACSLOG MT集録 順 序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変 更 履 歴
928 (3A0)	T22057	SH蒸気出口ノズルメタル温度	—	0~600℃	0~25mV	0~2000	S3-08	
929 (3A1)	T22058	" サーマルスリーブメタル温度	—	"	"	"	" 09	
930 (3A2)	T22059	" ノズルメタル温度	—	"	"	"	" 10	
931 (3A3)	T22060	"	—	"	"	"	" 11	
932 (3A4)	T22061	"	—	"	"	"	" 12	
933 (3A5)	T22062	"	—	"	"	"	" 13	
934 (3A6)	T22063	"	—	"	"	"	" 14	
935 (3A7)	T22064	SH上部平板下面メタル温度	—	"	"	"	" 15	
936 (3A8)	T22065	" 中央メタル温度	—	"	"	"	" 16	
937 (3A9)	T22066	" 下面メタル温度	—	"	"	"	" 17	
938 (3AA)	T22067	SH蒸気入口ノズルメタル温度	—	"	"	"	" 18	
939 (3AB)	T22068	"	—	"	"	"	" 19	
940 (3AC)	T22069	SH蒸気入口管板側面メタル温度	—	"	"	"	" 20	
941 (3AD)	T22070	SH蒸気出口管板側面メタル温度	—	"	"	"	" 21	
942 (3AE)	T22071	"	—	"	"	"	" 22	
943 (3AF)	T22072	SH蒸気出口管板上部メタル温度	—	"	"	"	" 23	
944 (3B0)	T22073	" 中央メタル温度	—	"	"	"	" 24	
945 (3B1)	T22074	" 下面メタル温度	—	"	"	"	" 25	
946 (3B2)	T22075	" 上面メタル温度	—	"	"	"	" 26	
947 (3B3)	T22076	" "	—	"	"	"	" 27	
948 (3B4)	T22077	" 下面メタル温度	—	"	"	"	" 28	
949 (3B5)	T22083	SH蒸気入口ノズルメタル温度	—	"	"	"	" 34	
950 (3B6)	T22084	SH蒸気入口管板上部メタル温度	—	"	"	"	" 35	
951 (3B7)	T22085	"	—	"	"	"	" 36	
952 (3B8)	T22086	"	—	"	"	"	" 37	
953 (3B9)	T22087	SH蒸気入口管板中央メタル温度	—	"	"	"	" 38	
954 (3BA)	T22078	SH上部平板中央メタル温度	—	"	"	"	" 29	
955 (3BB)	T22079	"	—	"	"	"	" 30	
956 (3BC)	T22080	SH蒸気入口ノズルメタル温度	—	"	"	"	" 31	
957 (3BD)	T22081	"	—	"	"	"	" 32	
958 (3BE)	T22082	SH蒸気入口サーマルスリーブメタル温度	—	"	"	"	" 33	
959 (3BF)	T23001	SH入口Na温度	142	"	"	"	TE13-1	

## マルチプレクサ入力一覧表

(31/32)

MPX No.	TAG No.	名 称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
960 (3C0)	T23002	SH出口Na温度	145	0~600℃	0~25 mV	0~2000	TE13-2	
961 (3C1)	T23003	EV出口Na温度	150	"	"	"	" 3	
962 (3C2)	T27001	EV給水温度	171	"	"	"	TE17-1	
963 (3C3)	T27002	EV出口蒸気温度	177	"	"	"	" 2	
964 (3C4)	T27003	SH入口蒸気温度	181	"	"	"	" 3	
965 (3C5)	T27004	SH出口蒸気温度	183	"	"	"	" 4	
966 (3C6)	T21186	EV DNB点近傍管壁温度(#67外)	—	"	"	"	E1-DNB -6-12	
967 (3C7)	T21264	EVダウンカメラ内軸方向水温度(#12)	—	"	"	"	E2-33	○
968 (3C8)	T21187	EV Na入口ノズルメタル温度	—	"	"	"	E3-01	
969 (3C9)	T21188	"	—	"	"	"	" 02	
970 (3CA)	T21189	"	—	"	"	"	" 03	
971 (3CB)	T21190	"	—	"	"	"	" 04	
972 (3CC)	T21191	EV上部平板下面メタル温度	—	"	"	"	" 05	
973 (3CD)	T21192	EV上部平板中央メタル温度	—	"	"	"	" 06	
974 (3CE)	T21177	EV DNB点近傍管壁温度(#67外)	—	"	"	"	E1-DNB -6-3	
975 (3CF)	T21178	" (#67内)	—	"	"	"	" -6-4	
976 (3D0)	T21179	" (#67上)	—	"	"	"	" -6-5	
977 (3D1)	T21174	" (#32内)	—	"	"	"	" -3-12	○
978 (3D2)	T21175	" (#67内)	—	"	"	"	" -6-1	
979 (3D3)	T21176	" (#67上)	—	"	"	"	" -6-3	
980 (3D4)	T21199	EV蒸気出口ノズルメタル温度	—	"	"	"	E3-13	
981 (3D5)	T21200	" T/C絶縁不良あり	—	"	"	"	" 14	○
982 (3D6)	T21171	EV DNB点近傍管壁温度(#32内)	—	"	"	"	E1-DNB -3-9	○
983 (3D7)	T21172	" (#32外)	—	"	"	"	" -3-10	○
984 (3D8)	T21173	" (#32上)	—	"	"	"	" -3-11	○
985 (3D9)	T21157	" (#14内)	—	"	"	"	" -1-7	
986 (3DA)	T21158	" (#14外)	—	"	"	"	" -1-8	
987 (3DB)	T21159	" (#14上)	—	"	"	"	" -1-9	
988 (3DC)	T21160	" (#14内)	—	"	"	"	" -1-10	
989 (3DD)	T21161	" (#14外)	—	"	"	"	" -1-11	
990 (3DE)	T21162	" (#14上)	—	"	"	"	" -1-12	
991 (3DF)	T21201	EV上部平板メタル温度	—	"	"	"	E3-15	

## マルチプレクサ入力一覧表

(32/32)

MPX No.	TAG No.	名 称	ACSLOG MT集録順序	測定レンジ	MPX入力	AD出力	計器番号	変更履歴
992 (3E0)	T21202	EV 上部平板中央メタル温度	—	0~600℃	0~25mV	0~2000	E3-16	
993 (3E1)	T21203	"	—	"	"	"	" 17	
994 (3E2)	T21204	EV 給水入口ノズルメタル温度	—	"	"	"	" 18	
995 (3E3)	T21205	"	—	"	"	"	" 19	
996 (3E4)	T21206	EV 給水管板側面メタル温度	—	"	"	"	" 20	
997 (3E5)	T21207	EV 蒸気出口管板側面メタル温度	—	"	"	"	" 21	
998 (3E6)	T21208	"	—	"	"	"	" 22	
999 (3E7)	T21209	EV 蒸気出口管板上部メタル温度	—	"	"	"	" 23	
1000 (3E8)	T21210	EV 蒸気出口管板中央メタル温度	—	"	"	"	" 24	
1001 (3E9)	T22097	SH 伝熱管出口蒸気温度 (# 67)	—	"	"	"	S4-06	
1002 (3EA)	T21265	EV ダウンカム内軸方向水温度 (# 24)	—	"	"	"	E2-34	○
1003 (3EB)	T21266	" (# 56)	—	"	"	"	" 35	○
1004 (3EC)	T22094	SH 伝熱管出口蒸気温度 (# 32)	—	"	"	"	S4-03	
1005 (3ED)	T22095	" (# 43)	—	"	"	"	" 04	
1006 (3EE)	T22096	" (# 53)	—	"	"	"	" 05	
1007 (3EF)	T22088	SH 蒸気入口管板下面メタル温度	—	"	"	"	S3-39	
1008 (3F0)	T22089	" 管板側面メタル温度	—	"	"	"	" 40	
1009 (3F1)	T22091	" ノズルメタル温度	—	"	"	"	" 42	
1010 (3F2)	T22092	SH 伝熱管出口蒸気温度 (# 14)	—	"	"	"	S4-01	
1011 (3F3)	T22093	" (# 21)	—	"	"	"	" 02	
1012 (3F4)	T21267	EV ダウンカム内軸方向水温度 (# 42)	—	"	"	"	E2-36	○
1013 (3F5)	T21268	" (# 51)	—	"	"	"	" 37	○
1014 (3F6)	T21269	" (# 65)	—	"	"	"	" 38	○
1015 (3F7)	T21212	EV 蒸気出口管板上部メタル温度	—	"	"	"	E3-26	
1016 (3F8)	T21213	"	—	"	"	"	" 27	
1017 (3F9)	T21214	EV 蒸気出口管板下面メタル温度	—	"	"	"	" 28	
1018 (3FA)	T21215	EV 上部平板中央メタル温度	—	"	"	"	" 29	
1019 (3FB)	T21216	"	—	"	"	"	" 30	
1020 (3FC)	B10041	测温抵抗体 Gr.4 零接点補償 4.1	—	0~50℃	"	"		
1021 (3FD)	B10042	" 4.2	—	"	"	"		
1022 (3FE)	B10043	" 4.3	—	"	"	"		
1023 (3FF)	B10044	" 4.4	—	"	"	"		